

クロスカリキュラムによるねぶた授業の創造 — 題材の可能性の試行 —



弘前大学教育学部 学校教育教員養成課程

中学校教育専攻 技術選修

10p1246 山内 勇輝

論文概要

新学習指導要領の改善についての中央教育審議会の答申（2007年）によると、教育内容における主な改善事項の中に、「伝統や文化に関する教育の充実」と書かれている。このことから、新学習指導要領では伝統文化が重要視され、各教科においても伝統・文化を積極的に指導されるように求められている。よって、各県の教育委員会は、教育施策の多くに郷土の伝統・文化を取り上げられている。青森県の教育施策（2005年）は「青森県教育委員会は、豊かな心と郷土に対する誇りを持ち、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し（以下省略）」とある。そこで、青森の伝統文化であるねぶたを取り上げ、美術科、技術科のクロスカリキュラムにおける、ねぶた授業を創造（設計）することを目的とする。本研究では、ねぶた祭りを一体とした設計ではなく、ねぶた制作の技に視点を向け、クロスカリキュラム（美術科、技術科+総合的な学習の時間と特別活動）による、カリキュラム構成を目指した。

研究方法は、1.事前調査（美術科、技術科の内容整理、先行研究の調査）、2.ねぶた授業実践（小学校・特別支援学校）、3.クロスカリキュラムを想定したねぶた授業実践（高校）、4.教材の提案（過去実践調査による課題から、ねぶた授業設計（中学校））の順に研究を進めた。

1. 事前調査では、美術科・技術科の指導内容の整理、先行研究は、蛭名敦子、古川香氏の論文と京都造形芸術大学のねぶたカリキュラムの実践の考察を行なった。

2. ねぶた授業実践では、弘前市立北小学校の4年生による「だるまねぶた」制作の授業構成と実施。弘前大学教育学部附属特別支援学校の高等部による「ゆきだるまねぶた」制作の授業構成と実施を行なった。実施によって、発達段階による制作にかかる進捗や必要な道具、課題を把握した。

3. クロスカリキュラムを想定したねぶた授業実践は、「青森県立工業高等学校」にて、「クラス担ぎねぶた」制作と事後調査を行なった。当初の予定では、中学校でのクロスカリキュラムによる実践であった。しかし、中学校が通常授業の時間確保に努めている現状や新たな行事等への組み込みとしては、研究の実践を目指すために時間を借りることは、厳しい現状であった。そのため、本実践は、既にねぶた制作に積極的に取り組まれている青森県立青森工業高等学校で実践した。授業実践では、各ねぶたによる制作にかかる時間や生徒からの指摘により、必要な道具や説明の多く必要な箇所など、実践により、課題と成果が明確になった。

4. 教材の提案では、1～3の研究実践の課題を基に、中学校のクロスカリキュラムにおける授業構成・カリキュラム計画、テキストを設計した。

全ての研究調査によって、ねぶた授業の以下のような期待が持てる。

ねぶた授業は、ねぶたという文化財を知らせることは、社会性や子どもたちや郷土愛へと繋がるかけ橋となる題材であると考えられる。実際にねぶたをつくることによって、子どもたちは、ねぶたを教科に取り入れることは、「意欲が湧く」「伝統に触れるいい機会」「地元のお祭りに貢献できる」「とても嬉しい」など意見を挙げていた（青森工業高校 クラス担ぎ調査より）。これらから、子どもたちがねぶた制作を身近なものへとさせることができたと思われる。また、ねぶたの全工程を一連で教えることによって、ねぶた制作への苦勞を知り、ねぶたの価値の重みを感じることで、今後のねぶた祭への意識が変わっていくと確信できた。

はじめに

青森市の観光資源、そして重要無形民俗文化財に指定されている青森ねぶたは、今や日本全国、世界に発信され、有名なお祭りである。そして、青森ねぶたは海外遠征や海外の博物館にて披露されるなど今や芸術としても認めつつある。一方では、青森ねぶたは、後継者不足や跳人の減少など様々な問題も挙げられている。さらに、文化財である青森のねぶたは、学校現場で題材として扱っている学校はあるのかと調べてみると、実施校は数少ない。実際に実施されていても金魚ねぶたづくりなどであり、既定の型通りにつくるような作業で、創造的ではないと言える。とはいえ、ねぶたやねぶた制作は、地域やねぶた制作関係者が伝えていくものだという声もある。したがって、ねぶたの伝統やねぶたの技（伝統技法）を伝えていくことには、課題が山積みである。

筆者は、現在、ねぶた師（ねぶた制作職人）に師事しており、本場の青森ねぶた制作に携わっている。また教育学部に所属し技術科と美術科の教科教育を学んでいる。また、大学では、ねぶた・ねぶたの教育研究団体「弘前大学 教育学部「ねぶた・ねぶた」と学校教育研究プロジェクト」にも所属していた。このような経緯もあり、ねぶた制作現場と教育現場の両面から、ねぶたに関心を持ってもらうためのアプローチの仕方を考え、ねぶた授業を多くの学校現場で行なえる環境をつくる必要があるといえる。

したがって、筆者は学校現場で、多くの子どもたちにねぶたに関心をもってもらうことで、ねぶたの価値を理解し、文化への貢献をする意識への変化につながればと言う思いで、本研究に着手した。（学校現場でねぶた師を養成することを望むものではない。）

凡例 —— 本論では、以下のように省略・変換している。

- ・美術科と技術科の連携を「クロスカリキュラム」（造語）としている。
- ・「青森ねぶた祭」は「ねぶた祭」
- ・「ねぶたの山車」は「ねぶた」
- ・「弘前ねぶたまつり」は「弘前ねぶた」
- ・「ねぶたの山車」は「ねぶた」

- ・形や絵を自由に創作する作業は「制作」としている。
- ・形や絵が指定、決められた作業をする場合は「製作」としている。
- ・台を含まないねぶたの作品部を「ねぶた本体」「本体」
- ・ねぶた本体が接合される台座部を「下台」
- ・ねぶた本体と下台含めた台を「台」

- ・弘前市立北小学校を、「北小学校」「北小」としている。
- ・弘前大学教育学部 附属特別支援学校を、「特別支援」「特別支援学校」としている。
- ・青森県立青森工業高等学校を、「青森工業」としている。
- ・中学校技術・家庭科「技術分野」を「技術」としている。

目次

はじめに

第1章 研究目的・背景・方法	5
(1) 研究目的	
(2) 研究背景1 (法律・新学習指導要領・答申・条例)	
(3) 研究背景2 (青森ねぶた祭と教育)	
(4) 研究方法	
第2章 美術科・技術科・ねぶたとクロスカリキュラム	
第1節 ねぶた祭りとは	8
(1) ねぶた祭りとは	
(2) ねぶた・ねぶたの違い	
(3) 山車「ねぶた」	
第2節 美術科のカリキュラム内容	13
(1) 美術科の内容	
(2) 美術科の授業の進め方 (年間指導計画より)	
第3節 技術科のカリキュラム内容	18
(1) 技術科 (技術分野) の内容	
(2) 技術科の授業の進め方 (年間指導計画より)	
第4節 ねぶた・美術科・技術科 -双方の関連性-	22
(1) 美術科の関連性 -美術科指導内容による、ねぶた工程への分類-	
(2) 技術科の関連性 -技術科指導内容による、ねぶた工程への分類-	
(3) ねぶた・美術科・技術科・他教科への可能性 -ねぶたの道具や作業者による教科分類-	
(4) ねぶた授業の先行研究	
① 〈小学校〉 蛭名敦子、古川香 氏による「ねぶた灯籠制作」	
② 〈大学〉 京都造形芸術大学「京造ねぶたの制作」	
(5) ねぶた授業のタイプ分けとねぶたによるクロスカリキュラムの意義	
第3章 実践研究と調査結果	
第1節 弘前市立北小学校 「だるまねぶた教室」授業実践	31
(1) 授業概要・目的・研究背景	
(2) 対象学校・実践状況	
(3) 制作物・教材の開発	
(4) 指導案 (指導計画)	
(5) 実践記録	
(6) 配布道具・物品	
(7) 考察 -実践を通して-	
第2節 弘前大学教育学部 附属特別支援学校 高等部「ゆきだるまねぶた」授業実践	47
(1) 授業概要・目的・研究背景	
(2) 対象学校・実践状況	
(3) 制作物・教材の開発	
(4) 指導案 (指導計画)	

- (5) 実践記録
- (6) 配布道具・物品
- (7) 実践におけるねぶた制作への意識
- (8) 考察 -実践と調査を通して-

第4章 クロスカリキュラムを想定した実践研究と調査結果

第1節 青森県立青森工業高等学校「クラス担ぎねぶた」講習実践 62

- (1) 対象学校のねぶた活動の紹介
 - ①文化祭 クラスねぶたの制作・公開
 - ②課題研究でのねぶたを活かした研究
 - ③ねぶた部 担ぎねぶた制作・運行
- (2) 授業概要・目的・意義
- (3) 対象学校・実践状況・全体計画
- (4) 制作物・教材の開発
- (5) 指導案（指導計画）
- (6) 実践記録
- (7) 配布道具・物品
- (8) 考察 -実践を通して-

第2節 青森県立青森工業高等学校「クラス担ぎねぶた」調査結果と考察 82

- (1) アンケート調査の意義
- (2) 調査方法・調査内容
- (3) 調査結果〈制作時間・制作作品（情報）について〉
- (4) 調査結果〈ねぶた制作・講習への意識〉
- (5) 調査結果〈各工程の評価と課題 -骨組み-〉
- (6) 調査結果〈各工程の評価と課題 -紙貼り-〉
- (7) 調査結果〈各工程の評価と課題 -色付け-〉
- (8) 調査結果〈各工程の評価と課題 -台作り-〉
- (9) 調査結果〈ねぶた授業の美術科・技術科導入への意識〉

第5章 再構成したクロスカリキュラムの提案

第1節 ねぶた授業実践の課題と対応 101

第2節 指導計画 102

- (1) 制作品の設定
- (2) 各教科の指導範囲
- (3) ねぶた授業の単元計画
- (4) 授業構成

第3節 クロスカリキュラムによるねぶた授業への期待 108

謝辞

註・参考文献 一覧

資料（北小だるまねぶた説明書・特別支援ねぶた授業アンケート・青森工業クラスねぶたテキスト・審査用紙・クラス担ぎねぶた調査用紙・テキスト『佞武多をまなぶ』）

第1章 研究目的・背景・方法

(1) 研究目的

第一の目的は、教科の美術科と技術科の連携（クロスカリキュラム）における、ねぶた授業を創造（設計）する。

第二の目的は、ねぶた授業を美術科と技術科の連携に限らず、ねぶた制作を通じた様々な教育的な可能性を見据え、実施調査を行ない各実践により、得られる能力や知識を図る。

これらの研究により、教育という視点から一案を出すことで、子供たちのねぶた制作への意識の変化や郷土愛しむ心、そして担い手を産み出すひとつのきっかけとして示すことができるだろう。社会、地域、学校がつながりを持ち、全体で伝統を守る気を持ち、共に一丸となり文化を丈夫にすることが全体の使命であり、本研究としても貢献していく所存である。

(2) 研究背景 1（法律・新学習指導要領・答申・条例）

小学校はじめとし、2011年度から新たな学習指導要領（2008年度版）¹⁾が実施されている（現在2014年）。この指導要領を見直すきっかけとして、教育基本法の改正等が根本にある。この改正では、教育の目標に新たに規定された内容とし「能力の伸長、創造性、職業との関連を重視」、「公共の精神、社会の形成に参画する態度」、「生命や自然の尊重、環境の保全」、「伝統と文化の尊重、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与」の大きく4つ挙げられた²⁾。

そして改善を進め、中央教育審議会の総会では「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」をとりまとめている。「5. 学習指導要領改訂の基本的な考え方（1）改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂」の中には、具体的な理念「公共の精神、生命や自然を尊重する態度、伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」などが規定されている。そして教科による教育内容の改善として、「伝統や文化に関する教育や道徳教育、体験活動の充実、環境教育などを重視し、道徳のほか、社会や理科、音楽や美術、特別活動」が挙げられた³⁾。このことから、新学習指導要領（2008年度版）では伝統文化が重要視され、各教科においても伝統や文化を積極的に指導されるように求められている。

また、各県の教育施策も、郷土の伝統や文化を多く取り上げられている。青森県の教育施策（2005年）も同様に「青森県教育委員会は、豊かな心と郷土に対する誇りを持ち、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し（以下省略）」と「郷土（伝統や文化）」⁴⁾が含まれるものとなっている。

青森の代表的な郷土として、青森ねぶたが在る。重要無形民俗文化財に指定されている「青森ねぶた祭」（以下、ねぶた祭と省略）は、毎年、夏になると全国ニュースでも必ず紹介される「東北三大祭」の一つ⁵⁾である。

そして、ねぶた祭への教育的使命が青森市の条例「青森ねぶた保存伝承条例」⁶⁾の中で問われている。

「青森ねぶた保存伝承条例」

(市の責務)

第四条 市は、第一条の目的を達成するため、あらゆる施策を通じ、青森ねぶたの保存及び伝承に努めるものとする。

市は、青森ねぶたの保存及び伝承のため、概ね次に掲げる施策を推進するものとする。

- 一 教育の場における青森ねぶたの保存及び伝承についての教育

(3) 研究背景2 (青森ねぶた祭と教育)

ねぶた祭を郷土(伝統や文化)教育として見た時、ねぶた祭の様々な教育的視点を考えられる。中でも「芸術性(美術的作品価値)」、「社会性(キャリアへの問題)」、「郷土愛」という大きな3つの要素や課題が考えられる。

「芸術性(美術的作品価値)」

ねぶた祭は、紙と灯りの造形作品や日本の祭りの代表として国内のみならず海外遠征も数多くよばれる。過去にはロサンゼルスやハワイ、イタリアなどへも出かけていった。そして、イギリスの大英博物館で公開制作が行なわれほどである。世界的なアートとして認められつつあることが分かる。また、京都の京都造形芸術大学のカリキュラムに、ねぶた制作が取り入れられていることから、今や祭りの山車という枠だけに収まらない。

「社会性(キャリアへの問題)」

伝統工芸品のような高度な技や知識が詰まっている作品であるゆえに、ねぶた祭の山車の後継者難の時代が到来している。ねぶた師は十~二十年間ほど師匠のもとでやらないと育たないという厳しい業界である⁷⁾。

「郷土愛」

ねぶたは重要無形民俗文化財に指名されている。文化財保護法では無形の民俗文化財を、「衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術で、わが国の国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの」⁸⁾としている。重要無形民俗文化財と呼ばれる通り、形が残らない技や祭りが今日まで残ってきたのは、残し続けるため伝統を継承してきたねぶた職人であるねぶた師のねばりづよさや、ねぶた祭を愛する意識に表れによるものである。青森ねぶたの子ども意識調査(2006.12~2007.1)⁹⁾によれば小・中・高校生は8割は、「ねぶた・ねぶたが世界に誇れる祭り、日本有数の祭り」と思い、「古くから伝わる祭りを大切にし、自分たちの子どもに伝える必要がある」と考えている。そして、「学校の授業・行事に祭りや制作を取り入れたほうがよい」と5割強が考えている。このような結果からも、ねぶた祭の魅力は、人々の想いを根深いものとしている。

以上のことから、祭り文化としてみた「ねぶた祭」と、作品としてみた「ねぶたという山車(以下、ねぶたと省略)」には、様々な教育的な使命や可能性が秘めていることが伺える。

(4) 研究方法

美術科と技術科の連携（クロスカリキュラム）における、ねぶた授業の創造（設計）を行なうため、以下の手順で研究を進めた。

- I. 事前調査（美術科、技術科の内容整理、ねぶたとの関連性、先行研究の調査）
- II. ねぶたを教材とした授業構成と実践（小学校・特別支援学校）
- III. クロスカリキュラムを想定した ねぶた授業構成と実践（I と II を元にし、構成した高校での実践）
- IV. 教材、カリキュラムの提案（過去実践調査による課題から、ねぶた授業の再構成）

I. 事前調査（美術科、技術科の内容整理、ねぶたとの関連性、先行研究の調査）

中学校の美術科と技術科とねぶたの関連性を整理、比較

主な参考資料、文献

- ・文部科学省；中学校学習指導要領解説技術・家庭編 平成 20 年 9 月』, 2008 年
- ・文部科学省；『中学校学習指導要領解説美術編 平成 20 年 9 月』, 2008 年
- ・東京書籍；『新しい技術・家庭 技術分野』指導計画作成資料
- ・開隆堂；『美術 1』『美術 2・3』 年間指導計画作成資料と題材別評価の観点
3 学期制の年間指導計画面案 2 学期制の年間指導計画面案
- ・青森ねぶた誌出版委員会；『青森ねぶた誌』青森市, 2000 年
- ・河合清子；青森ねぶた祭り実行委員会公認公式ガイドブック『ねぶた祭 “ねぶたバカ”たちの祭典』角川書店, 2010 年
- ・蛭名敦子、古川香；『図画工作における地域性を視野に入れた教材化—ねぶたの灯籠製作をめぐる—』弘前大学教育学部研究紀要クロスロード 第 17 号, 2013 年
- ・キャンパスフォトツアー | 京都造形芸術大学
(<http://www.kyoto-art.ac.jp/photo/life.php#photo-11>) (2014/2/17 アクセス)

II. ねぶたを教材とした授業構成と実践（小学校・特別支援学校）

I の文献、先行研究の調査を参考にし、ねぶた授業の構成と実践を行なう。

実践校は、弘前市立北小学校の 4 年生と弘前大学教育学部 附属特別支援学校の高等部。各取り組みにより、教材や学年、発達段階による備わる能力、可能制作範囲を図る。調査方法は、取り組みの様子、経過時間などの実態調査、アンケート、感想からの調査により、成果や課題を見つける。

III. クロスカリキュラムを想定した ねぶた授業構成と実践（I と II を元にし、構成した高校での実践）

I と II の研究の成果や課題を参考にし、中学校の美術科、技術科のクロスカリキュラムを想定とした。授業教材の実践を行なう。

実践校は青森県立青森工業高等学校。教材と指導案、時間、使用した物品の全般を含めた成果と結果を整理する。実践校には、ねぶた授業への意識や要望をアンケート調査により割り出していく。

IV. 教材、カリキュラムの提案（過去実践調査による課題から、ねぶた授業の再構成）

I と II と III の研究の成果や課題、III のねぶた授業アンケート調査から意識と要望等から、中学校の美術科と技術科のクロスカリキュラムを再構成する。

再構成とは、単元計画、指導案、教材などをつくり、ねぶた授業・カリキュラムを提案する。

第2章 技術科・美術科・ねぶたとクロスカリキュラム

第1節 ねぶた祭りとねぶた

(1) ねぶた祭りとは

青森県青森市で8月2日から7日に開催される夏祭りであり、毎年、延べ300万人以上の観光客が訪れる日本の火祭りの一つである。1980年には国の重要無形民俗文化財に指定された。ねぶた祭の運行形態は、ねぶたの山車(画像2-1)があり、跳人(画像2-2)と言われる踊り手(正装をすると誰もが参加できる)がいて、囃子を行なう人(画像2-3)の3つの要素を合わせて一つのねぶた祭となる。また、青森ねぶたは8月の本番日以外にも、夏になると町内会によるねぶた運行などの地域内ねぶた運行がある。この、ねぶたの山車も町内のねぶたを作る製作者やねぶた師の方に依頼して制作しており、小さいながらも緻密にできている。そして祭りに近づくにつれ、町の様々なところから、ねぶた囃子の練習が聞こえるようになる。青森ねぶた祭は、ねぶたと言われる山車の芸術性、囃子の民族的音楽性、跳人の躍動感がある。この大きく3つの要素が一つ一つ見応えがある。



ねぶた 図2-1



跳人 図2-2



囃子 図2-3

(2) ねぶた・ねぶたの違い —青森県の祭り—

青森県内には武者などの題材にした祭りが大きく4つ有る。複雑な立体人形型の青森市の「青森ねぶた祭」(画像2-1)、武者絵が描かれた扇型の弘前市の「弘前ねぶたまつり」(画像2-4)、縦長い(20m強)の高さをもつ五所川原市の「五所川原立佞武多」(画像2-5)、仕掛けを持つ豪華な山車の八戸市の「八戸三社大祭」(画像2-6)である。

※弘前ねぶたまつりには、青森ねぶたのような立体的な山車がある、これを組みねぶたという。制作技法はねぶたと同じである。



ねぶた(扇) 図2-4



立佞武多 図2-5



三社大祭 図2-6

だし

(3) 山車「ねぶた」

《制作者・制作まで》

ねぶたは、ねぶた師というねぶた職人が率いる、ねぶた制作のスタッフと共にねぶたを約5カ月以上かけ、8月のねぶた祭までに造りあげる。ねぶた師は、その前に、祭が終わったら、もう来年のねぶたの構想を考え、冬には下絵の原画を描き始めることが多い。そのため、ねぶた師は1年をかけて制作をしているようなものだ。ねぶた師は、いわば、現場監督のような存在であり、スタッフに指示を出し、現場をまとめる。そして、各団体にもよるが、ねぶたの電気配線と紙はりは、専門の技術者や専門のパートの人が作業を行なう。

《大きさ》

ねぶたの大きさ（大型ねぶた）は、重さが台車も含めて4トンあり、台車（高さ約2m）も含めて幅は9m、奥行き7m、高さ5mの制限がある。その範囲内でいかに大きく見せるか、迫力を出す、遠近感を出すか等が、ねぶた師の腕にかかっている。

《制作の流れ（大型ねぶたの制作工程）》

①題材の考案・下絵（原画）

歴史的な物語などを題材に構想を練り、その意匠を絵に描いて色を付ける。ねぶたは設計図がないため、この下絵は全体の概容を知るための重要なものとなる。



デッサン 図2-7



下絵・原画 図2-8

②パーツや細部の下ごしらえ

面、手足、刀などの細部をあらかじめ作っておく。サイズは長年の勘に頼るところも大きいですが、比例方式で計算して割り出す。題材が決まり次第、小屋がけの前から自宅の工房等でコツコツと進められる。



面 図2-9



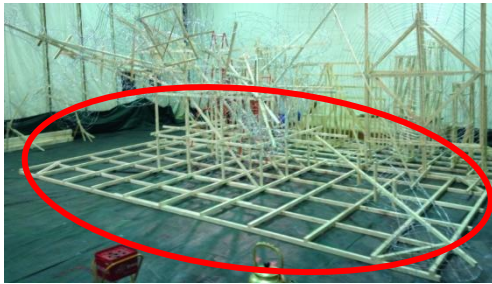
足 図2-10



手 図2-11

③下台の製作とジャングルジムづくり（柱立て）

ねぶたを固定する下台を角材でつくる。ねぶたの芯となる支柱、通称「ジャングルジム」をつくる。これはねぶたの体の骨格のような役割を果たす。



下台 図2-11

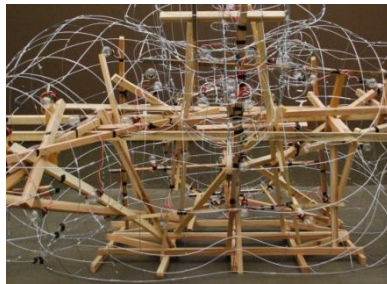


図2-12

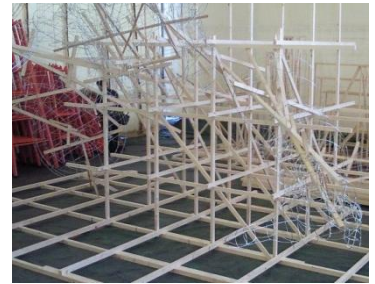


図2-13

④骨組み

支柱の周りに針金で形を作っていく。針金は糸と木工用ボンドでしっかりと留め、後で紙が貼りやすいように気を配って形作る。



図2-14

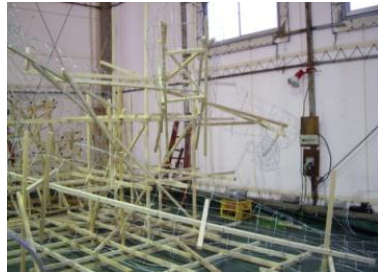


図2-15



図2-16

⑤電気配線

できた骨組みの内部に、照明用の配線を施す。専門の電気工が、20～100ワットの電球（白熱電球・電球型蛍光灯・LED電球）や蛍光灯を約800～1000個程取り付ける。電源は、製作期間中はねぶた小屋の電気を使うが、運行中はねぶたの台に発電機仕込み、ねぶたを照らす。

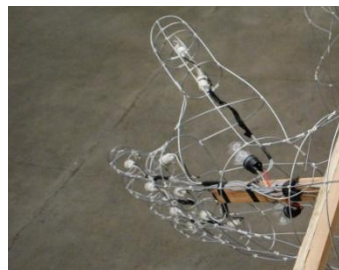


図2-17



図2-18



図2-19

⑥紙貼り

できあがった骨組みに、和紙（奉書紙）を貼っていく。ボンドを針金に付け、一区画ずつ紙を貼り、余分な部分をカッターなどで切り落とすのが方法や、針金に紙を合わせなぞって型をとり、予めハサミで形に切り取り、その一区画に貼るといった方法もある。貼り終わると真っ白なねぶたになる。



図2-20



図2-21



図2-22

⑦色付け<書き割り>

「墨書き」とも言う。墨汁で、顔や手足、襟、帯など各部分や模様を書き分けて形を取り、立体感を出していく。



図2-23



図2-24



図2-25

⑧色付け<ロウ書き>

パラフィン（石ロウ）を鍋等で溶かして、溶けにくい筆（ロウけつ用の筆）等で、固まらないうちに、着物の柄や模様を描いていく。パラフィンがついた部分には、色が付かないので、隣接する色同士が混ざってにじみだすことを防ぐことができる。またパラフィンが半透明になるため、照明を付けた時に効果を生み出す。

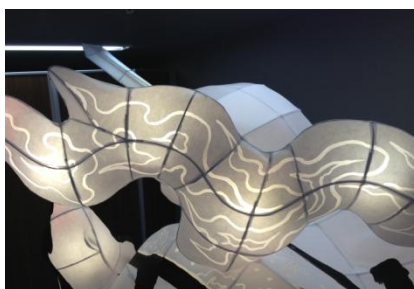


図2-26



図2-27



図2-28

⑨色付け<彩色>

染料や水性顔料等で、全体に彩色を施す。筆の他、スプレー（コンプレッサを接続するタイプ）を使い分け、仕上げていく。ぼかしやベタ塗りなど、各部によって塗り方も異なるため、ねぶた師の指示によって、念入りに作業が進められる。この作業が終わると、ねぶた制作スタッフの仕事はほぼ終了である（中には、台あげ後でなければ色を塗れない足の裏の部分などあるため、その時は台あげ後に色を塗ることもある）。



図2-29



図2-30



図2-31

⑩台の組み立て

ねぶたを曳くためのタイヤ付きの台を、台あげをする期間に近付くと、運行団体や大工が組み立てを行なう。一度新調すると、長年同じ台を毎年組み立てて使う



図2-32



図2-33

⑪台あげ・台化粧

完成したねぶたを高さ2メートルのタイヤ付き台に大人数（運行団体から約50人程）で担ぎ、台に上げる。これで、高さは5メートルほどになる。

台化粧は、台車にねぶたのタイトルを掲げ、提灯や看板や台とねぶたの隙間をふさぐキャラコを取り付け祭り本番に完全に備えた状態にすることである。



図2-34



図2-35



図2-36

完成したねぶた



第2節 美術科のカリキュラム内容

(1) 美術科の内容

《第1学年》

A 表現 B 鑑賞

《第2学年 及び 第3学年》

A 表現 B 鑑賞

〔第1学年〕

A 表現

- (1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して発想や構想に関する次の事項を指導する。
 - ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。
 - イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。
 - ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。
 - イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
 - ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
- (3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。
 - ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。
 - イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。

B 鑑賞

- (1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。
 - ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。
 - イ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。

〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
 - ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

〔第2学年及び第3学年〕

A 表現

- (1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。
 - ア 対象を深く見詰め感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。
 - イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。
- (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。
 - ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。
 - イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
 - ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。
- (3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。
 - ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。
 - イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。

B 鑑賞

- (1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。
 - ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。
 - イ 美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。
 - ウ 日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。

〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
 - ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
 - イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

(2) 美術科の授業の進め方 (年間指導計画案より)

授業は学習指導要領の内容を元に、各学校において各教科の教員が、年間の計画を立てている。よって年間の指導計画は、美術を扱う教科書会社の年間指導計画参考資料を一例として示す(表2-1)(表2-2)(表2-3)。

①東京書籍

平成24年度版 『美術1』『美術2・3』

指導計画例 学年ごと年間指導計画(2学期制)

B案 2学期制 第1学年 45時間

表2-1

学期・週	時間	週2時間の授業計画による題材	領域分野	題材名	教科書ページ	当該題材と関連して扱う参考ページ	教科書ページ	当該題材と関連して扱う参考ページ	教科書ページ
前期 16週	1		鑑賞	表現の始まり	5~7	図画工作から美術へ	2~4		
	4		絵・彫刻	動きを見つめて	16・17				
	6		デザイン	変化させる絵	30・31	Let's try!	44・45		
	1		鑑賞	美しさの交流	34~37	隣の国々アジア	38・39		
	4		工芸	お気に入りの囲まれて	26~29	道具箱	46・47		
後期 19週	4	★	絵	写し取る形	14・15	w	46・47		
	8	★	彫刻	彫刻動物園	18~21	道具箱	46・47		
	6	★	絵	心ひかれる風景	8~11	道具箱	46・47		
	4	☆最初の1週のみ週2時間	絵	広がる形や色から	12・13				
	1		鑑賞	のぞいてみよう、美術館	42・43	主役を探そう	32・33		
	3		デザイン	生活を豊かに	22~25	Let's try!	44・45	色彩ホームページ	48・49
	1		鑑賞	美しさの交流	34~37	隣の国々アジア	38・39		
	2		デザイン	私の歩み	40・41				

B案 2学期制 第2学年 35時間

表2-2

学期・週	時間	領域分野	題材名	教科書ページ	当該題材と関連して扱う参考ページ	教科書ページ	当該題材と関連して扱う参考ページ	教科書ページ
前期・16週	1	鑑賞	教科書美術館へようこそ	3~7	美術の流れ	86~88		
	4	デザイン	デザインする心	42・43				
	5	デザイン・工芸	デザイン行動	44・45				
	8	工芸	つくる・使う・楽しむ	54~57	人がつくる、技を極める	58~61		
	1	デザイン・工芸	江戸のデザインセンス	68・69				
後期・19週	4	絵	風景が語るもの	10~13	奥行き表現	14・15	光が作り出す色彩をつかまえて	70・71
	6	彫刻	空間を感じて	36~39				
	1	彫刻	人の形に込めたもの	40・41	ルネサンスの美術	78・79		
	4	絵・彫刻	驚きの世界へ	24~27				
	3	絵・彫刻	平和、命、つながり	62~64				
	1	鑑賞	美術を身近なものに	82・83	美術の流れ	86~88		

B案 2学期制 第3学年 35時間

表2-3

学期・週	時間	領域分野	題材名	教科書ページ	当該題材と関連して扱う参考ページ	教科書ページ	当該題材と関連して扱う参考ページ	教科書ページ
前期・16週	1	鑑賞	美術のちから	8・9				
	5	絵・彫刻	自分探しの旅	16~19				
	1	絵	描かれた人が語るもの	20~23	ルネサンスの美術	78・79		
	1	彫刻	願いや祈りの造形	72・73	美術の流れ	86~88		
	5	絵／デザイン・工芸	伝統の美に学ぶ	28~31	ジャポニスム	80・81	色彩ホームページ	89~91
	3	絵	伝統と改革・日本画	32・33	モノトーン之美しさ	34・35	物語を描く	65~67
後期・19週	6	デザイン	学校紹介プロジェクト	46~49				
	1	デザイン・工芸	時代を見つめる	50・51	美術の流れ	86~88		
	1	デザイン	デザインの広がり	52・53				
	3	デザイン	風土を生かして	74・75				
	5	絵	抽象から空間の表現へ	76・77	光が作り出す色彩をつかまえて	70・71	美術の流れ	86~88
	2	鑑賞	生きることと美術	84・85				
	1	鑑賞	暮らしや生活の中にある美術	92・93				

美術科の目標と内容の考察

美術科は、ものづくりにおける創作活動での喜び等を味わうことで、人の感性を豊かにさせること。また仕上がった作品の表現を見あう、もしくは鑑賞することで美術文化への理解を求めている。

美術科は、1年時と2・3年時で、それぞれ表現と鑑賞の2つの項目に分かれている。2・3年時の内容の項目は、1年時で学んだ内容を基本とし、制作する題材の意図が一部変わっている。1年時では、感じたことなどの自分の意図を素直に表現する活動が多い傾向にあるが、2・3年時になると心の世界や洗練した美しさ、夢などの創造、国際理解など、広い範囲と素材や順序を活かした特化した表現などが加わっていることがわかる。このため、美術科では、学年によって指導すべき内容が変化している。各項目の中の制作の題材は限られていない。

第3節 技術科のカリキュラム内容

(1) 技術科（技術分野）の内容

- A 材料と加工に関する技術
- B エネルギー変換に関する技術
- C 生物育成に関する技術
- D 情報に関する技術

A 材料と加工に関する技術

- (1) 生活や産業の中で利用されている技術について、次の事項を指導する。
 - ア 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること。
 - イ 技術の進展と環境との関係について考えること。
- (2) 材料と加工法について、次の事項を指導する。
 - ア 材料の特徴と利用方法を知ること。
 - イ 材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用できること。
 - ウ 材料と加工に関する技術の適切な評価・活用について考えること。
- (3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作について、次の事項を指導する。
 - ア 使用目的や使用条件に即した機能と構造について考えること。
 - イ 構想の表示方法を知り、製作図をかくことができること。
 - ウ 部品加工、組立て及び仕上げができること。

B エネルギー変換に関する技術

- (1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検について、次の事項を指導する。
 - ア エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知ること。
 - イ 機器の基本的な仕組みを知り、保守点検と事故防止ができること。
 - ウ エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用について考えること。
- (2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作について、次の事項を指導する。
 - ア 製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。
 - イ 製作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検ができること。

C 生物育成に関する技術

- (1) 生物の生育環境と育成技術について、次の事項を指導する。
 - ア 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知ること。
 - イ 生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考えること。
- (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育について、次の事項を指導する。

ア 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができること。

D 情報に関する技術

(1) 情報通信ネットワークと情報モラルについて、次の事項を指導する。

ア コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知ること。

イ 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知ること。

ウ 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えること。

エ 情報に関する技術の適切な評価・活用について考えること。

(2) デジタル作品の設計・制作について、次の事項を指導する。

ア メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計ができること。

イ 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること。

(3) プログラムによる計測・制御について、次の事項を指導する。

ア コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知ること。

イ 情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できること。

(2) 技術科の授業の進め方 (年間指導計画案より)

授業は学習指導要領の内容を元に、各学校において各教科の教員が、年間の計画を立てている。よって年間の指導計画は、技術分野を扱う教科書会社の年間指導計画参考資料を一例として示す(表2-4)(表2-5)。

①東京書籍

平成24年度版 『新しい技術・家庭 技術分野』

指導計画例 技術の適切な評価・活用に重点を置いた年間指導計画

表2-4

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	項目	A(1) ガイダンス					A(2) アイ 材料と加工法				A(3) アイ 製作品の設計・製作 (マルチラック)				A(2)ウ 材料と加工の技術の評価・活用		A(3)ウ 製作品の設計・製作 (マルチラック)						A(2)ウ 材料と加工の技術の評価・活用		D(1) アイウ コンピュータと情報通信ネットワークの活用											
	時数	5					4				5				2		12						2		5											
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの技術 技術の発達 技術者 製品の誕生 技術と環境 これからの学習 					<ul style="list-style-type: none"> 材料の基本的な性質 製品を丈夫にする工夫 材料に適した加工法 				<ul style="list-style-type: none"> 製作品の設計 製図 				<ul style="list-style-type: none"> 設計の評価 		<ul style="list-style-type: none"> 製作の作業手順 基礎技能 完成した製作品の評価 						<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会のための技術 		<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ, 情報通信ネットワークの仕組み 情報モラル, 情報の安全な利用 											
第2学年	項目	C(1)ア 生物を育てる技術の特徴		C(2) 生物を育てるための計画と管理 (トマト)						C(1)イ 生物を育てる技術の評価・活用		B(1)アイ エネルギーの変換・利用と保守点検				B(2) 製作品の設計・製作 (LED スタンド)						B(1)ウ エネルギー変換技術の評価・活用														
	時数	2		8						2		7				14						2														
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 人・生物・環境のかかわり 		<ul style="list-style-type: none"> 目的とする生物の育成計画 基礎技能 ※年間を通して適切な時期に実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> 生物を育てる技術とわたしたちのかかわり 		<ul style="list-style-type: none"> 電気を安定的に供給する仕組み 電気エネルギーの変換と利用 機器の保守点検の重要性 機器の安全な使用 				<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換を利用した製作品の設計・製作 工具, 回路計の使い方 						<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの有効利用 														
第3学年	項目	D(2) デジタル作品の設計・制作 (Web ページ)					D(3) プログラムによる計測・制御 (センサカー)				D(1)エ 情報技術の評価・活用																									
	時数	9					6.5				2																									
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> デジタル作品の構成 デジタル作品の設計・制作 情報の受け手を意識した設計 素材の編集 					<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御システム プログラムの役割と機能 簡単な計測・制御 				<ul style="list-style-type: none"> 情報技術の適切な評価・活用 																									

②開隆堂

平成 24 年度版 『技術・家庭 技術分野』

指導計画例 3 年間を見通した年間指導計画例

表 2-5

3 年間を見通した年間指導計画例 ②

平成24年度用 中学校技術・家庭「技術分野」資料

		3 年間を見通した年間指導計画例 ②																																						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35				
1 年	時数	ガイダンス (3h)			D: 情報に関する技術 (20h) C: 生物育成に関する技術 (12h)																																			
	内容	ガイダンス (3h)			D: 情報に関する技術 (20h) C: 生物育成に関する技術 (12h)																																			
	教科書の内容	① 技術を見つげよう	② 技術とわたしたちの生活	③ 技術分野の学習	① 情報とわたしたちの生活	② コンピュータと情報処理	③ デジタル化した情報の集と保存	④ デジタル化の方法	⑤ デジタル化の利便性	⑥ デジタル化の課題	③ 情報通信ネットワークの利用	④ ネットワークの構成	⑤ ネットワークでの暮らし	⑥ ネットワークのセキュリティ	⑦ ネットワークのセキュリティ	⑧ ネットワークと情報セキュリティ	⑨ ネットワークのセキュリティ	⑩ ネットワークのセキュリティ	⑪ ネットワークのセキュリティ	⑫ ネットワークのセキュリティ	⑬ ネットワークのセキュリティ	⑭ ネットワークのセキュリティ	⑮ ネットワークのセキュリティ	⑯ ネットワークのセキュリティ	⑰ ネットワークのセキュリティ	⑱ ネットワークのセキュリティ	⑲ ネットワークのセキュリティ	⑳ ネットワークのセキュリティ	㉑ ネットワークのセキュリティ	㉒ ネットワークのセキュリティ	㉓ ネットワークのセキュリティ	㉔ ネットワークのセキュリティ	㉕ ネットワークのセキュリティ	㉖ ネットワークのセキュリティ	㉗ ネットワークのセキュリティ	㉘ ネットワークのセキュリティ	㉙ ネットワークのセキュリティ	㉚ ネットワークのセキュリティ	㉛ ネットワークのセキュリティ	㉜ ネットワークのセキュリティ
指導要領	A(1)アイ	A(1)アイ	A(1)アイ	D(1)ア	D(1)イ	D(1)ウ	D(1)ウ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ	D(2)アイ		
2 年	時数	A 材料と加工に関する技術 (27h)																											D: 情報に関する技術 (8h)											
	内容	A 材料と加工に関する技術 (27h)																											D: 情報に関する技術 (8h)											
	教科書の内容	① ものつくりの工程を進めよう	② 材料	③ 材料と環境とのかわり	④ 材料の特徴	⑤ 材料の活用	⑥ 材料の活用	⑦ 材料の活用	⑧ 材料の活用	⑨ 材料の活用	⑩ 材料の活用	⑪ 材料の活用	⑫ 材料の活用	⑬ 材料の活用	⑭ 材料の活用	⑮ 材料の活用	⑯ 材料の活用	⑰ 材料の活用	⑱ 材料の活用	⑲ 材料の活用	⑳ 材料の活用	㉑ 材料の活用	㉒ 材料の活用	㉓ 材料の活用	㉔ 材料の活用	㉕ 材料の活用	㉖ 材料の活用	㉗ 材料の活用	㉘ 材料の活用	㉙ 材料の活用	㉚ 材料の活用	㉛ 材料の活用	㉜ 材料の活用	㉝ 材料の活用	㉞ 材料の活用	㉟ 材料の活用	㊱ 材料の活用	㊲ 材料の活用	㊳ 材料の活用	㊴ 材料の活用
指導要領	A(1)ア	A(1)イ	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア	A(2)ア
3 年	時数	B エネルギー変換に関する技術 (17h)																																						
	内容	B エネルギー変換に関する技術 (17h)																																						
	教科書の内容	① わたしたちの生活とエネルギー変換	② エネルギー変換と効率	③ エネルギー変換の種類	④ エネルギー変換とエネルギー変換	⑤ エネルギー変換とエネルギー変換	⑥ エネルギー変換とエネルギー変換	⑦ エネルギー変換とエネルギー変換	⑧ エネルギー変換とエネルギー変換	⑨ エネルギー変換とエネルギー変換	⑩ エネルギー変換とエネルギー変換	⑪ エネルギー変換とエネルギー変換	⑫ エネルギー変換とエネルギー変換	⑬ エネルギー変換とエネルギー変換	⑭ エネルギー変換とエネルギー変換	⑮ エネルギー変換とエネルギー変換	⑯ エネルギー変換とエネルギー変換	⑰ エネルギー変換とエネルギー変換																						
指導要領	B(1)アウ	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア																							

この年間指導計画例②は、考えられるさまざまな年間指導計画のうちの一例です。配当時数などはすべて参考としてご覧下さい。
 表中の□数字は教科書の□数字の学習項目番号を、○数字は教科書の○数字の学習項目番号を示しています。
 この年間指導計画例は、「情報モラル」を1年で学習することを前提に考えた場合の例です。ただし、この例では、エネルギー変換に関する技術と、情報に関する技術の計測・制御関連づけて学習させたい場合には、実施しにくい例となっています。
 「生物育成に関する技術」については、1年で「情報に関する技術」と並列に学習する計画としています。これは、1授業時間すべてを生物育成の授業に割り当てることが必要ない場合や、連続した授業で行う必要がない場合もあることを考慮したものです。

技術科の目標と内容の考察

技術科は、ものづくりにおいて材料の特性や加工法などの基礎基本としての知識技能を習得させることを重要視し、材料特性や構造のしくみ、製品・作品づくりまでの作業の過程を大事にしていることが分かる。このことから、どちらも作業の工程を大切にしているが作業での関心を深めているのが技術、作品の表現を求めているのが美術といえる。言葉の通り技術は、技。美術は表現（美）が教科の最大の目標といえる。

技術科は「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」、「生物育成に関する技術」、「情報に関する技術」の4つの構成で、3年間を通して、学ぶような計画となっている。各項目の中の制作の題材は限られていない

第4節 ねぶた・美術科・技術科 ー双方の関連性ー

ねぶたは、制作の工程からも、美術的芸術性、技術的な仕事の要素が多く含まれていることから、ねぶたをそれぞれの教科として見た時、指導項目ごとに分けることができるだろう。そして、ねぶたの道具や機械を、具体化することによって各教科の内容に仕分けすることができる。よってここでは、各教科の要素（表2-6）や使用道具、ねぶた制作工程による作業や使用道具（表2-7）を整理していく。

（1）美術科の関連性 ー美術科指導内容による、ねぶた工程への分類ー





		美術科			
目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創作活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				
内容 と 主な 作業・ 知識	1 学年		2. 3 学年		
	表現	鑑賞	表現	鑑賞	
	(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構 絵画や彫刻	(1) 美術作品などのよさや美しさを 感じ取り味わう鑑賞 鑑賞	(1) 感じ取ったことや考えたことなどを 基にした発想や構想 絵画や彫刻	(1) 美術作品などのよさや美しさを 感じ取り味わう鑑賞 鑑賞	
	(2) 目的や機能を考えた発想や 構想 デザイン、工芸		(2) 目的や機能を考えた発想や 構想 デザイン、工芸		
(3) 発想や構想をしたことなどを 基に表現する技能 材料や用具の生かした創意工夫、 材料・用具から制作の順序を 考えた作品		(3) 発想や構想をしたことなどを 基に表現する技能 材料や用具の生かした創意工夫、 材料・用具から制作の順序を 考えた作品			
ねぶた 工程への 分類	上記のすべての内容  ・題材の考案、デッサン ・骨組み ・紙はり ・色付け ・台製作	上記のすべての内容  ・題材の考案の際 参考に、彫刻や資料 の鑑賞 ・完成品の鑑賞	上記のすべての内容  ・題材の考案、デッサン ・骨組み ・紙はり ・色付け ・台製作	上記のすべての内容  ・題材の考案の際 参考に、彫刻や資料の 鑑賞 ・完成品の鑑賞	

表2-6

考察・備考

骨組みでは、造形的な表現をし、美術感覚や材料の特徴を活かしながら、作品をつくることができる。また、骨組みと紙はりは、彫刻としての造形制作と工芸のランプシェード制作として学習に取り入れることができると考えられる。色付けは、ポスターカラーや染料などの画材の特徴などを学びながら、様々な塗り方、彩色の学習としても可能である。ロウ書きは、ろうけつ染めの性質を学べる。ねぶた制作前には、下絵の作成のために、彫刻作品や浮世絵、歴史絵巻の日本画、鎧の文様や形など多様な分野の鑑賞は、非常に効果的である。完成後のねぶた制作も他の作品の鑑賞もできる。

(2) 技術科の関連性 — 技術科指導内容による、ねぶた工程への分類 —




		技術科			
目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境のかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。				
内容 と 主な 作業 ・ 知識	全学年（3年間を通して）				
	A 材料と加工に関する技術	B エネルギー変換に関する技術	C 生物育成に関する技術	D 情報に関する技術	
	(1) 生活や産業の中で利用されている技術 生活と技術 木材・金属・プラスチック	(1) エネルギーの変換機器の仕組みと保守点検 各エネルギー・発電・効率 電気・リンク カム装置	(1) 生物の生育環境と育成技術 生物の環境・情報把握	(1) 情報通信ネットワークと情報モラル コンピュータとモラル	
	(2) 材料と加工法 工具・機械・加工法 木材・金属・プラスチック	(2) エネルギー変換に関する技術を活用した製作品の設計・製作 エネルギー変換用いた、製作 電気・リンク カム装置	(2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育 生物の育成、飼育	(2) デジタル作品の設計・制作 メディア用いた表現発信 プログラム	
(3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・制作 材料の特徴計画、構想、製作 木材・金属・プラスチック			(3) プログラムによる計測・制御 計測制御・プログラム		
ねぶた工程への分類	工具・機械・加工法 木材・金属・プラスチック 材料の特徴計画、構想、製作  ・製図・骨組み (針金加工) ・台制作 ・骨組み (内部のジャングルづくり、柱入れ)	電気・リンク カム装置 エネルギー変換用いた、製作  ・電気配線	なし	メディア用いた表現発信  ・パソコンやネットによる、ねぶた祭や制作情報の発信、HP制作 ・スライド制作し、完成作品のプレゼン	

表2-7

考察・備考

ねぶたの工程のうち、技術科で可能なねぶた作業内容は、台制作と電気配線である。

台制作では、木材の加工による、けがきやのこぎり引きの作業、各機械の使用による安全面の学習等が可能である。エネルギー変換の電気の内容では、ねぶたの配線や電気量の計算、回路の点検についての学習などねぶたを通して実践的に勉強できる。ねぶたの工程としては、技術科で行う内容は美術科に比べると少なくなっている。一方で、ねぶた工程を技術科的に応用していくことで、多くの可能性がでてくる。例えば、骨組みの一部を溶接で行なう。ねぶたの下絵を製図として、予め詳細な図面をつくること。完成後のねぶたを情報発信するために、ホームページ制作やスライドをつくる学習なども可能である。

(3) ねぶた・美術科・技術科の関連性・他教科への可能性
 —ねぶたの道具や作業による教科分類—

	題材考案 下絵描き	下ごしらえ (骨組み)	台づくり	骨組み	電気配線	紙貼り	書き割り	ロウ書き	彩色
作業 者	ねぶた師	ねぶた師	ねぶた師	ねぶた師	電気工	専門パート	ねぶた師	ねぶた師	ねぶた師
道具	資料等 (歴史・美術参 考)、 書籍、画材等	針金、木材 糸、ボンド、 工具等	木材、カヅチ、 ビス、スケル、 インパクトドライ バ等	針金、木材、 糸、ボンド	ケーブル 電気工具等	和紙(奉書紙) ボンド	墨、筆	ロウ、筆	染料・顔料 筆、スプレ ーガン
技	歴史、古典、 文化、描く力	木材加工 (大工仕事)	木材加工 (大工仕事)	木材加工 (大工仕事)	電気工事	美術的能力	描く、習字	描く、 正確な筆 づかい	描く、塗装
教科 区分	社会 美術	技術 美術		技術 美術	技術	美術	美術	美術	美術 技術
	総合的な学習の時間								

・枠内記載のねぶた師の名称には、制作スタッフ（弟子等）も含めている。

表2-8

作業による教科分類

(表2-8)では、ねぶた師が占めているが、ねぶた師は、ねぶた師の仕事以外にも副業として仕事柄が画家やアート系の職（日本画、凧絵、看板デザイン）、大工などの技術系の職をもつ人が多いといわれることから、美術と技術の能力にたけている。よって、教科は美術科と技術科の両方を兼ねている部分が多い。

道具と技による教科分類

ねぶたの製作工程では、美術的・大工的な技術の能力が道具や技から伺える。ねぶたを一つの教科で行なうとすると、小学校教科の図画工作であれば、技術的要素と美術的要素が融合されているため、ねぶた制作の上では一つの教科で取り組むことができるため非常に都合がよい。中学校では美術科と技術科として特化した専門性を磨く内容とした教科になっていることから、ねぶたを各教科で連携すると後述のような構成が考えられる。構想の部分では社会（歴史）等が含まれてくる。祭りにでるような青森ねぶたであると、子どもねぶたに見られるキャラクターねぶたと比べ、題材が凝ったものとなっている。構想（題材）には社会科や美術科が必要である。ねぶたには「三国志」「歌舞伎」「日本史」「伝記・伝説」など世界的な歴史があげられ、ねぶた師は時代背景もしっかりと押さえ、内容の濃いねぶたを造るためには社会的知識が問われている。

(4) ねぶた授業の先行研究

3つのねぶたの先行研究を紹介する。

3つ目、青森工業高校の実践は 第4章の第1節(1)にて記載している。

①〈小学校〉蛸名敦子、古川香氏による「ねぶた灯籠制作」

タイトル：図画工作科における地域性を視野に入れた教材化—ねぶたの灯籠制作をめぐって—¹⁰⁾

筆者：蛸名敦子（弘前大学教育学部美術教育講座教授）、古川香（弘前大学教育学部附属小学校教員）

概要：過去2年における、小学校でのねぶた制作を授業に取り入れた、地域の文化財をモチーフとした教材研究である。

実践Ⅰ

題材名「ようこそ、わたしたちのまちへ」

図画工作、4年生の1クラスを対象にし、一クラス内は6つの各グループによる共同制作。題材は、「弘前城築城400年祭」を念頭におき、改めて地元について目を向けさせる作品を作ることとし小扇ねぶた制作へと決まった。はじめに地元の文化財をモチーフとするため、下絵の考案の前に、社会科の校外学習で弘前市内の文化財や建物の散策をしている。

制作内容は、小扇ねぶた絵の作成。子どもたちは、ねぶた絵を描くことが目的であり、墨書き、ロウ書き、彩色の順に、制作を進めた。台の準備と台へのねぶた絵の貼りつけは、教員の古川氏が行なった。

骨組み

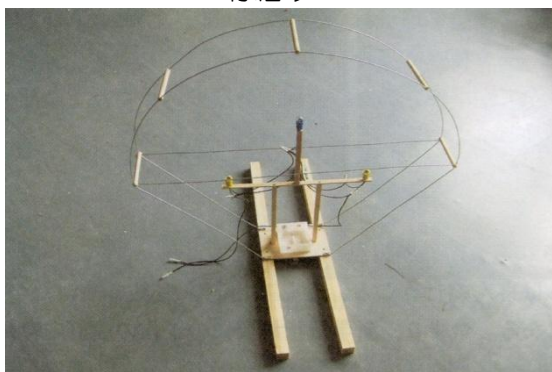


図2-37

完成品



図2-38

実践Ⅱ

題材名「わたしたちのめざすかたちに～小さな大工さん～」

図画工作、新4年生の1クラスを対象にした実践である。2011年度から、新学習指導要領完全実施になり、「工作」の内容が強くなった。そのため「釘」や「金槌」などの用具の使用も含まれたため、今回の実践では子どもたちに、小扇ねぶたの灯籠本体からの制作とした社会科の校外学習や理科の電気の学習を含めることで、他教科内容の連携を組むことができた。

制作内容は、小扇ねぶたの制作。子どもたちは、鑑賞（製図的な完成モデルの計測等）、木材加工、豆電球の配線、扇型の骨組み、ねぶた絵の作成を行なった。完成品（図2-42）。

実践Ⅱは、弘前大学の夏のねぶた運行に混じり、子どもたちは、自分の制作したねぶたを担いだ。



図2-39

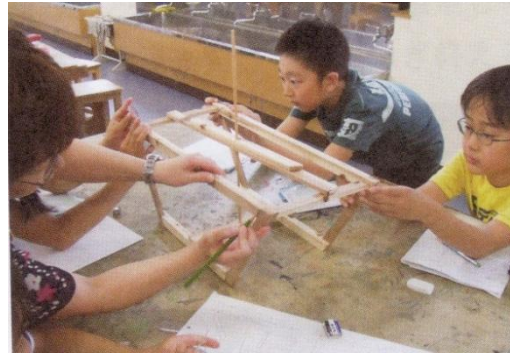


図2-40

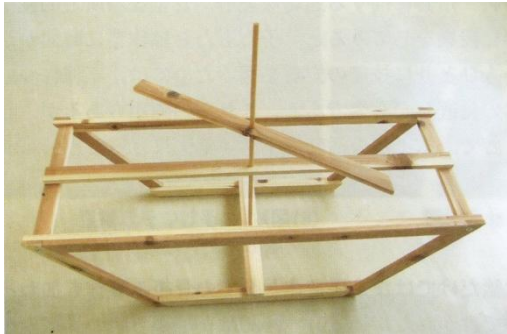


図2-41



図2-42

考察

この教材研究は、地域の文化財をモチーフにし、それをねぷたにすることから、とことん地域を追求した教材である。実際に他校でやるとした時、教員は自分の地域の特性やねぷた制作の基本的知識が備わっていなければ、少々難しいと考えられる。この実践の小学4年生で、木材の簡易的な組み立てが行なわれ、直流電源の豆電球の配線ではあるが、電気配線もされている。これは、中学校の技術科の簡易版であり、ねぷた・ねぷたの授業成立する証明となる実践である。授業時間外にもかかり、時間はかかったようではあるが、共同制作の達成感と作品の完成度の高さから、この教材の価値の高さが伺える。

②〈大学〉京都造形芸術大学「京造ねぶたの制作」

先行実践：マンデイプロジェクト「京造ねぶた」

実践校：京都造形芸術大学

概容：全1年生約860人が23クラスに分かれ、角材、針金、和紙などを使い、5～6メートル四方の大きさのねぶたをつくる。これは全1年生が履修する特色ある教育プログラム、「マンデイプロジェクト」である。9月に2週間かけて取り組むのが「グループ・ワークショップ（京造ねぶた）」。

目的を共有し、計画立案→実施→修正を行いながら、巨大なねぶたを制作をする。入学して半年の学生が多くの人を感動させる作品を制作するまでの力を身につける。

実践Ⅱ

題材名「グループワークショップ ー京造ねぶたー」

このプロジェクトは、専門的な技術だけではなく、様々な分野や共同的活動を行なうことで社会で活かせる力、創作活動全般に通じる基礎力を徹底して鍛えていくためのものである。本来は大学入学までに多くの経験や学習のなかで、その基礎力をトレーニングして入学してほしいが残念ながら社会や教育現場の急速な変化のなかで入学してくる学生の基礎力は十分とは言えない。そこで、京都造形芸術大学では、このマンデイプロジェクトを通してすべての学生に必要な力として、「モノを観る・作る・考える・チームで仕事をする」力を徹底して鍛えることを目指している。

京造ねぶたに取り組むにあたり、はじめは本場青森のねぶた師のアドバイスを受けている。青森ねぶたを参考に京都造形芸術大学のオリジナルのスタイルに至っている。テーマを基に、5～6m立方（125～216 m³）にもなる巨大ねぶたをつくる。角材・針金・木工ボンド・和紙（奉書紙）を使い製作され、青森のねぶたとの違いは着色せず紙を貼り終了である、和紙の色の濃淡のみで表現をするのが特徴である。

年々レベルも上昇し、今では青森の本家本元にも「京造ねぶた」の名称を認められるまでになったという。



図2-43



図2-44



図2-45



図2-46



図2-47



図2-48



図2-49



図2-50



図2-51



図2-52



図2-53



図2-54

考察

青森ねぶたと比べたとき、骨組みの細かさは、京造ねぶたの方が格段に細かい。模様や輪郭を段差で表現することなど、青森ねぶたではやらないような方法や感性が働いている。これは、彫刻としての立体の美しさ、ラインの美しさ、色を塗らない分質感なども直接感じやすくなっている。真っ白のねぶたというのは洗練され美しさを感じさせるのだが、青森ねぶたも同様に紙はりがすべて終了すると真っ白になり、京造ねぶた並みに立派なものである。色を塗らないことで、観察する人は、自由に想像し、インスタレーションを抱きやすい。それゆえ無地の世界は奥深い。一方で、青森ねぶたは、色を塗るという選択肢により、作品のパターン、バリエーションが一層増え、他との差別化しやすく表現が難しくなるだろう。また、青森ねぶたが色を塗ることが常識となっている理由の一つには、作者の想いをいかに、周りに伝えやすくするかを表しているのである。青森ねぶたは、題材の歴史人物や歌舞伎の一場面等を、立体の動きで表し、服の柄や色での表現によって主張している。京造ねぶたと青森ねぶたの制作も、どちらも芸術として、彫刻的に優れており、同じ工程でありながら制作の意図によって、表現方法に幅があるのは、教材としても、様々な可能性があるのだと気付かされる結果である。

ここでは、ねぶたが美大の芸術の1つとして取り上げている自体に、ねぶたを美術科として用いる意義を確認することができる。

(5) ねぶた授業タイプ と ねぶたによるクロスカリキュラムの意義

提言 **ねぶた授業のタイプ**

ねぶたを教材としている青森市内の学校やワークショップは、主に金魚ねぶたづくりや面作りである。これらは、骨組みを自分で1から考えて作る事例は数少ない。ほとんどは、キットのようにできあがった部品が用意されていたり、紙を貼ってあるものに、色塗りだけ体験させることが多い。一方、弘前高校では、設計図の作成（粘土による模型）から台制作までとすべてのねぶた工程を取り入れている学校もある。先述の京都造形芸術大学もまた、ねぶた工程の半分以上が行なわれている。このことから、ねぶたを取り入れている学校がいくつか存在することが分かる。

だが、ねぶたは、授業としての可能性が豊富であるからこそ、取り組み方法や内容は様々である。我々は各学校の取り組みや先行研究からヒントを得て、ねぶた授業の難易度別タイプ（表2-9）を定め、提言とする。

難易度	内容（目標）	授業・ワークショップ・体験活動	教科要素
Aタイプ （初級）	ねぶた制作にふれる	骨組み・紙貼り・色付けの工程の一部を行なう （工程の2つ以内） ※キットのように、骨組みの一部を用意されているも含む。	美術科
Bタイプ （中級）	ねぶた工程を知る	骨組み・紙貼り・色付けの全部を行なう。 （台含まない・規定サイズ未満） ※キットのように、骨組みの一部を用意されているも含む。	美術科
Cタイプ （上級）	ねぶたの制作行なう	骨組み・電気配線・紙貼り・色付け 〈工程の1つを行なわない・台含まない規定サイズ以上〉 ※キットのように、骨組みの一部を用意されているのは含まない。	美術科 技術科
Dタイプ （プロ級）	ねぶたの伝統技を身につける	骨組み・電気配線・紙貼り・色付け・台制作の全てを行なう。 （台含まない規定サイズ以上） ※キットのように、骨組みの一部を用意されているのは含まない。	美術科 技術科

規定サイズ：幅、高さ、奥行きが1.5メートル

表2-9

ねぶた授業一例（実施校・団体）

- Aタイプ・・・ねぶたの面講座（ねぶたの家ワ・ラッセ）、金魚ねぶたづくり（青森市内小学校）
ゆきだるまーる色付け（竹浪比呂央ねぶた研究所）
- Bタイプ・・・だるまねぶたづくり（弘前市立北小学校）、ゆきだるまねぶた作り（附属特別支援学校）
- Cタイプ・・・創作ねぶた（青森県立青森工業高等学校）、京造ねぶた（京都造形芸術大学）
- Dタイプ・・・組みねぶた制作（弘前県立弘前高等学校）、担ぎねぶた（青森県立青森工業高等学校）

※B, C, Dタイプは、筆者の取り組みで紹介するため、ここではAのワークショップを抜粋し紹介

Aタイプ・・・「ゆきだるまー」色付け（竹浪比呂央ねぶた研究所）

ゆきだるまの形の紙が貼られているねぶたが用意されている。それをワークショップにより一人一つ色を塗り仕上げる。絵の具は、アクリル系の絵具を水に溶かしたものを使われている。作られた色が分かりやすくバケツに入れられ、自由に描けるような制作環境である。



図2-55



図2-56



図2-57



図2-58



図2-59



図2-60

ねぶたによるクロスカリキュラムの意義

本研究では、ねぶた祭り一体としてのカリキュラムづくりではなく、青森市のねぶたづくりの技に視点を向け、伝統技術としての教育の関わりを持たせていきたい。そこで本研究では、主に2教科（美術科・技術科のクロスカリキュラム）と総合や特別活動などの他授業や他教科による可能性を示していく。ねぶたカリキュラムは、ねぶたづくりを通じた、各教科の知識・能力・態度を身につける教材である。ねぶたを教具とし、カリキュラムを作ることとする。美術科・技術科の連携カリキュラムにした理由として、ねぶたの特質によるものである。ねぶたづくりの工程には、平面による下絵描き、骨組みという針金による立体造形の製作、電気配線、紙はり、色付けの流れがあり、美術的、木材や電気による大工的・工事的な作業も含まれる。よって、ねぶたの伝統技術は、美術科・技術科の教科に充てるのが望ましいと考える。

一方で、美術科だけ、技術だけでもねぶたづくりは指導できるのではないかと疑問を抱くと思われる、なぜなら美術科には木材を使った工芸、灯りを活かしたランプシェードの製作が含まれる。そして、技術は技を教える教科でもあるため、木材による組み立て、電気配線など部分的にねぶたと直結していて、道具や機械の使い方を知らせることは、ねぶたづくりと技術科の双方に活かされることである。しかし一方で教えることでは、ねぶたづくりは生きてこない。それは、ねぶたは個人の表現力と技術力（道具や機械を使う技）の両方の力により作品が出来上がるからである。よって美術・技術の教科に絞りカリキュラムとした。

また、ねぶたは協働的なものづくりである。この協働的活動によって、生徒間の人間関係における言語活動や協調性が身に付き、学習指導、生徒指導、学級指導に効果的であると考える。

第3章 実践研究と調査結果

第1節 弘前市立北小学校「だるまねぶた教室」授業実践

(1) 授業概容・目的・研究背景

「だるまねぶた教室」という題材名とし、小学生に簡易型の組みねぶたづくりの授業行なった。目的は、青森県の伝統文化である、ねぶた・ねぶたの技法を体感することによって、伝統文化への意識の愛着や意識の変化、実際につくることによって、ねぶた・ねぶたの技を知ってもらうことである。

この研究は、弘前大学教育学部「ねぶた・ねぶたと学校教育」研究プロジェクト（以下、研究プロジェクトと省略）の実践研究であり、既に大谷良三編の『ねぶた・ねぶたと津軽の子ども・学校』の報告書でまとめられている。本論文の筆者は、この研究団体に所属し、「だるまねぶた教室」の授業構成、ねぶた・ねぶた教材の制作と提案をした。よって、ここでは、教材や物品を中心に載せる。

※「だるまねぶた」とは、弘前の組みねぶた（ねぶた）のこと表している。

(2) 対象学校と実践状況

対象学校	弘前市立北小学校	
学年	4年生（69人）	
実施時間	総合的な学習の時間にて ねぶた授業を3回に分け実施した。	
	①ねぶた・ねぶた説明、骨組み	2時限連続（90分）
	②紙貼り	2時限連続（90分）＋放課後 約60分
	③色付け（墨書き・ロウ書き・彩色）	2時限連続（90分）＋放課後 約90分
授業者 (全体指導、導入)	大学生2人	
授業補助者 (各班に付く人)	大学生10人、児童の保護者（各回5人程）	

表3-1

(3) 制作物・教材の開発

制作物は、「だるまねぶた」である。形もだるまのような形をイメージした。この度は、少ない授業数の問題と、それに見合った難易度の問題から、突起や細かい形が少ない形を考えた。また楕円にすることで、弘前らしい扇ねぶたの形に近いイメージを創造した。制作工程は、ねぶた制作の技と同じ方法で進めている。大きさは台を含み、幅・奥行き70cm、高さ約120cmである（台は幅・奥行き70cm高さ46cm）。Bタイプのねぶた授業であり、プラモデルのような骨組みを予め用意した。

大まかな制作手順は以下の通りである（制作手順は、だるまねぶた説明書に記載）。

骨組み状態 図3-1



紙貼り状態 図3-2



完成品 図3-3



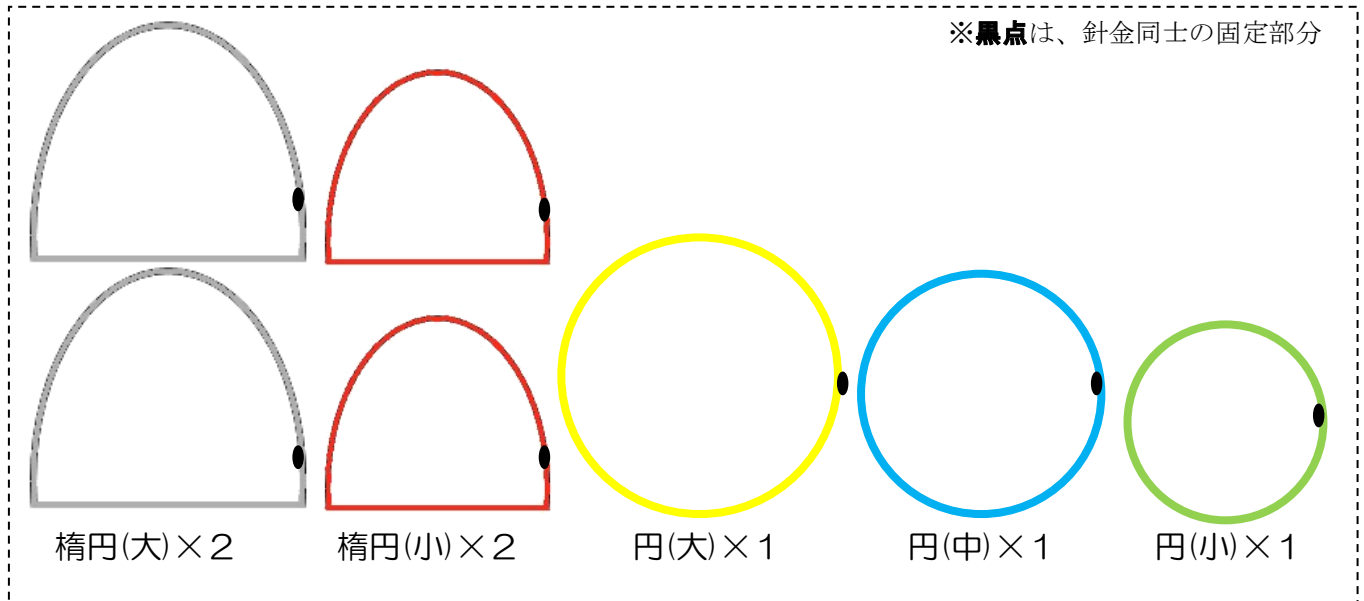
制作手順（考案教材）

制作の手順を分かりやすく説明するために、針金を色別に表している。

骨組みの部品一覧（キット型）

※研究プロジェクトが事前に用意した。

※黒点は、針金同士の固定部分



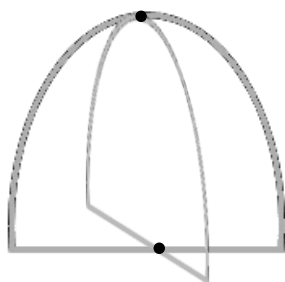
骨組み

児童に用意した骨組み

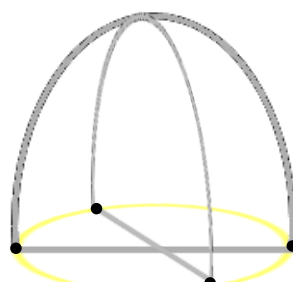
※固定方法は、北小だるま説明書と青森工業クラスねぶたテキストにて紹介。

糸の巻き方は、本場のねぶたの方法と同じ方法を用いる。

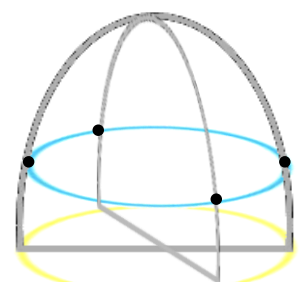
※既に結んだ黒点 ● は、次段階には、記載していない



①楕円(大)を中心に固定

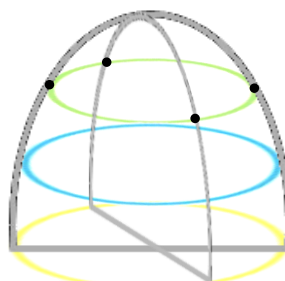


②楕円の外側の底に円(大)を固定



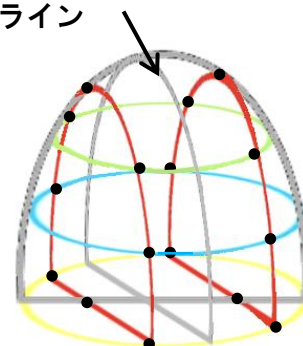
③円(中)を、ダルマの内側に入れる。

ダルマの大体中央で固定



④円(小)も、③と同様に内側に入れる。
ダルマの頭と円(中)の大体中央で固定

縦のライン



④楕円(小)をダルマの両サイドから、はめ込む。
真ん中の縦のラインと大体平行になるようにし、
マスが広すぎない範囲で、自分で調整し固定していく。

台の製作

木材で（図3-4）のように組み立て、側面の4面に高欄シート（実際に描いた高欄をA3でコピーを行なったもの）を貼った。台の制作は、予め研究プロジェクトが作った。

ベニヤ板

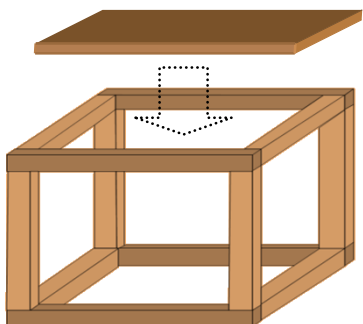


図3-4

高欄シート1面は、幅と高さがA3一枚だと、枠に収まりきれなかったため、A3コピーを2枚接着し1面をつくった。



高欄シート 図3-5

牡丹や縁の模様が装飾された面を高欄という。これはねぶた・ねぶたの台の一部に描かれている。

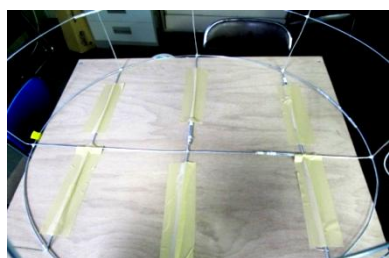


台の完成品 図3-6

台への取り付け

骨組みの底を台に、台に布製ガムテープでしっかりと留める。

短時間で、小学生でも簡単に固定できるように、ガムテープを選んだ。



取り付け方法 図3-7



設置後 図3-8

紙貼り・色付け

一マスずつ型をとり、ボンドを付け、組み立てた骨組みに膨らむように張る。

紙貼り・色付けの詳細は、[北小だるまねぶた説明書](#)と[青森工業クラスねぶたテキスト](#)にて紹介。

完成品（児童制作作品）



図3-9

骨組みから色付けまで、児童がすべて行なう

台は、筆者と研究プロジェクトが予め準備した。
台の側面には、高欄のコピーを貼っている。
底には、担ぎ棒も取り付けした。前後一人が付き、担ぐ。

制作教具・資料（考案教材）

①アイデアスケッチ用紙

制作に入る事前に、アイデアスケッチのような資料を描かせた。仕上がりを創造させ、迷うことなく色付けなどをスムーズに行うためである。用紙の下部には、使う色の項目を設けた。児童が色塗りのときに使う絵具の量や色を把握する。

（図3-10）

②テキスト

骨組み固定方法、組み立て、紙貼り、色付けのそれぞれの説明が記載されている。骨組みの順番が伝わりやすくするため、針金の色分けをしている。その他、色や画像を用い、視覚的に分かりやすくしている。この資料は、各グループに1セット置く分を用意した。

（図3-11）（図3-12）（図3-13）（図3-14）

③教具（紙板書・骨組み説明道具）

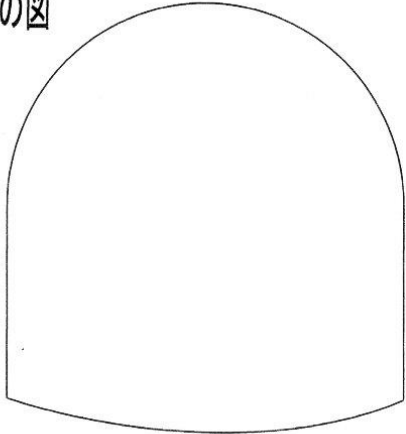
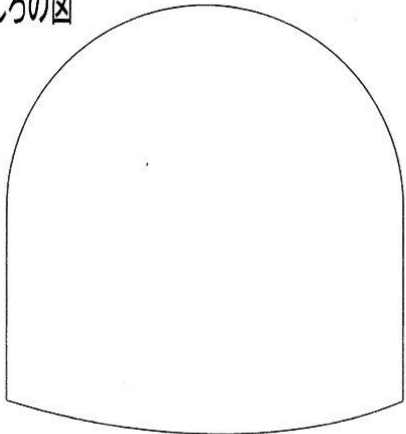
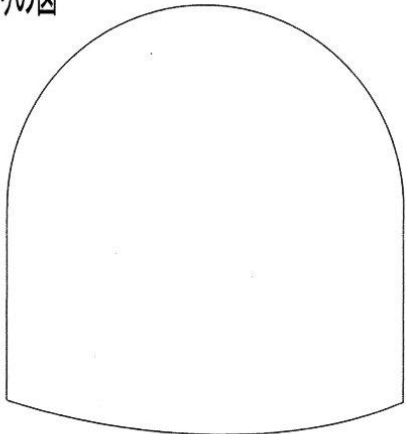
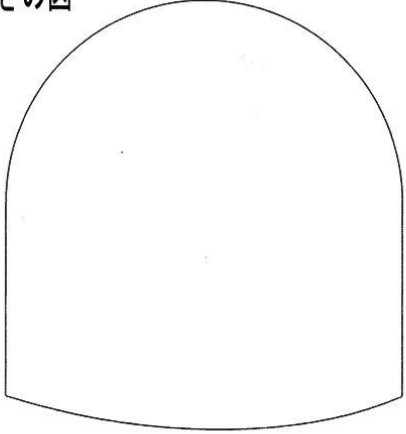
ねぶたの工程は、口頭や写真であると分かりにくい部分が多い、例えば骨組みは実物だけでは針金が細すぎたり、糸の巻き方が小さすぎて見えない。よって、拡大した図や大きな道具が効果的である。1つ目が紙板書、これは色やロウ書きが視覚的にイメージしやすい。木棒とロープは骨組みを表す。木棒が針金とし、ロープは糸を表す。これを見せながら、児童と一緒に固定方法を練習することができる。

（図3-15）（図3-16）（図3-17）（図3-18）（図3-19）（図3-20）（図3-21）（図3-22）（図3-23）

せっけい図(下絵)

※せっけい図は来週の授業で集めます。

班で話合^{かんせい}って、完成をよそうして「だるまねぶた」のもようやデザインをかながえてみましょう。

題名 _____	_____ 班	名前 _____	_____
まえの図 	うしろの図 		
ひだりの図 	みぎの図 		
色ぬりでは、 <u>下線</u> の色が使えます。使う絵具に丸をつけましょう。 くろ あお みどり き あか むらさき ちゃいろ 黒 青 緑 黄 赤 紫 茶色 紺ゾッ ピンク はだ色 ☆ねぶたには、 ^{えのく} 白い絵具は使わないので、白くしたい部分はぬらないでこーう!			

②テキスト（だるまねぶた説明書）

1 ページ目

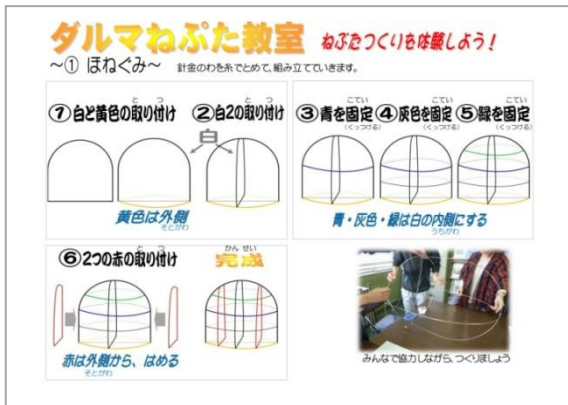


図3-1 1

2 ページ目



図3-1 2

3 ページ目

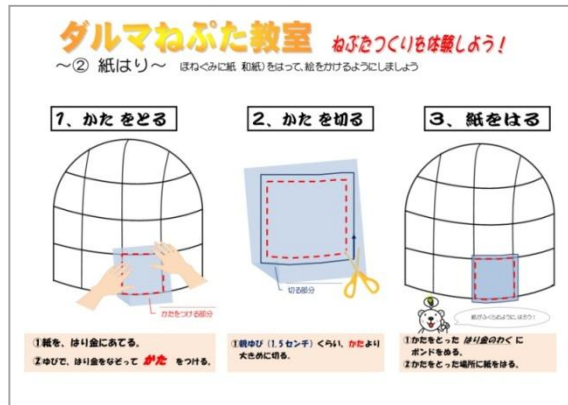


図3-1 3

4 ページ目



図3-1 4

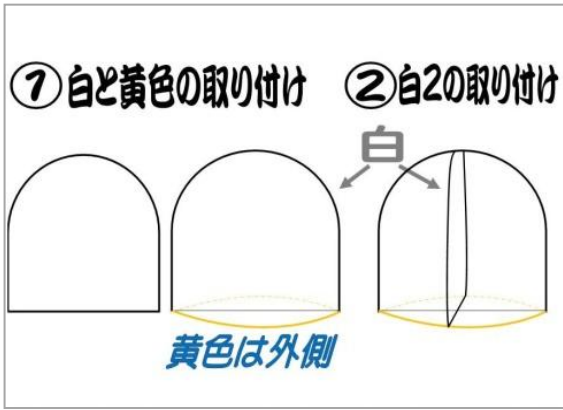
③教具（紙板書・掲示資料・説明道具）



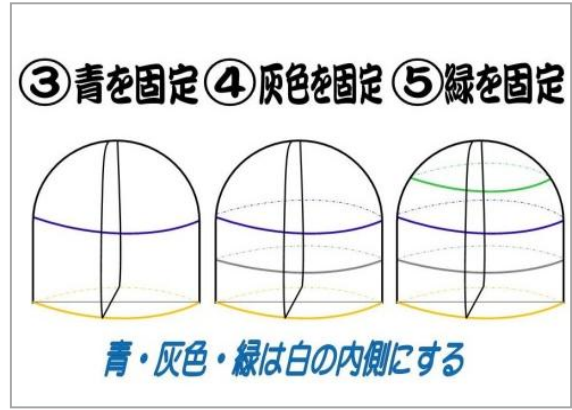
ねぶたの説明 図3-1 5



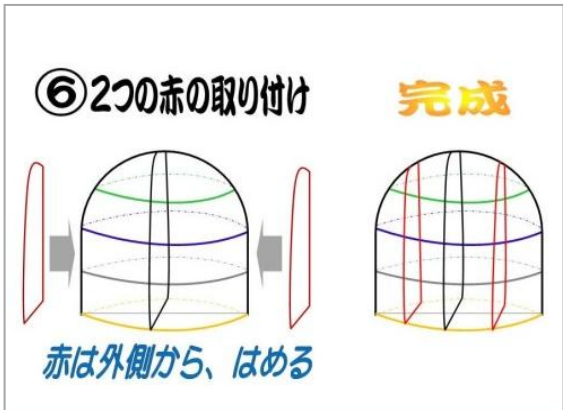
ねぶたの説明 図3-1 6



骨組みの説明 図3-17



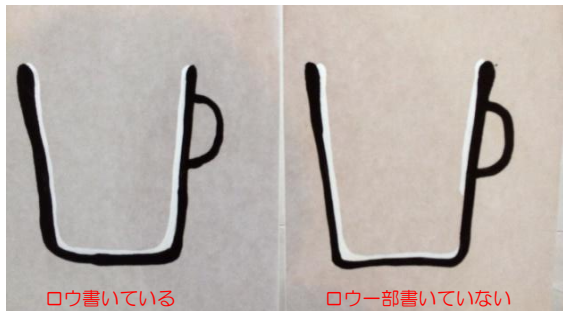
骨組みの説明 図3-18



骨組みの説明 図3-19



骨組み説明道具 ロープと木棒 図3-20



実験に用いたコップの絵 図3-21



実験に用いたコップの絵 図3-22



赤い線が、ロウを示す 色づけ説明 紙板書 図3-23

(4) 指導案（指導計画）

指導案は、研究プロジェクトによって作成された。以下の指導案は、当初の指導案に追加・編集したものである。実際に授業で問題提起をした、発問や質問等を一部付け加えた。

第1回 ねぶた出前授業			
【ねらい】 骨組みの制作を通して、平面から立体へのおこしかたを知る		日 時：平成23年6月3日（金） 場 所：弘前市立北小学校体育館 対 象：弘前市立北小学校4学年 授業者：山内 勇輝	
時間	授業者の働きかけ	予想される児童の反応	補助者の動き
導入 10分	1. ねぶた・ねぶたの説明 質問1 「この名前（図3-15）は何ですか」→ねぶた 「この名前（図3-16）は何ですか」→ねぶた 説明1 ・青森ねぶた、弘前ねぶたの違い ・扇ねぶた、組みねぶたの違い	「ねぶたー！」 「ねぶたー！」	
展開 65分	2. 制作工程の説明 説明2 ・ダルマねぶた作りの工程（制作の流れ） 説明3 活動1 ・骨組みの固定方法を一齐に練習（図3-20） 3. 骨組みを制作する 活動2 ・骨組みを制作する。 テープの色を確認しながら、骨組みを組み立てる	・糸の巻き方がよく分からない ・ボンドが手についてベタベタする ・固定した部分がぐらぐら ・左右均等にならない ・骨組みがゆがむ ・立体になってきたことに感動	・担当班に入り、補助を行う（保護者も入ってもらう）
まとめ 15分	4. アイデアスケッチ 活動3 ・制作が終わった班から、片づけをする ・片づけ後、用紙（図3-10）を渡し描かせる 5. 感想発表	・骨組みが終わらない ・何を描くか悩む	・過度に凝ったものにならないように、促す

第2回 ねぶた出前授業

日 時：平成23年6月10日（金）

場 所：弘前市立北小学校オープンスペース

対 象：弘前市立北小学校4学年

授業者：鎌田 沙織

【ねらい】

組ねぶたの制作過程である紙貼りを体験する。

時間	授業者の働きかけ	予想される児童の反応	補助者の動き
導入 10分	1. 素材の説明・今日の流れ 発問1 「ねぶたの台に描かれている花を知っていますか」 →津軽藩の家紋にもなっている牡丹（図3-5） 説明1 ・紙を触らせて説明（表はつるつる裏はざらざら） ・紙貼りの仕方を知る	「菊」「蓮」「牡丹」 ・和紙の性質に関心する ・すぐ破けてしまう	
展開 65分	2. 骨組みを台に固定 活動1 ・グループごとに、台の固定（図3-4）を行う 3. 紙貼りをを行う 活動2 ・みんなと協力して、一マスずつ貼っていく	・上手く型がとれない ・ピンと張らなくて悩む ・小さく切ってしまった	・担当班に入り、制作補助を行う（保護者も入ってもらう） ・担当班に入り、制作補助を行う（保護者も入ってもらう）
まとめ 15分	4. 片づけ		

第3回 ねぶた出前授業

日 時：平成23年6月17日（金）

場 所：弘前市立北小学校オープンスペース

対 象：弘前市立北小学校4学年

【ねらい】

だるまねぶたの絵付けを通し、ねぶたに対する興味・関心を高める 授業者：山内 勇輝

時間	授業者の働きかけ	予想される児童の反応	補助者の動き
導入 10分	<p>1. 色付け（墨書き・ロウ書き・彩色）の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 色付け全般の説明（図3-23） <p>発問1（実験）</p> <p>「ロウを描かないと、どんなことが起こると思うか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ロウが描かれているコップと描かれていないコップで比較する（児童に色を塗ってもらう） <p>→ロウが描かれていないと、コップから色が漏れてしまう</p>	<p>「爆発する」</p> <p>「色漏れる」</p>	
展開 65分	<p>2. 墨書き</p> <p>活動1</p> <ul style="list-style-type: none"> えんぴつで下書きをさせて、墨書き開始 <p>3. ロウ書き</p> <p>活動2</p> <ul style="list-style-type: none"> やけどに気をつけながら、ロウ書かせる（十分に換気する、ブレーカー落ちないようにホットプレートの温度管理） <p>4. 彩色する</p> <p>活動3</p> <ul style="list-style-type: none"> 色を協力し合い描かせる 	<ul style="list-style-type: none"> 立体に描くのは難しい 穴が空いてしまった 筆を焦がしてしまう 手や床に色を垂らしてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 担当班に入り、制作補助を行う（保護者も入ってもらう） やけどしないように、目を配る 数少ない色を、各班の調子を見ながら他班へ回す
まとめ 15分	<p>5. 片づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 終わった班から、片づけ行う <p>6. 感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ねぶた作り全体を通して、感想発表 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しさ、苦労点などを語る 	

(5) 実践記録

第1回 ねぷた出前授業

〈場所〉体育館 〈活動〉骨組み・アイデアスケッチ



図3-24



図3-25

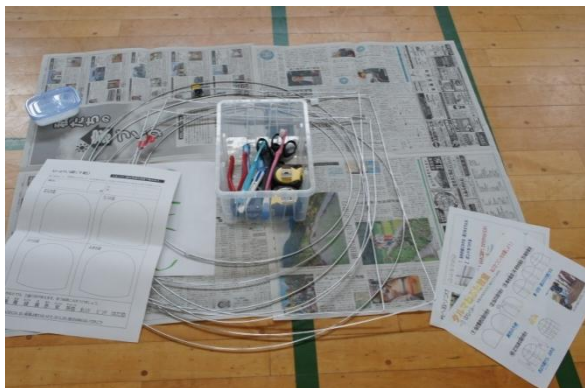


図3-26



図3-27

[導入]

1. ねぷた・ねぷたの説明

「青森ねぷた」「弘前ねぷた」のクイズや「扇ねぷた」と「組みねぷた」の違いを知らせ、制作への意欲を沸かせた。

[展開]

2. 制作工程の説明

骨組みから色付けまでの全体の制作工程の説明を実物と図を見せながら説明を行なった。その後、授業者が針金と糸を扮して木の棒とロープを使い、巻き方の説明を行ない、それを見ながら児童は一斉に骨組み（平行の方法・十字の方法）の固定の練習を行なった。

3. 骨組みを制作する

児童は12グループに分かれ、体育館の指定された場所で骨組みを行なう。

各場所には、材料と道具、説明書、アイデアスケッチ用紙を備えてある

骨組みには、色付きのテープが貼られている。そのテープの色を説明書に記載された順番に固定した。子どもたちは、協力してグループのねぷた骨組みの固定を行なった。

グループには、補助者と保護者の方も手伝いを行なった。授業者は全体を見まわる

4. アイデアスケッチ

終わった班から、片づけとアイデアスケッチを行なう。

第2回 ねぷた出前授業

〈場所〉 オープンスペース

〈活動〉 台への固定・紙貼り

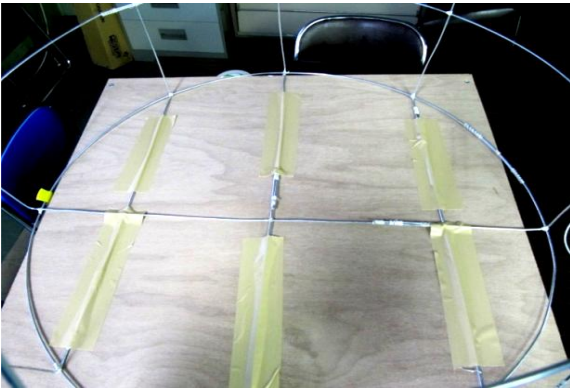


図3-7

[導入]

1. 素材の説明・今日の流れ

より地元の文化に触れるため、津軽藩の家紋である牡丹とねぷたの関わりを伝えた。和紙の特徴の説明を行なった

[展開]

2. 骨組みを台に固定

前回出来上がった、骨組みを台に固定した。

今回のねぷたは、完成後は運行予定（激しく動かしたりする動作）はないため、簡易的にガムテープでの固定にした。

3. 紙貼りを行なう

骨組みの一マスずつに和紙をあて、針金の当たっている部分を指でなぞり（画像3-28）型をとる。その後、型をとった範囲より1センチ程大きめに紙をはさみで切り取り、紙の裏縁にボンドを歯ブラシで塗り、貼りつける。

骨組みのマス全部に紙を貼っていく。

補助者と保護者もグループに入り、手伝いを行なった。授業者は全体を見まわる

紙貼りは、貼り方によって次回の色付けに影響が及ぶため、へこまないようにピンと張るように貼る事が大切である。

紙貼りは、工程の中で一番時間がかかった。

そのため、放課後も1時間程使い、終わらせることができた。



図3-28



図3-29



図3-30

第3回 ねぶた出前授業

〈場所〉 オープンスペース

〈活動〉 色付け（墨書き・ロウ書き・彩色）



図3-31



図3-32



図3-33



図3-34

色付けは、各班使う色が異なるため、アクリル系絵具を溶かしたものを各色バケツに分けて作っておいた。筆は色ごとに専用にし、何度も洗いに行くことがないように備えた。

墨は、紙コップにグループごとに分けた。

ロウは、ホットプレートで溶かして、描く。

2グループで一つのホットプレートを用いる。電氣量が高いため、コンセントは同室で集中すると、ブレーカーが落ちてしまうため、別室からも引っ張った。

[導入]

1. 色付け（墨書き・ロウ書き・彩色）の説明

紙板書で、色塗りの順番を伝えた。

色付けの要であるロウ塗りは、実験を行なった。

コップのイラストの縁にロウが塗っていない場合、内側に色を塗った際どうなるかを予想させた。色がこぼれるという反応（児童の反応）の通り、こぼれてしまう。

[展開]

2. 墨書き

3. ロウ書き

4. 彩色

アイデアスケッチで描いた通りに、線や色を塗った。ロウの説明がたっぷりで行なったため、色と色がぶつかり、にじんでしまうトラブルをほぼ無かった。完成後は、達成感にあふれ、笑顔が多く見られた。



図3-35

(6) 配布道具・物品

「だるまねふた教室」の授業にかかった道具と物品、注文内容を整理し報告する。

【配布道具】

1グループ分の物品	
クリアケース	1個
はさみ	2個
カッター	2個
ペンチ	1個
ワイヤカッター	1個
歯ブラシ	2個
ボンドケース (タッパー)	2個
木工ボンド	2個
メジャー	2個
ビニロン糸	1束
針金 (ダルマ部品)	1セット

針金の太さは、# 1 2 (2.6mm) × を使用

表3-2

全体共通の物品	
ガムテープ	1 2
ビス	1 ケース
角木材 1 寸角 6 本組	1 3 セット
⇒カット注文 (1 カット 5 0 円)	1 8 0 カット
ベニヤ板	1 2 枚
⇒カット注文 (1 カット 5 0 円)	3 0 カット
ぞうきん	1 2 枚
染料 (各 2 0 グラム入り)	6 袋
[赤・青・黄・緑・紫・橙]	
アクリル系チューブ絵具	8 個
[赤・青・黄・緑・紫・橙・黒・肌色]	
墨汁	1 本
墨筆	2 0
彩色筆 大	1 2
ローケツ筆 4 号 (ロウ書き)	1 2
絵刷毛 8 号	1 2
色用バケツ	4 0
紙コップ	1 2
ホットプレート	6
電気ドラム	3
高欄シート (A3 コピー)	9 6 枚
奉書紙 (和紙)	1 箱
ビニールテープ (各 1 色ずつ)	5 個
白・黄・赤・青・緑	
カッター替刃	1 セット

表3-3

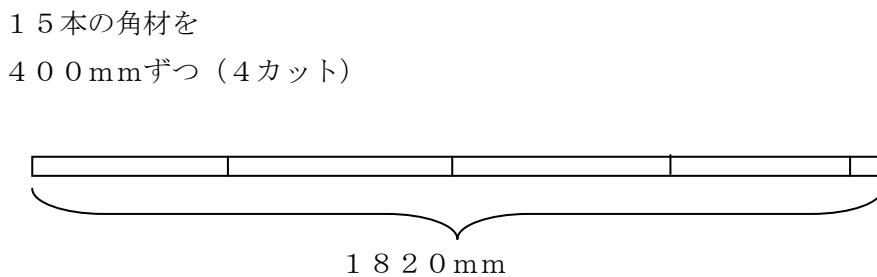
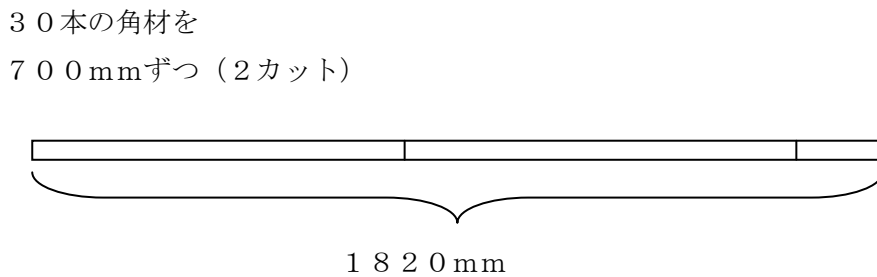
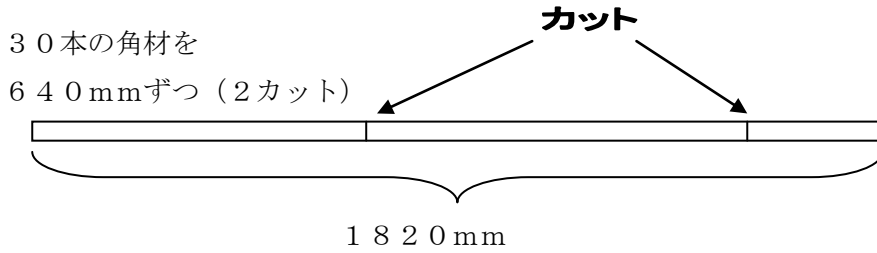
【注文内容】

物品購入にかかった経費は、省略する。

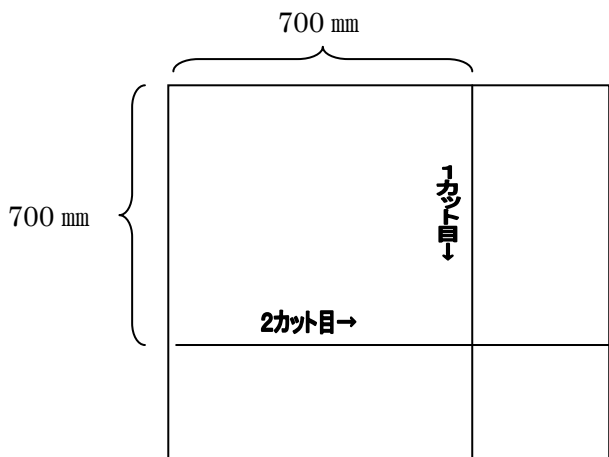
だるまねふたの台の各木材とベニヤ板は、ホームセンターにてカット（有料1カット50円）をした。

この注文内容を報告する。 カットした材料は（図3-4）のように組み立てた。

.....
荒材 全1820mm **1寸角6本組** × 13セット



カットベニヤ（4mm） × 15枚 2方向にカット



(7) 考察 ー実践を通してー

児童の様子・授業の課題

グループごとでの共同的なものづくりは、作業において子どもたちは責任感が生まれていたようだ。骨組みや紙貼りでは、途中で飽きて作業を止めることがしばしば見られた、だが同じグループの児童が、「ここは私がやるから、こっちをやって」、「頑張ろうよ」など自然と作業を分けてやっていたり、励ましがあつた。制作技術は、骨組みは色目印を合わせることで簡易的につくれることから、予想していた時間より早くしあげていた。一方で紙貼りは制作で一番苦労していたようだ。マスに紙を貼ると同じ作業を繰り返すことは、飽きを感じさせてしまったり、紙の貼り方を丁寧にやっても、膨らむように貼ることができず、紙がへこむことやしわが目立っていたりと紙貼り作業の難しさが感じられた。色付け作業に入ると、児童は自由に筆を進め、色付けもスムーズに進んでいた。色塗り作業、工程の中でも最後であり、仕上げの段階であることから、色を塗る場所を争うことも想定していたが、そのようなことが無く、色が塗っていない部分があると自然と率先して塗るように作業が進められていた。以上のことから、ねぶた（ねぶた）制作では、自主的な取り組みが多く見られた、これは、ねぶたという共同的なものづくりの特徴が大きいだろう。短時間の差作業でも、協力することで、早くでき、作品もはっきりと進みが目にみえてくる。この作品の出来が児童のやる気を起こしているだろう。これは総合的な学習の目標である、「自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に行動」に当てはまる。今後の授業の課題は、作業時間の短縮化である、紙貼りは放課後に及んでしまった。この原因は、膨らむように貼ることが上手くできず悩みながら作業していること。また、紙貼り後半になると貼る場所が限られるため、隣のマスで作業している人の真隣で作業ができず終わるまで待っている状態がある。紙貼り指導を授業者が丁寧に、骨組みの曲がり方と紙の膨らみ方の特徴を説明することで、張った紙貼りができると考えられる。また紙貼り後半の待ち時間は、状況をみながら、次工程の準備（色づくりやロウ塗りのホットプレートのセッティング等）を行なうことができると考えられる。

教材としての課題

現在小学校での、ねぶたの骨組みを自由な表現に挑戦させていることは、ほぼ無いといえる。同様に金魚ねぶたを一から全て作り上げている授業もほぼ無いことから、今回のだるまねぶた作り授業は、小学生という発達段階でも可能だと証明でき、一成果である。

本小学校での取り組みは、キット型の骨組みなため、児童自ら考えて形をつくることができなかつた。図画工作や美術科で取りあげることを考えると、より創造性のある教材にしていかなければならない。だが骨組みや紙貼りの基本的な技を習得していなければ、一から創造的な骨組みを求めると膨大な時間や、作業に追われることで表現の楽しさが減少してしまう可能性もある。より子どもが自由に表現できることを目指す授業構成が必要である。しかし難易度がさらにあがらない簡易的な方法でなければならない。

また、このねぶた授業の位置づけに気を配る必要がある。ねぶた授業は、あくまで、ねぶたを学ぶ授業ではない。小学校であれば総合的な学習の時間、図画工作の目標を叶えるための一教材である。よって、本場のねぶたの高度な技術を知らせることに近づける授業は、ねぶたという文化財への貢献であり、文化の勉強と言えるが、ねぶたの職人仕事の訓練ではないことを踏まえ、授業に臨むことを念頭に置いておかなければならない。

第2節 弘前大学教育学部 附属特別支援学校 高等部 総合的な学習の時間 「ゆきだるまねぶたづくり」授業実践

(1) 授業概容・目的・研究背景

特別支援学校高等部の総合的な学習の時間による、ねぶた授業「ゆきだるまねぶたづくり」の実践を行なった。本学校の学習活動の生徒像は「持てる力を総合的に働かせ、進んで課題に取り組む生徒」である。本学校の総合的な学習の時間では、様々なジャンルの取り組みがある、このねぶたづくりは、その内のものづくり班の活動一つとして実施。青森県はねぶたやねぶたが有名である。よって、ねぶたを題材にし、特別支援学校の生徒にとって分かりやすいようにねぶたが作れるような簡易的な教材（キット型）を考案した。本実践は、教材の考案は筆者が行ない、実践は対象学校の教員が行なった。教員は事前にねぶたについて学び、ゆきだるまねぶたを一から作り（筆者が指導をした）、授業に備えた。 ※弘前での実践であるが、本授業では「ねぶた」を取り上げた。

(2) 対象学校と実践状況

対象学校	弘前大学 教育学部附属 特別支援学校	
実践対象 (学年・特徴)	高等部5人 (3年生2人/2年生2人/1年生1人) 知的障害、自閉症、手が動かさにくい障害を持つなどの生徒が居る	
実施時間	総合的な学習の時間にて ねぶた授業を4回に分け実施した。	
	①ねぶた・たちねぶたの違いを説明・紹介 骨組み・アイデアスケッチ	2時限連続(80分)
	②骨組み・紙貼り	2時限連続(80分)
	③色付け(墨書き・ロウ書き・彩色)	2時限連続(80分)
	④色付け・発表準備(スライド作成)	2時限連続(80分)
授業者	本学校教員1人(事前に、ねぶたづくりのレクチャーを受けた)	
授業サポート	大学生3人	

④の発表準備とは、総合的な学習の各グループによる全体発表会のための準備である。 表3-4

(3) 制作物・教材の開発

ゆきだるま型のねぶたを制作。特別支援が必要な生徒(重度の障害をもつ生徒はいない)でも制作可能な教材にするため特別支援学校の教員と検討をし、ねぶた教材を考案した。この教材は、キット型の教材にし、予めゆきだるま型や円などの枠を準備した。生徒の障害に応じて、骨組みの組み立てを一部行なったものも用意した。大きさは、幅・奥行きが約15cm、高さは約25cmである。台の制作は行っていない。灯りは、電気配線の不要なLEDのミニランプを使用(百円均一商品)



図3-36



図3-37

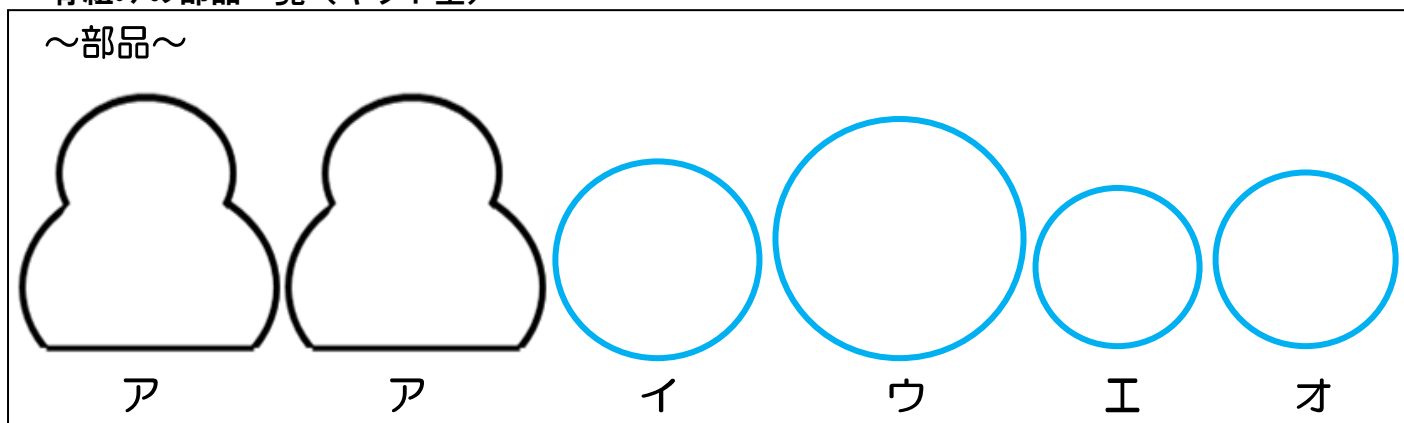


図3-38

制作手順（考案教材）

制作手順が分かりやすいように、色別で登載。生徒には、骨組みの組み立てが一部固定されて渡されているため、制作手順の書かれた説明用紙は配っていない。

骨組みの部品一覧（キット型）



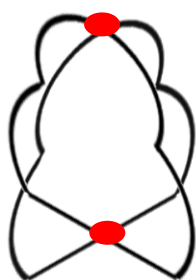
骨組み

※固定方法は、北小だるま説明書と青森工業クラスねぶたテキストにて紹介。

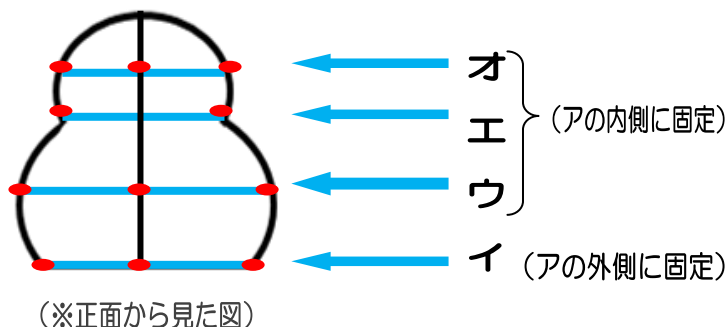
糸の巻き方は、本場のねぶたの方法と同じ方法を用いる。

①アとアを固定

②イ、ウ、エ、オ を順番に固定します



※赤点は、針金同士の固定部分



【骨組み 一実物一】

ゆきだるまの型



図3-39

①アとアの固定



図3-40

②イの固定



図3-41

②ウ・エ・オの固定



図3-42

紙貼り

ーマスずつ型をとり、ボンドを付け、組み立てた骨組みに膨らむように張る。
雪だるまの底面は貼らない（最後にミニランプを仕込むため）。

①指でなぞり型を取る

②ボンドを枠（型の内側の縁でも可）に塗る

③ーマスずつ貼る

④紙貼り完成



図3-43



図3-44



図3-45



図3-46

色付け

墨書き、ロウ書き、彩色の順に、色付けを行なう。

色塗りの詳細は、[だるまねぶた説明書](#)と[クラスねぶたテキスト](#)にて紹介。

ランプを仕込む

完成したねぶたの底にミニランプ（図3-48）を置く。

①指でなぞり型を取る

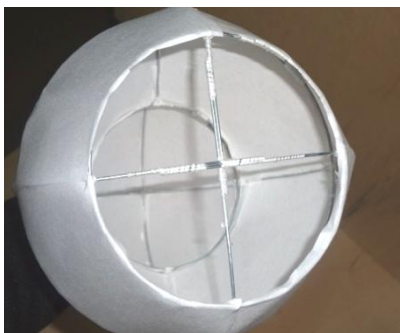


図3-47



図3-48

完成品（生徒制作作品）

5人の完成作品

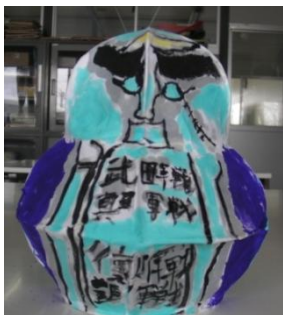


図3-49



図3-50



図3-51



図3-52



図3-53

制作教具・資料（考案教材）

①アイデアスケッチ用紙

模様や輪郭や色をどのように描くかを予想し、下書きをこの用紙に行なう。仕上がりを創造させ、迷うことなく色付けなどをスムーズに行うためである。生徒が描くときに使う絵具の量や種類を把握する。

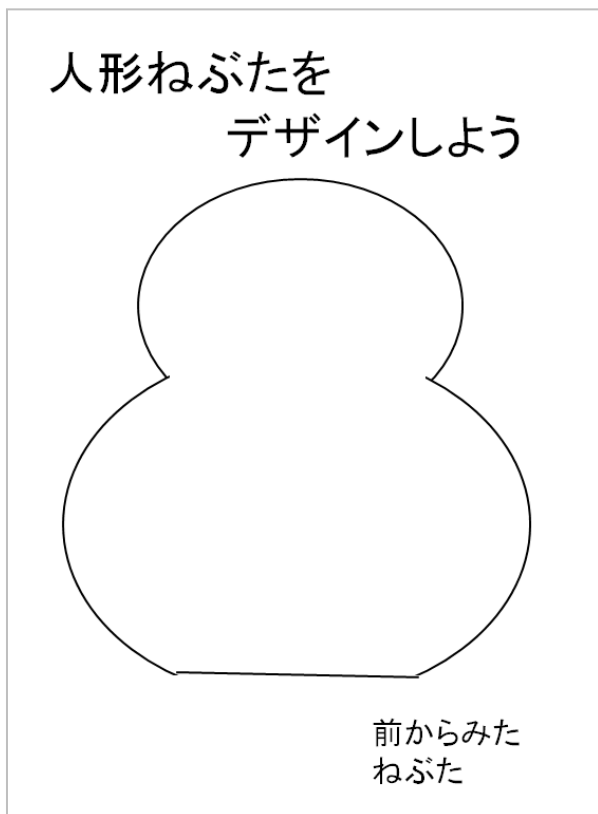


図3-54

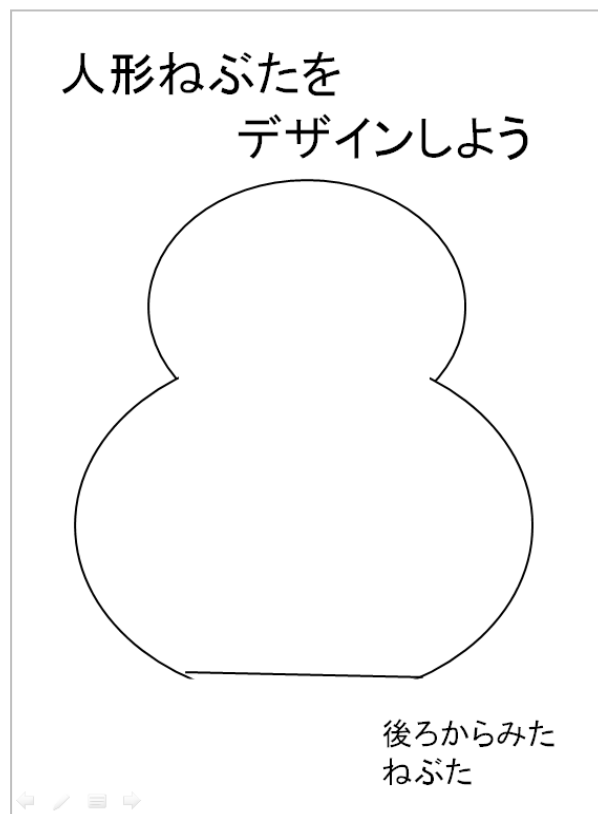


図3-55

②教具（スライド）

授業の導入部分のねぶたとたちねぶたの違いを伝える部分では、視覚的に比較しやすいようにスライドをテレビ画面に繋ぎ説明を行なった。工程の説明では、電子タブレットを一台使い、予め撮影しておいた骨組みの固定方法・紙貼り方法・色付け方法の映像を見せた。少人数（5人）の授業であったため、画面の小さい電子タブレットでの映像でも可能であった。

※スライド画像は、（4）指導案（指導計画）の指導案内に登載

(4) 指導案（指導計画）

指導案は、特別支援学校の教員によって作成された。以下の指導案は、当初の指導案に追加・編集したものである。実際に授業で問題提起をした、発問や質問等・画像を一部付け加えた。

第1回 ゆきだるまねぶたづくり授業

日時：平成25年2月19日（火）

場所：特別支援学校 学習室

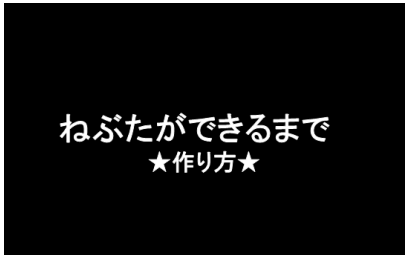
対象：高等部1～3学年（5人）

授業者：特別支援学校 教員

【ねらい】

骨組みの制作を通して、平面から立体へのおこしかたを知る

時間	授業者の働きかけ	予想される生徒の反応
導入 20分	<p>1. サポートの先生紹介</p> <p>2. 制作するねぶたを説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の制作したねぶたを見せる  <p>3. ねぶた・たちねぶたの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを使用し説明（授業サポートの筆者が説明） <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="292 1153 679 1435">  <p>①「どちらも、ねぶたという名前ですが、どんな違いがあるのでしょうか」</p> <p>②「立ちねぶたは、ビルの5階程（写真右）あります、縦に長いのが特徴です。」</p> </div> <div data-bbox="691 1153 1067 1435">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="292 1592 679 1839">  </div> <div data-bbox="691 1592 1067 1839">  </div> </div> <p>③「次に、ねぶたです。」④「たちねぶたと比べて見ても、青森ねぶたは、横に長いです。造りもとても細かく作られています。」</p>	<p>・「ゆきだるまだ」</p> <p>・「おおー立ちねぶただ！」</p> <p>・「おっきい」</p> <p>・「すごい高い」</p> <p>・「青森ねぶた！」</p>



⑤「皆さんには、今日からねぶたをつくってもらいます。」「では、実際のねぶたが作られる工程を確認していきましょう。」

⑥「(右写真) 始めに、ねぶた師の人は、完成予想図になる、下絵を書いていきます。」



⑦「(左写真) 次に、針金で形をつくる骨組みを行ないます。」

⑧「(右写真) 骨組みが終わると、中に電球が入れられ、骨組みに紙を貼ります。」



⑨「そして、色付けをします。墨で線を書き、ロウをぬり、色をつけて完成です。」

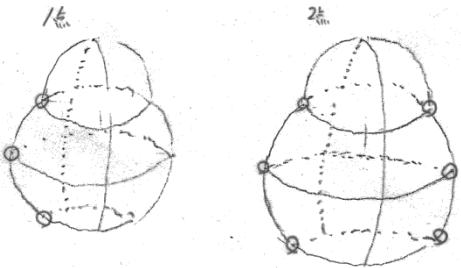
・針金で組むことを知る

・「はやく、自分のねぶたもつくりたいなー」

展開
50分

4. 骨組みの制作

- ・ある程度できた、骨組みを渡し、固定されていない一部を授業者が固定のやり方を師範する。その後、生徒は骨組みを行なう。
(生徒に渡す骨組みには、生徒に応じて予め数箇所(図の○で囲んでいる部分)が固定されている。)



・骨組みの難しさを感じる

まとめ
10分

5. 片づけ・手洗い

- ・指定の場所へ片づける。
- ・宿題の説明「来週までに、A4/A5スケッチの用紙にデザインを考えてくる」

・片づけを行なう
・「何書こうかな」

第2回 ゆきだるまねぶたづくり授業

日 時：平成25年2月20日（水）

場 所：特別支援学校 学習室

対 象：高等部1～3学年（5人）

授業者：特別支援学校 教員

【ねらい】

紙貼りの方法を知る。

時間	授業者の働きかけ	予想される生徒の反応
導入 10分	1. 紙はりの説明 ・電子タブレットの動画を見せる（紙はりの仕方を撮影したもの）。	
展開 60分	2. 骨組み（残り）と紙貼り ・紙貼りでは、しわくちゃにならないように指導していく。	・上手く型がとれない
まとめ 10分	3. 片づけ・手洗い ・指定の場所へ片づけを行なう。	

第3回 ゆきだるまねぶたづくり授業

日 時：平成25年2月21日（木）

場 所：特別支援学校 学習室

対 象：高等部1～3学年（5人）

授業者：特別支援学校 教員

【ねらい】

色付けの方法を知り、立体のキャンパスに描く。

時間	授業者の働きかけ	予想される生徒の反応
導入 10分	1. 色付けの説明 ・電子タブレットの動画を見せる（色付けの仕方を撮影したもの）。	
展開 60分	2. 紙貼り（残り）と色付け ・墨書きをするところを案内する。 ・ロウ書きは、ヤケドに注意し、筆を焦がさないように目を配る。 ・生徒の進度を見て、色を用意する ・完成した生徒には、ミニランプを渡し照らしてみる。	・墨が思うように書けない ・感動する
まとめ 10分	3. 片づけ・手洗い ・指定の場所へ片づけを行なう。	

第4回 ゆきだるまねぶたづくり授業

日 時：平成25年2月22日（金）

場 所：特別支援学校 学習室

対 象：高等部1～3学年（5人）

授業者：特別支援学校 教員

【ねらい】

色を塗り完成させ、発表の準備をしよう。

時間	授業者の働きかけ	予想される生徒の反応
展開 70分	1. スライド制作の説明 ・一台のパソコンに生徒を集め、やり方を見せながら説明をする。 2. 色付け（残り）とスライド制作 ・色付けの残りのある生徒を優先し、支援する。 ・ねぶたが完成した人は、ねぶたと一緒に記念撮影をする。	・真剣に描く ・完成に喜ぶ
まとめ 10分	3. 片づけ・手洗い ・指定の場所へ片づけを行なう。	

（5）実践記録

第1回 ゆきだるまねぶたづくり授業

〈場所〉学習室 〈活動〉骨組み

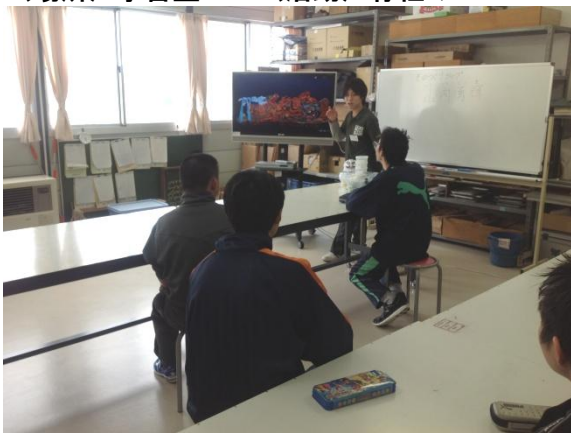


図3-56

[導入]

1. サポートの先生の紹介
2. 制作するねぶたを説明
3. ねぶた・たちねぶたの説明（図3-56）

生徒の中には、ねぶたが大好きな人もおり、真剣に聞いていた。詳しいねぶたの説明をすることで、制作への興味を惹くことができたと思われる。

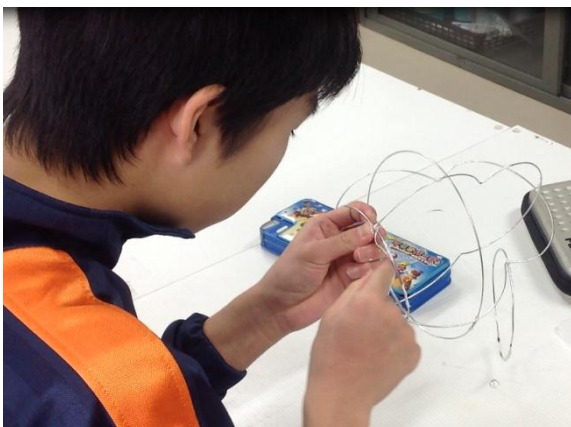


図3-57

[展開]

2. 骨組みの制作

手が動きにくい生徒もいるため、教員とサポートの先生が生徒一人ずつにつき、骨組みを支えてあげたり、固定の順番を知らせながら、制作を進めた。



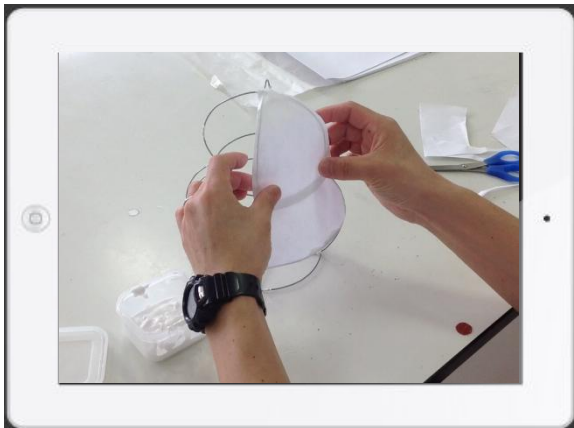
図3-58

細かい作業であるが、巻き方も綺麗に結べていた。

ボンドの付ける量（適量）も、はじめは、多く取りすぎて、ベタベタになっていたが、後半は慣れてきていた。

第2回 ゆきだるまねぶたづくり授業

〈場所〉学習室 〈活動〉骨組み・紙貼り



電子タブレット（はめ込み合成画像） 図3-59

[導入]

1. 紙貼りの説明

電子タブレットで、紙はりの仕方が映った動画を見せ、説明を行なった。

その後、教員が実物を使い、師範を行なった。

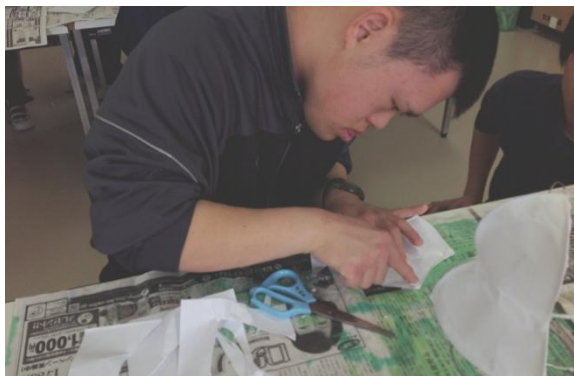


図3-60

[展開]

2. 骨組み（残り）と紙貼り

紙はりの説明後、生徒は教員等には聞くことなく、すぐに、紙貼りを進めていた。



図3-61

紙貼りは、どの生徒も苦戦していた。なぞった型を切り取り、骨組みに合わせてみると、切りすぎていることもあった。

ねぶたの骨組みに紙を貼ることは、独特な作業であり、障子のように枠にピンと張るように貼ることが難しいため、紙がへこんでしまい、しわが目立つこともあった。

第3回 ゆきだるまねぶたづくり授業

〈場所〉学習室 〈活動〉紙貼り・色付け



図3-62



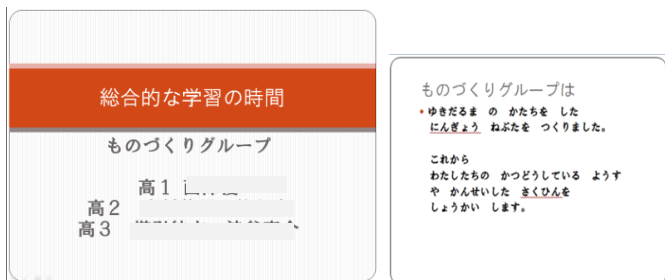
図3-63



図3-64

第4回 ゆきだるまねぶたづくり授業

〈場所〉学習室 〈活動〉色付け・スライド制作



生徒がつくったスライド（一部） 図3-65

[導入]

1. 色付けの説明

紙貼りと同様に、電子タブレットを用いて、説明を行なった。

[展開]

2. 紙貼り（残り）と色付け

アイデアスケッチで描いた下絵を基に、墨やロウを書いた。

非常に、静かに真剣に取り組んでいた。

骨組みや紙貼りに比べると、スムーズに描いていた。

生徒からロウ書きの必要な部分を聞かれることが多く、ねぶた全体がロウで色が入る部分が少なくなりすぎないように注意し要望にこたえる必要があった。

ポスターカラーは、1色につき、2容器ずつ用意した、生徒は代わる代わる使用する。

完成した生徒は、ねぶたを持って暗室（真っ暗闇になれる部屋）に持ち込み、一人一人点灯式を行なった。

作業中は、非常に静かに取り組んでいたが、ここでは、ライトを付けると歓声を上げ、とても満足していた様子であった。

[導入]

1. スライド制作の説明

[展開]

2. 色付け（残り）とスライド制作

制作するスライドの内容は、自分のねぶたの説明文と感想、記念写真をまとめること。

少々、感想文の言葉を考えることに時間がかかった。

(6) 配布道具・物品

ゆきだるまねぶたづくりに使用した道具・物品を報告する。各道具の用途は、記載していない（指導案・実践記録を参照）。

【使用した道具・物品】

生徒5人分の道具・物品	
針金（ゆきだるまの部品）	5セット
ビニロン糸	5束
木工ボンド	1パック
タッパー（ボンド入れ）	5個
はさみ	5個
奉書紙（和紙）	30枚程度
墨汁	1本
墨筆	5本
ロウソク（パラフィン）	1欠片
メルポッド（自動電熱ロウ容器）	2台
ローケツ筆 4号（ロウ書き用）	5本
ポスターカラー（百円均一）	5色
[赤・青・黄・緑・紫・橙]	
彩色筆 8号	10本
容器（色を入れるもの）	10個
LED ミニランプ	5個

針金の太さは、# 1 2 (2.6mm)×を使用

表3-5

(7) 実践におけるねぶた制作への意識

特別支援学校におけるねぶた授業の評価として、授業者である教員と生徒に、自己評価や意識への調査を行なった。

ねぶた授業アンケート〈教員〉

質問1：今後、ねぶたを学校で取り入れたいと思いましたが

「はい。今回（25年度2月）、生徒一人で1つのゆきだるま型のねぶたを作りました。今後は共同制作で1つの少し大きめなねぶたが作れるといいのではないかと考えています。」

質問2：—授業準備について— 事前にねぶたづくりを学び、計画等を行ないましたが、ねぶた教材研究の際において、工夫点・苦労点・要望

要望「総合の時間でねぶたを扱うとしたら、歴史（いつから始まったのか）、実際のねぶた祭りのことなど調べることができると思うので、社会科の先生と連携がとれるといい（特別支援学校には、社会科がないので、社会の免許のある先生に協力をお願いするなど）。」

質問3：ねぶた授業を実施してみて、授業の良かった点・苦労点

「ゆきだるま型のねぶたは、とても見通しが持てる。作業工程も難しくなく、作り方を動画等で見せると生徒はすぐに理解して作業に取りかかれるので、とてもよかったです。指導者側の準備として骨組みは慣れていない人だと部品を事前につくことも厳しいものも一部あるなあと感じました。特別支援学校だと、生徒一人一人の実態に差がかなりある場合があります、この実態に合わせて作業工程を考えるのが一番苦労点でした。」

ねぶた授業アンケート〈教員〉の考察

アンケートの結果から、授業でのねぶたの拡大化、グループワーク、別教科との連携が上げられている。このことから苦労点もあるものの、今後のねぶた授業への意欲や関心がみられる。本実践の授業者である教員は、実践が決まってから、初めてねぶたへ知識学習をし、ねぶた制作を技を学ぶこと（事前の制作活動）に着手した。以上の理由から、質問3の「慣れていない人だと部品を事前につくことも厳しい」という回答が出たと考えられる。しかし、生徒と同様に、教員も覚えたてのねぶた技術だからこそ、生徒へ分かりやすい説明を考え、実践していた。それは、電子タブレットでねぶたの作り方の一部を動画で大きくみせることや、授業での声かけである。試行錯誤した授業づくりであるだけに、「実態に合わせて作業工程を考えるのが一番の苦労点」と挙げられている。また社会科との連携を図ることが述べられていることは、「青森ねぶた」という文化的側面として、社会科の授業で取り上げることが期待できるということではないだろうか。ねぶたを一教材とし、社会科、総合的な学習の時間の連携は、双方に影響を与え、まとまりのある授業へと期待ができるだろう。

※アンケート用紙は、本論文の資料として添付されている。

ねぶた授業感想〈生徒〉

授業感想は、意識が文章で特に判断しやすい3年生を読み取る。感想文には制作の経過と事実が多くかかれているため、授業への意識は、文章全体の雰囲気を理解していく。

※以下、作文全文を登載（赤文字は、感情が表れている部分 青文字は、特に学べている部分）

Aさん

総合的な学習の時間をふりかえって

総合的な学習でねぶたをやりました。ねぶたでだるまをつくりました。だるまで紙はりをやりました。紙はりでぬったりをしました。ボンドでつけました。そして、紙はりをしました。全部はりました。顔とか服とかを書きました。そして色をぬりました。色は絵の具でぬりました。水色と青でぬりました。全部ぬりました。あと黄色とはだ色と黒をぬりました。そして、完成しました。完成したので、電気を暗くして見ました。そして電気がつきました。あかるかったです。そして完成のを写真にとりました。完成した写真はパソコンにうつっていました。あと動画もありました。動画は完成したのにうつっていました。2枚作っているところがうつっていました。あと、写真もとっていました。全部写真に写っていました。水曜日に発表の練習をやりました。少し練習をやりました。読むところをかいていました。そして、水曜日に発表をやりました。4つのグループで集まりました。座ってみんなの発表を聞きました。そして最後に発表をやりました。動画と写真を見せました。だるまが電気をつけている所の動画を見せました。

Bさん

総合的な学習の時間をふりかえって

僕は、総合的な学習で、ものづくりグループになりました。そのグループで初めての人形ねぶたを作りました。人形ねぶたの作り方はまず、骨組みの針金に糸とボンドで巻きつけていきます。次に、和紙を骨組みの枠に合わせた後、ハサミで切り取ります。切った和紙にボンドをつけてはって行きます。僕はこの作業で、指にボンドがたくさんついてしまい大変でした。

次は、和紙に鉛筆で穴を開けないように、下絵を書きます。でこぼこしているところもあって、けっこう苦しかったです。次に、下絵を書いた上にすみをぬりました。この作業は意外と楽にできました。

次は、ロウぬりです。他の色がつかないようにつけるためです。ロウには、他の色をはじく力があります。最後に色付けをして完成です。

僕がつくった作品は、赤をたくさん使ったので、色付けが大変でした。そして、ろうをぬらずにやった所もあったので、そこは慎重にやりました。完成した人形ねぶたの中に灯りを入れて写真と動画をとりました。三年生の総合的な学習でとても素晴らしい作品ができました。うれしかったです。

Cさん

総合的な学習の時間をふりかえて

総合の学習で僕はものづくり班で人形ねぶたを作りました。人形ねぶたの作り方では、最初に骨組みができて、その**骨組みを糸で2回結んでその後ボンドを付けて**そして、ねぶたの骨組みを作りました。次は、骨組みの輪に和紙を貼る作業をしました。最初に**和紙を骨組みの所に合わせる作業をしてからハサミで切って、そして裏にボンドを塗り、そして貼りました。合計12枚貼ってかなり長かったけど上手に出来ました。**次は、ねぶたの人形の全体に鉛筆で絵を書きました。その後すみで書いたところをなぞって、その後、ろうぬりをしました。**ろう塗りを塗る時は周りに色が混ざらないように縁をつけながら、ろうを塗りました。**ろうを塗った後は、色付けをしました。僕はアイスクライマーを書いて、**少し難しいところもありましたが順調に色を塗っていき、後ろには任天堂というおなじみのマークを書いて完成しました。**完成した後は、暗い部屋で自分が作った人形ねぶたでライトを使って**本物のねぶたになりました。**僕が作ったのは「アイスクライマー」を作ったので**雪山とスキー場を歩いたように見えました。**完成した後はパソコンを使って、自分が作った感想や作っている様子などを入力して、できました。写真では、映像シーンや自分と相手が作っている人形ねぶたがでできました。水曜日には総合の発表がありました。最後は、ものづくり班の発表をして全員が作ったねぶたを前の人に見せて、**良い評価を受けました。**次に、ものづくり班から作り方の説明をして、人形ねぶたができるまでの道のりをテレビの映像を見せながら、皆の前で発表しました。

僕はものづくり班になって、感想は、**人形ねぶたの作り方は僕にも分らなかったけど、班の全員でやって、人形ねぶたの作り方を一日ずつ覚えていきました。**

ねぶた授業感想〈生徒〉の考察

「他の色がつかないようにつけるためです。ロウには、他の色をはじく力があります。」「ろう塗りを塗る時は周りに色が混ざらないように縁をつけながら」などロウの特徴を説明している回答が多い。ロウ書きという作業は、初めての作業であるだけに、学んだことを伝えたいという思いを伺える。「でこぼこしているところもあって、けっこう苦しかったです」、「合計12枚貼ってかなり長かったけど上手に出来ました。」、「指にボンドがたくさんついてしまい大変でした。」など、回答の中でも紙貼りの苦労が多く挙げられる。やはり、平らな面が少なく、かつ、貼る面数が多いねぶたの紙貼りは、大変だったようである。紙貼り後の作業では、色塗りの楽しさと完成後の嬉しさなど、達成感による喜びが多く見られる。始めは部品として、バラバラだったねぶたが、紙が貼られ、色を塗り立体的になる。このような目に見えて完成していく様が、最後の達成感や完成度の高い自分の作品をみて感動につながったのだと思われる。また障害の内容にもよるが、紙貼りのような難しい場面が何度もあるようなねぶた作業は、途中で投げ出してしまう場面も考えられたが、生徒の感想からは、「長かったけど上手にできた」という回答もあり、生徒にとっては非常に集中でき主体的に取り組める教材であると確認することができる。

(7) 考察 ー実践と調査を通してー

考察 授業の生徒様子・教材としての課題

ねぶた製作の生徒の様子は、黙々と作業を進めていたことから集中していることが伺えた。分からない部分は教員や授業サポートの先生に積極的に聞くなど、熱中していた様子である。そして完成後には、生徒同士で作品を見合い、自身の作品を自慢するなど、自然と自他の評価しあっていた。授業の計画の際には、ねぶた作業の時間配分や、授業の進め方をするのが適当なのかが難問であった。しかし視覚的に分かりやすい掲示、模型的に工程の案内を示めすような教材を使ったこと、導入部分の青森ねぶたや五所川原のたちねぶたの話題などを取り上げることでモチベーションや向上心も上がり作業もスムーズに進めることができ、予定時間より早い作業を進めることができたのだと考える。そのため、今回事前に障害の程度により3人の骨組みを何点か予め固定していたが、もし骨組みを始めから全て（部品を全て一部固定しないで渡すこと）任せたとしても、それほど個人差も出さずに、進めることではなかったらどうか。

教員には、ねぶたづくりを事前にレクチャーを行ない、生徒と同じゆきだるまねぶたづくりを時間を計りながら、実際につくってみたが、生徒と同等程度の時間がかかった。このことから、ねぶた製作の特殊な作業（骨組みを糸で固定するなど）は障害の程度によるが、障害の有無に限らず、初めてのねぶたづくりであれば、誰でも等しい技量で製作を行うことができるのだと確認できた（障害の程度による）。

教員、生徒のアンケートの回答から、このねぶた授業は、制作を通して苦労や楽しさ・感動などの感受性を磨けたと思われる。作業学習として、ねぶたづくりは特別支援学校にも適している教材だろうと考えられる。

第4章 クロスカリキュラムを想定した実践研究と調査結果

第1節 青森県立青森工業高等学校「クラス担ぎねぶた」講習実践

(1) 対象学校のねぶた活動紹介（既に行なわれている）

①文化祭 クラスねぶたの制作・公開

文化祭にむけた、各クラスの準備活動として、本学校（生徒会による企画）ではアートパネル（展示・模擬店看板）製作やクラスCM撮影など、ものづくり活動が行なわれている。2008年には、新たにものづくり企画「クラス壁掛け金魚ねぶた」が創案された。生徒らは、金魚ねぶたの骨組みを共通の基礎とし、装飾やキャラクター風にしたりと独特な金魚ねぶたが作られた。文化祭当日は、体育館のギャラリーの柵に展示された。翌年には、更に本格的なねぶたが求められた。ものづくり企画「創作ねぶた」である。創作ねぶたは、従来の壁掛け型ではなく、地面に置き、縦に立つような構造となる。よって小さな子どもねぶたのようなものをイメージするとよい。「クラス壁掛け金魚ねぶた」、「創作ねぶた」はどちらも、製作に入る前には、事前の骨組みの講習が行なわれる。ここでは、針金の固定方法と紙貼りの仕方を学ぶ、講習の指導者は、生徒会の生徒である。製作したねぶたは、文化祭当日は、廊下やステージなど飾られる。毎年配置の仕方は変えるなど、年々、文化祭の演出を模索しつづけている。これらは文化祭の装飾として人役かっている。



クラス壁掛け金魚ねぶた 図4-1



創作ねぶた制作の様子 図4-2



創作ねぶた展示 図4-3



創作ねぶた展示 図4-4

②課題研究 ねぶたを活かした研究

本学校は、課題研究（卒業研究）の時間を用いて、ねぶたを活かした研究や製作が行なわれている。本学校の課題研究は三年生が数名で班を編成し、各班で1つの課題を設定し、卒業までに週数時間の単位でその課題に取り組むというものである。共同した研究の中で、作品の質だけではなく、ものづくりの過程や研究の方法など生徒が主体的に取り組んでいく。時間は週一日の3時間であり、4月から12月頃まで制作に力を注ぐ。生徒が中心となり研究を進めていくが班ごとには担当の先生が付き、助言や製作指導がされる。本学校では、ねぶたを課題に決め、研究に取り組んだ実践が過去に4度ある。この課題研究により小型のねぶた過去3台（2003年度・2009年度・2010年度）と、ねぶた技法を使った大型灯籠（2010年度）1台をつくっている。生徒が骨組み、電気配線、紙貼り、色ぬりまでの全部行う。場所は各科それぞれ異なり、各科の実習部屋を使用する。これまでのねぶた研究一例としては、「ねぶたの灯りの研究（白熱電球の製造中止による、ねぶたへの灯りの影響を考えた）」や「ねぶた型灯籠による光の空間演出の変化」等である。



電気科課題研究（2003） 図4-5



電気科課題研究（2009） 図4-6



電子科課題研究（2010） 図4-7



電気科課題研究（2010） 図4-8

③ねぶた部（工業クラブ ねぶた研究部門） 担ぎねぶた製作・運行

本学校は、毎年、夏の青森ねぶた祭に参加している。本学校は、昔ながらの担ぐスタイルのねぶた「担ぎねぶた」を取り入れ、生徒が制作から運行（担ぎ手・囃子）まで行なう。担ぎねぶたの始まりは、大型ねぶた参加団体である青森青年会議所が「ねぶたを通じて地域への愛着を育てたい」という働きかけを受けたことがきっかけであった。同会議所の支援を受け、大型ねぶたの前ねぶたとして制作運行に携わってきた。その後、2003年には前ねぶたという枠組みから離れ、本学校独立のねぶたが始まった。それから本年（2014年）まで、前ねぶた時代から含めると22年間、ねぶた祭に参加している。毎年新作を出し続け、祭り関係者や市民からの評価は年々高まっている。

制作を行なっているねぶた部は、ねぶた祭が終わると秋には、翌年のねぶたへと準備が始まる。ねぶた本体の制作は、およそ4月から7月頃までの放課後や休日に行なわれる。制作・囃子の知識・技術は先輩から受け継がれていく。制作するねぶたの大きさは毎年異なるが、およそ高さ（台座含む）・幅が3.5m、奥行き3mであり、これを部員約10名で制作全工程を生徒だけで行なう。そして、ねぶた祭り本番は、台あげされた担ぎねぶたを、運動部など体力のある生徒などが担ぎ、跳人として全校生徒が参加、ねぶた部は先導や囃子などとして祭を生徒一丸となり盛り上げている。（東奥日報2012年9月14日に一部抜粋）（参考：青工百年史、青工ねぶた運行・制作資料）



制作しているねぶた 図4-9



制作している様子 図4-10



制作している様子 図4-11



2台出陣 記念運行 図4-12



運行の様子 図4-13



運行の様子 図4-14

(2) 授業概容・目的・意義

本章では、クロスカリキュラムを想定し実践した授業を報告とし、クロスカリキュラムによるねぶた授業の一提案とする。美術科、技術科の連携に適した、ねぶたによる授業、制作品、行事連携である。当初の予定では、中学校でのクロスカリキュラムによる実践であった。だが、継続的に時間を用いるカリキュラム案である本研究は、中学校が通常授業の時間確保に努めている現状や新たな行事等への組み込みとしては、研究の実践を目指すために時間を借りることは、厳しい現状であった。そのため、本実践は、既にねぶた制作に積極的に取り組まれている青森県立青森工業高等学校で実践した。中学生を対象としている案を高校生に替えて行うのは発達段階等も無視してしまう取り組みだと捉えることが想定される。よって、中学段階に近い、高校一年生に協力頂いた。だが、ねぶた制作は対象を高校生に替えても、容易に作れてしまう作業ではないと考える。この点については、ご了承いただきたい。

本実践の授業は、放課後による講習として実施した。本学校の文化祭のクラス展示に本研究と本学校生徒会による新企画として「クラス担ぎねぶた」を新たに追加した。授業題材である「クラス担ぎねぶた」は、例年行なわれている「創作ねぶた」の制作過程や作品形態を、クロスカリキュラムに適したものに一部変えたものである。本実践では、クロスカリキュラムを想定した作品制作活動を行ない、ねぶた授業の一提案とする。実施により反省点や課題をみつける。この実践では、美術科、技術科を意識した導入や座学は取り入れてない。

(3) 対象学校・実践状況・全体計画（制作から運行展示までの流れ）

対象学校	青森県立青森工業高等学校	
学年	各クラスから、選出者3名程度 1年生（23人）	
講習内容	講習会は2回実施した。その後生徒らは約2週間をかけ、放課後等を用いて作る。	
	①骨組みの固定方法練習 台制作（講習時間内で完成させる） 紙貼りの練習	放課後（90分）
	②色付けの練習	放課後（90分）
授業者 (全体指導、導入)	大学生1人	
授業補助者	大学生1人、高校生（ねぶた部）2人	

表4-1

選出者とは、文化祭の企画実施しているため、各クラス（全部で7つの科）から、自主的、あるいは、ねぶたのものづくり班に振り分けられ集まった生徒である。

本年（2013年度）の青森工業高校文化祭のものづくりのテーマがゆるきやらとされている。よって、クラス担ぎねぶたの制作テーマもゆるきやらにしている。そのため、クラス担ぎねぶたは、ゆるきやらを用い自由に表現できるようにした。モノを持たせること、自由な格好をさせても良いこととした。使用するキャラクターは、地元のキャラクターに限らず、他県、非公認キャラクターでもよい。

全体計画（流れ）		
実施内容	詳細	期間
第一回 制作講習会	表4-1、①の内容を実施	9/18
制作期間（紙はりまで）	放課後や休日に、紙貼りまで終わらせる。	9/18~10/6
第二回 制作講習会	表4-1、②の内容を実施	10/7
制作期間（完成まで）	放課後や休日に、色付けまで終わらせる。	10/7~10
文化祭記念運行	文化祭前日に、本学校所在の町会を運行する。	10/11
文化祭展示	文化祭当日に、体育館に展示する。	10/12,13
再活用、廃棄	保育園に譲り、展示した。 その他は、翌年のために台座だけを取り、廃棄をした。	

表4-2

（4）制作物・教材の開発

制作物は「クラス担ぎねぶた」である。文化祭の前夜には、運行を行なう計画であるため、運行できる形態として、担ぎのスタイルにした。一人で担げるようにし、その台は生徒が講習内で製作を行なう。台に乗るねぶた本体は、形は指定せず自由な形をつくれるようにしている。大きさは、高さ2m以内（台を含めない）、幅・奥行き1メートル程度である。

クラス担ぎねぶた（生徒制作作品）



図4-15

制作手順（考案教材）

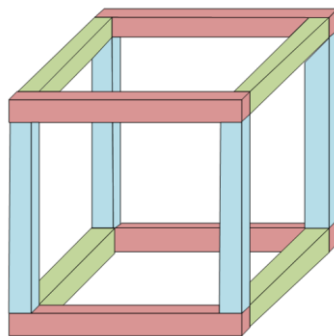
生徒がつくる部分と予め用意した部品の手順を交えて掲載する。長さや材料の詳細は、に載せている。

台の製作

①角材4本程度を、指定の長さに切断し、電気ドリルでビス留めし固定していく。図4-16の同色は同じ長さを示している。〔生徒が作る部分〕



指定の長さに切断された角材 図4-16



組み合わせ方 図4-17



組み立てられた台 図4-18

②生徒が作った台に、担ぎ棒が装着できるように、台の上下に角材1本ずつ接合する（後に、上下に接合した角材の間に一本の角材がはまる）。〔予め用意した部分〕

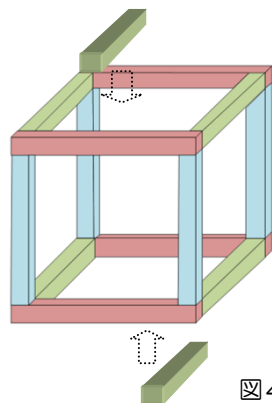


図4-19

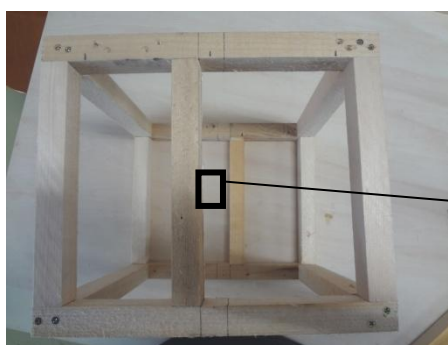


図4-20

角材（担ぎ棒）がはまる部分

③担ぎ棒は、担げるように持ち手や支え部を付ける。〔予め用意した部分〕



図4-21

④担ぎ棒を台に取り付ける（ビス留め）〔予め用意した部分〕



図4-22



図4-23

⑤下台を組み立てる〔予め用意した部分〕



図4-24

⑥下台と台が固定できるように、2本角材を取り付ける。〔予め用意した部分〕

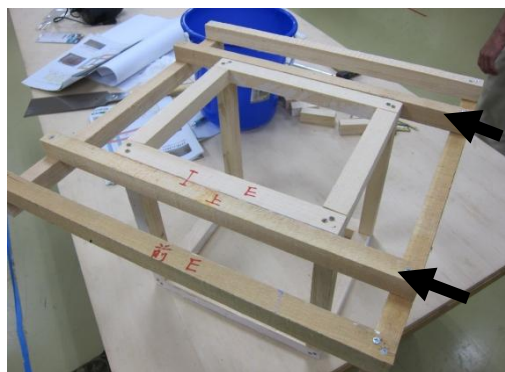


図4-25

⑦ねぶた本体（下台）と台、担ぎ棒の固定は、ねぶた本体完成後に行なう。

骨組み

本実践では、骨組みは指定の大きさ内で、自由な形をつくる。骨組みは、下台に固定する。固定は、又釘で針金を留める。

※固定方法は、北小だるま説明書と青森工業クラスねぶたテキストにて紹介。

糸の巻き方は、本場のねぶたの方法と同じ方法を用いる。

紙貼り・色付け

紙貼り・色付けの方法は、北小だるま説明書と青森工業クラスねぶたテキストにて紹介。

台上げ（組み立て）

ねぶた本体（下台）、台、担ぎ棒を取り付ける。台と担ぎ棒をはじめにビス留めをし、取り付ける。その上にねぶた本体（下台）と合わせビス留めをし、完成となる。



図4-26

制作教具・資料（考案教材）

①テキスト（クラスねぶたテキスト）

台作り、骨組み、紙貼り、色付けのそれぞれの説明が記載されている。この資料は、各クラスに1セット用意した。


生徒会・ねぶた部・3組木ねぶた・ねぶた部顧問プロジェクト

"新クラスねぶた" 始動

I. はじめに
文化祭ものづくり企画のクラスねぶたが始まり、本年度で6年目となり小さな伝統が築かれつつあります。1年目が金魚ねぶたの創作バージョン、その後本年度まで、力作ぞろいの立体制作クラスねぶたが作られています。
そして本年度、1年生から更に 新たなクラスねぶた制作を計画しております。

II. 新企画について
その企画とは…… **"クラス担ぎねぶた"**
そしてお題は、 **"ゆるキャラ"**

新たに始まるクラス担ぎねぶたは、文化祭前日の野内運行にて出陣(1年生)します。そのため、今回は、**担ぎ台も制作**に含まれます。製作の方法等は、本講習と別紙の製作工程にて紹介します。正確な台とユニークなねぶたをお待ちしております。



何か持たせたり、様々な格好させてもOK
クラスや工業のゆるキャラを考えるのもOK
ねぶた大賞に輝くのはどのクラスか!?

図4-27

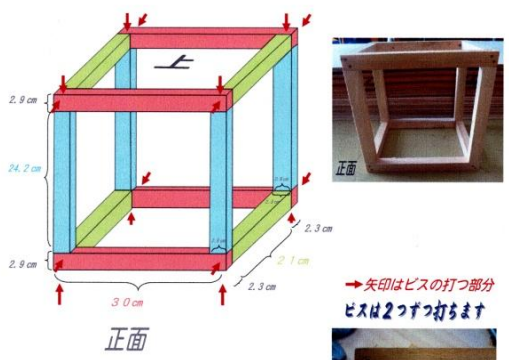
一台の設計図

材料・寸法 各材を寸法通りに切りましょう。

3.0 cm	× 4
2.1 cm	× 4
24.2 cm	× 4

★ミリ単位での正確なカットをお願いします。
(台とねぶたの下台がハマらなくなる恐れがあります)

組み立て



→矢印はビスの打つ部分
ビスは2つずつ打ちます

*正面には、料の名前を書きます (色付けのページにて紹介)

図4-28

自づまり

1. けがき



①指定の寸法を思い、木材に印を書く



②さしがねを出して、切断線を描く

2. 切断



①クラフヤ手、もしくは砂足を描い しっかりと押さえる
②のこぎりで、**正面**に 切断していく

3. ねじ止め



コツ: 電動ドライバーを使うときは、両手でしっかりと押さえ、おしを直角に押し当ててしていく。

注意

- 電動ドライバーの電池は、充電完了後は**充電器から外してください**。(故障の原因になります)
- 材料は限られているため、正確な寸法をとり、切断をしていきましょう。

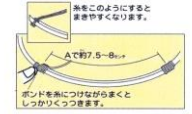
図4-29

骨組み

針金や糸を使って、立体造形をつくる

1. 針金の積層方法

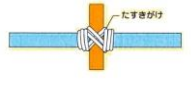
<平行の方法>



糸をこのようにすると
まきやすくなります。

①Aで約7.5-8mm...
②ボンドを糸につけながらまくと
しっかりとくっつきます。

<十字の方法>



大きさ



高さ 2メートル以内
幅 教室の扉から取り出せられる

大きさを決める、教室から出しやすいよー

2. 台への固定方法



①矢印を指定した針金に合わせる
②金づちで打ち込んていく
③針金が動かなくなるまで打ち込む

図4-30

紙はり

骨組みに紙をはって、絵をかけるようにしましょう。

1. かたをどる

① 紙を、計量にあてる
② 目で、計量をずらして**赤丸**をつける

2. かたを切る

① 黒ゆび (1.5センチ) くらい、**赤丸** より大きめに切る
② **赤丸** をとった紙に線をひく

3. 紙をはる

① **赤丸** をとった 紙裏の外側にボンドをぬる
② **赤丸** をとった紙に線をはる

① なるべく丸く貼るべ
② 頭は、みねの手に持ってもらうべ

注意点

・和紙には、裏と表があります。表はつるつる、裏はざらざら しています。触って確認しましょう！ 表がねぶたの表面に表れるように はっていきます。

図4-31

色付け ①

1. 墨書き

・ねぶたの輪郭を書き分けます。

墨・墨筆は、各自で準備してください

墨を書く部分

2. ロウ書き

・色同士が混ざらないようにするため、ロウで縁どりを引きます。

色の入らない墨だけの部分は、ロウを書かなくてもいい

ロウを書く部分 (墨の線の外側に書く)

墨を書かず、ロウだけで縁をとることもできる

機械の使い方・注意点

① ロウソクを入れる
② タイヤルを回し、ロウソクを溶かす
③ 温度は中以下に設定し描く

*高温になる前から、筆を入れ馴染ませる (筆がこげるのを防止)

注意

- ・終わった片必ずコンセントを抜くこと
- ・換気を必ず、火気源の近くで使わない!

図4-32

色付け ②

3. 色付け

・模様や枠の中を塗りつぶそう。

色・色筆は各自で準備してもら

墨は色と混じらないので、ロウ書かなくても大丈夫

4. 高欄色付け

・欄子の花を描き、絵や模様を自由に書こう。

★正面には、〇〇科 と書いてください
(右側 以外の部分は、どのように書くのも自由です)

イメージ

おすすめ絵具・染料

ペンてる スターゲルッシュ ペンてる スターゲル 風船用 染料 ペンてる スターゲル

●完成後明かりを灯す可能性があります (未定)、そのため水に溶かすタイプの絵具を使うようにしましょう

図4-33

②クラス担ぎねぶたサンプル

担ぎねぶたの制作見本として、講習会で見せる。キャラクター名は、青森市のゆるきゃら「ねぶたん」である。第1回講習会では、紙貼り練習に使用。サンプルは、電気配線もしている（文化祭後には、保育園等での使用が控えているため）。

タイトル	見本用ねぶた 「ねぶたん」
ゆるキャラ名	ねぶたん（青森市）



図4-34



担がれたねぶた 図4-35

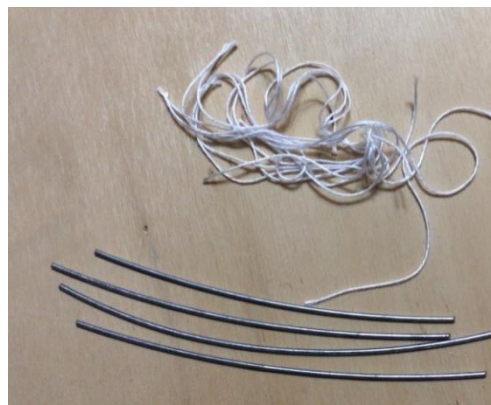
大きさ	高さ1.5m（台座含まない）、幅1.2m、奥行1m	
制作者	2人（筆者 と 青森工業高校ねぶた部男子1人）	
制作期間	10日	
骨組み	3日（12時間）	2人で制作
電気配線	1日（3時間）	1人で制作
紙はり	5日（15時間）	2人で制作
色付け	2日（12時間）	2人で制作
台作り	1日（3時間）	1人で制作
使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・針金・糸・ボンド・木材・奉書紙・ビス・ペンチ・ワイヤカッター ・金づち・又釘・のこぎり・メジャースケール・さしがね・カッター ・紺布（キャラコ）・筆・墨・絵具（ポスターカラー・アクリル・染料） ・電球10個（電球型蛍光灯）・ソケット・コンセントプラグ・ケーブル ・ケーブルストリッパー・電気ドリル/ドライバ 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・青森市観光イメージキャラクター「ねぶたん」 http://www.city.aomori.aomori.jp/view.rbz?cd=11005	

③教具（説明道具）

骨組みの固定方法を知らせるために、北小のねぶた授業と同様な道具を用いた。生徒には練習用に、短く切っている針金と糸を配る。



骨組み説明道具 ロープと木棒 図3-20



針金（1人4本）とビニロン糸 図4-36

(5) 指導案 (指導計画)

次の指導案は、クラス担ぎねぶた講習会の指導案である。

第1回 クラス担ぎねぶた講習会		
【ねらい】 ねぶたの全体工程、骨組み、紙貼りを知る。台を作り上げる。		日 時：平成25年9月18日 (水) 場 所：青森県立青森工業高等学校 実習室 対 象：1学年 (選出者23人) 授業者：山内 勇輝
時間	授業者の働きかけ	予想される生徒の反応
導入 10分	1. クラス担ぎねぶたの説明 ・どんなものをつくるかを説明 →見本 (図4-34) とテキストを用い「クラス担ぎねぶた」を説明 ・制作期間、材料等の説明	・これから作るねぶたをイメージをつかむ ・「約2週間つくる時間があるんだ」
展開 80分	2. 制作工程の説明 ・今日の講習の制作目標を示す。 今日目標： 1、針金の固定方法習得 2、台を作りあげる 3、紙はり練習 ・テキスト内容を順番に、説明する。 3. 実践練習 ・骨組みの練習 (平行・十字) →1人にカットした針金4本 (図4-36) を配り、2種類の方法を学ぶ。 →ロープと棒を針金に見たて、生徒と一緒に動かして練習する。 ・台づくり →各クラスに、作業を進める (けがき・切断・組み立て) ・紙張り →台を作り終えたクラスから、紙貼りを一人2枚程度練習する (サンプルのねぶたに貼る (図4-34))	・「結構、時間かかりそう」 ・各工程を知る。 ・十字のやり方が難しい。 ・ボンドの量が分からない。 ・糸の巻く方向がわからない。 ・先生のやり方を見ながら、一緒にやると分かりやすい。 ・木の長さや組み立て方を間違う。 ・「紙貼りやっとなんかあるから、できそう」 ・「意外と簡単そう」
●次回の講習会までの課題 ・紙貼りを終えること (ねぶた本体と台) ・墨やロウを書く部分を考えてくる		

第2回 クラス担ぎねぶた講習会

日 時：平成25年10月7日（月）

場 所：青森県立青森工業高等学校 実習室

対 象：1学年（選出者23人）

授業者：山内 勇輝

【ねらい】

墨やロウの書く場所や方法を学び、自由に表現できる。

時間	授業者の働きかけ	予想される児童の反応
導入 5分	<p>1. 完成までの流れを説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを用い、色付けの内容を説明する。 ・見本（図4-34）のロウ書きしている部分を示しながら説明。 ・今日の講習会の目標を示す。 今日の目標：墨書きとロウ書きを終わらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストをみる。 ・よく見えない。 ・「墨の隣にロウを書くんだ」 ・「終わるかな」
展開 85分	<p>2. 実践練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラス、色付けを始める。 <p>→墨書き、ロウ書きの順に行なう。 ※彩色は、各クラス放課後に行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に描く。

●文化祭前日までの課題

- ・台とねぶた本体の色付けを終わらせる。

（6）実践記録

第1回 クラス担ぎねぶた講習会

〈場所〉建築科実習室 〈活動〉骨組み・紙貼りの練習、台づくり



〔導入〕 1. クラス担ぎねぶたの説明 図4-37

生徒は、クラスごとに分かれて説明を聞く。始めに、これからどのようなねぶたを作るのかを見本やテキストで説明を行なった。



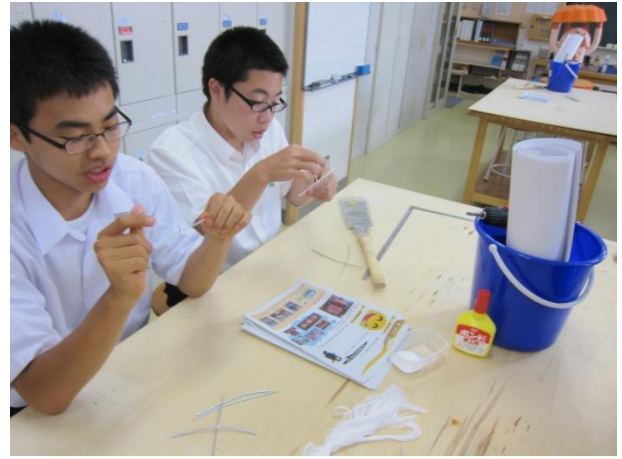
〔展開〕 2. 制作工程の説明〈全体の流れ〉図4-38

テキストを順に、説明していく。これは、台の組み立て方を簡単に説明している。



3. 実践練習〈骨組みの練習〉 図 4-39

生徒は針金と糸を持ち、授業者の持っている棒とロープを見ながら、一緒に巻いてみる。



〈骨組みの練習〉 図 4-40

生徒は、平行の巻き方と十字の巻き方の2種類を学ぶ。巻いた時、針金同士が取れなければ成功である。多数の生徒は、上手く巻けている。



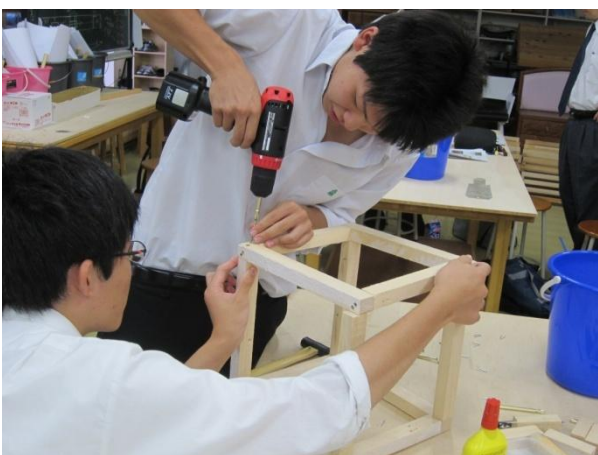
〈台づくり 一けがき一〉 図 4-41

スケールやさしがねを木材にあて、正確にけがいていく。寸法は、テキストに書かれている。



〈台づくり 一切断一〉 図 4-42

手や足で、木材を押さえ、ケガき線に沿って切断する。



〈台づくり 一組み立て一〉 図 4-43

時間短縮のため、電気ドリルでビス留めしている。各クラスに1つの電気ドリルが配られている。押さえつけながら打ちこむのは難しそうである。



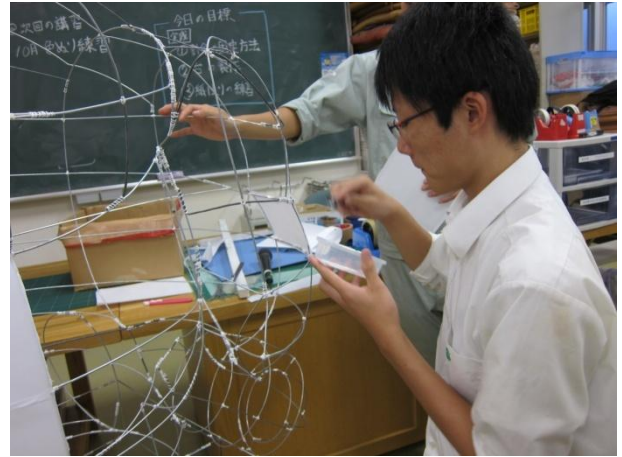
〈台づくり 一組み立て一〉 図 4-44

台を組み立てたら、下台（用意されている）と合わせる。ぴったりと合わない場合は、下台を台に合うように、木材を打ち直す。



〈紙貼り練習〉 図 4-45

台を作り終えたクラスから、順に紙貼りの説明を受けた。紙貼りに使うねぶたは、完成途中（紙貼り途中）の見本のねぶたである。



〈紙貼り練習〉 図 4-46

生徒は2枚程度、紙を貼る練習を行なった。

各クラスによる制作期間（紙貼りまで）

〈場所〉各実習室・教室 〈活動〉骨組み・紙貼り

講習以外に、各クラスのねぶた担当の生徒は、時間をみつけ作業を進める。主に放課後に作業を進める。ねぶたの進み具合によっては休日も作業をしていたクラスもあった。生徒らは、はじめにつくるねぶたデザインを考える。作りたいキャラクターの画像を印刷し、それを基にする生徒（図4-47）もいた。次に、骨組みの制作を行なう。骨組みには、（図4-48）のように下台に木材を組み立てていたクラスもあった。木材を入れずに針金だけで保っていたクラスもある（ねぶたの形によっては、針金だけでも丈夫である）。次に、紙貼りを行なった。紙貼りは、工程の中でも一番時間を要していた。そのため、ねぶた担当ではない生徒も手伝いを行っていたクラスもある。



図 4-47



図 4-48



図 4-49

第2回 クラス担ぎねぶた講習会

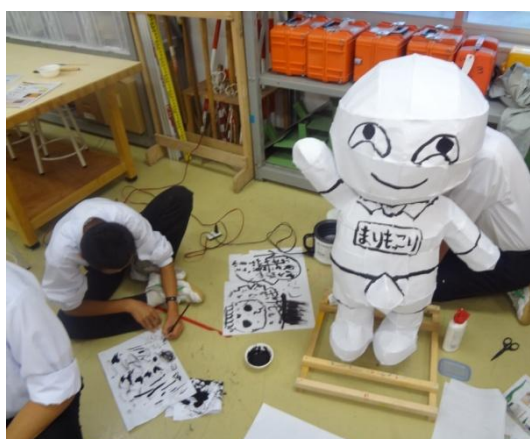
〈場所〉建築科実習室 〈活動〉墨書き・ロウ書き



[導入] 1. 完成までの流れを説明 図 4-50
テキストとねぶたの見本を用い、色をつける箇所や台の書き方の説明を行なった。



[展開] 2. 実践練習〈墨書き〉 図 4-51
鉛筆で下書きを行ない、線に従って筆で線を書いていく。



〈墨書き〉

図 4-52



〈ねぶたのロウ書き〉 図 4-53



〈台のロウ書き〉

図 4-54

墨書き、ロウ書きなどの色付けは、一回で成功しなければ、紙を貼り替えて書く選択肢しかない。そのため生徒は、何度も練習し本番に向かっていった。色付けでは、担任の先生が覗きに来て、一緒に考えている場面も見られた。

第2回の講習会では、目標である墨書きとロウ書きが達成できないクラスも多くあった。そのため、翌日の放課後も同実習室を開放し、ロウ書きを行なった。ロウ書きに使うロウの容器は、加熱しながら作業するため火の管理が伴う、よって安全のため各教室に持ち込みできないようにしている。

各クラスによる制作期間（完成まで）

〈場所〉各実習室・教室 〈活動〉色付け

第2回の講習会后、文化祭記念運行までは3日ある。3日の中で、色付けを完了させる。色付けに使う絵具や筆は、各クラスで用意することになっている。絵具は、ポスターカラーやアクリル系の絵具、染料などが使われていた。生徒らは放課後を使用し、急ピッチで作業が行われていた。普段の学校は、部活等で、放課後や休日にクラスで集まることが少ない、そのためかクラスの友人と集まるこの機会は楽しみながら作業を進めていたようであった。そして、文化祭記念運行前日には、すべてのクラスが完成させた。



図 4-55



図 4-56

文化祭記念運行（小学校と合同運行）

文化祭記念運行は、近隣の小学校に協力をしてもらい、小学校のねぶたと合同運行に決まった。午後3時半に、始まる予定である。運行には、小学校のねぶたと児童による囃子方、青森工業高校の担ぎねぶた（ねぶた部制作）とクラス担ぎねぶたとねぶた部の囃子方、関係する先生、各学校長である。運行コースは、小学校をスタートし近隣町会を練り歩き、小学校に戻る予定である（警察署許可申請済み）。

記念運行本番は、台風の影響があり、大雨、強風であった。児童生徒の安全を考え、中止となった。（図4-57）は運行をイメージするため、後日撮影を行なった。運行の形態図（図4-58）。



図 4-57

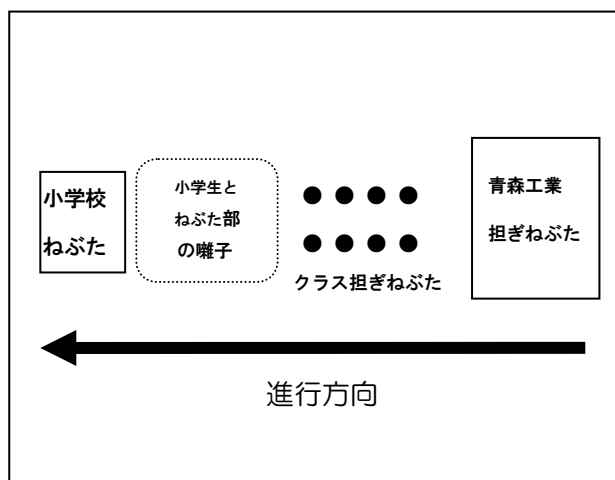


図 4-58

文化祭展示

文化祭は2日間開催された。クラス担ぎねぶたは、台からは外し、ねぶた本体のみ展示している。体育館に展示された。展示には2・3学年のクラス創作ねぶたも一緒に設置している。2・3学年は本実践の講習は行っていない。2・3学年のクラス創作ねぶたは昨年（2012年度）までと同様に、担ぎ台の制作は行っていない。すべてのねぶたは、各学年ごとに審査がある。最優秀作品に贈られるのは「ねぶた大賞」の額（図4-60）である。審査は、本場のねぶた制作・祭り関係者（ねぶた師、ミスねぶたグランプリ、制作スタッフ）、ねぶた部OBとねぶた部顧問の教員のねぶた有識者による厳正な審査基準によって決まる。

本研究実践によって、ねぶた大賞のシステム、審査用紙（審査基準）を導入させて頂いた。

※審査用紙は本研究論文の資料として添付している。



図 4-59



2・3学年のねぶたとねぶた大賞額 図 4-60

再活用・解体

使用されたねぶたは、翌年の文化祭のために、下台や使える材料だけを取り出し、解体される。ねぶた祭にも、七夕祭のように昔には最終日に穢れを川や海に流すために、禊の行事として灯籠を流して無病息災を祈っていた。この解体にも、その意味合いも込めて生徒自身で最後には解体を行なった。

本年は、幼稚園や保育園などに、クラス担ぎねぶたの貸出を行なった。（図4-61）のように過去には幼稚園へ譲り、装飾として飾ってもらったこともある（2009年の写真）。



図 4-61



図 4-62

(7) 配布道具・物品

「クラス担ぎねぶた」の講習・制作に使用した、道具・物品を報告する。

全クラス分（7科）は、1クラス分を7科倍したものである。全体共通の物品とは、各クラスには配らないが講習時に、交代で使用したりする、共通の物品である。各クラスで用意する物品とは、色付け等で、各科や担任の教員を通して各自用意してもらう物品のこと。

【使用した道具・物品】

1クラス分の道具・物品	
木材（角材3m程）	1本
スケール	1個
さしがね	1個
電気ドリル（ビット込み）	1個
ビス	40
のこぎり	1個
針金（約20m）	1セット
ビニロン糸	1束
木工ボンド	1パック
タッパー（ボンド入れ）	1個
練習用針金（1人4本セット）	4セット（4人分）
ペンチ	1個
金づち	1個
又釘	30
奉書紙（和紙）	50枚
はさみ	1個
テキスト	1冊

針金の太さは、#12(2.6mm)を使用

表4-4

全体共通の物品（講習時に使用）	
墨汁	1本
墨筆	7（全体分）
ロウソク（パラフィン）	7片
フライヤー（ロウ容器として）	4個
ローケツ筆 4号（ロウ書き用）	7（全体分）
紙コップ（墨を入れる）	7個

各クラスで用意する物品	
ポスターカラー等の絵具	各クラスによる
筆	
色を入れる容器	

表（上）4-5、表（下）4-6

(8) 考察 —実践を通して—

生徒の様子・授業の課題・教材としての課題

本実践では、技術科や美術科の授業のように、発問、実験、道具の細かな説明等は行っておらず、クロスカリキュラムを意識した題材の制作活動のみを行なった。完成作品を見る限りでは、美術科の表現活動としては、彫刻的な立体感は十分に出ていたようである。クラスによって、事前に下絵を描くクラスや想像で直接骨組みをつくるクラスなど様々であったが、どのクラスにおいても完成作品は全方向から見ても、考えをもってつくられたように構成やバランスがとれていた。ねぶたの材料は針金と紙であるため、非常に重さやバランスは重要であるだろう、頭だけ重ければ前に倒れてしまう。また、紙の貼り方次第では、彩色時には質感が影響する。材料や道具の用途を活かし、構造的な感覚をつかむことが重要であった。また、模様などの装飾、ねぶたという立体キャンパス空間の構成は、独自の感性と創造的な表現が求められる。この点については、今回の実践では、お題が課せられていたため、表現を狭めてしまったことは、今後再考していく必要がある。

技術科としてのねぶた制作は、本実践では主に、台製作である。完成された台を見てみると、一部が何ミリか短かったためか、のこぎりが垂直に切られていないためなのか、組み立てられた台はゆがんでいた。その他、角材が縦横間違っていて取り付けられていた。取り付けの際、電気ドリルのビットとねじ穴に合わせながら、打ち込むことが上手くできていないこともあった。これらの要因は、授業での説明不足だと考えられる。始めに書かれたように本実践では、細かな説明は省いてしまい、テキストの指示だけであった。それゆえの結果であり、本実践の反省点である。また、今回は作業環境も再考しなければならない。のこぎり引きの際、クランプや中学技術室にあるような作業用のイス（材料のあて部があるイス）を用意することで、生徒はのこぎりが垂直に引くことができたと考える。

クロスカリキュラムとしては、ねぶたという一つのものづくりができることは、生徒たちにとっては達成感も大きいと考えられる。教科の特徴を活かすことで、同じ題材であっても両科の指導内容に刺激し合うこともできる。正確性を重要とする技術科の内容に、創造的な美術科の表現を取り入れ、美術科には、技術科の適切な道具の使い方などを取り入れることも可能である。そして、行事との連携により、作品の成果を発表する機会を設けることは、生徒へその授業へのモチベーションを上げることもできる。本実践によって、クロスカリキュラムとしての課題、それにかかる、時間や生徒の意識を知ることができたことは、大きな収穫である。

第2節 青森県立青森工業高等学校「クラス担ぎねぶた」調査結果と考察

(1) アンケート調査の意義

今回の調査は、青森県立青森工業高等学校で実施した「クラス担ぎねぶた」の制作講習を受講した生徒が対象である。

この調査は、クラス担ぎねぶた制作に要した時間、教具・教材についての課題、ねぶた授業への意識等を把握し、今後の研究（第5章）へと反映できるようにするためである。

(2) 調査方法・調査内容

- ・調査は、学校長に調査依頼を行ない、文化祭後に対象の生徒に配布し、調査実施、回収をした。
- ・調査用紙は、主に記述式にしている。
- ・次の調査内容は、調査用紙の項目の順ではない。

※調査結果の「1. 製作した作品、製作参加状況について」の⑦、⑧は掲載していない。

（調査状況の把握をするための項目であるため）

※調査結果の「4. 今後の展望について」の②、「5. 感想」は、掲載していない。

（青森工業高校の生徒会として、今後の参考にするための項目であるため）

※調査用紙は、本論文の資料として添付されている。

(3) 調査結果〈制作時間・制作作品（情報）について〉

この結果は、調査用紙の「1. 製作した作品、製作参加状況について」の①、②、③、④、⑤、⑨の回答である。各クラスのねぶたの写真を掲載し、大きさを追加しまとめている。

※調査用紙の、1. 制作作品、制作参加状況について「④制作にかかった各作業（約〇〇時間）」という欄に対し、日数で答えた回答も多くあったため、日数回答については、1日分は1.5時間とした。

調査結果

- ・クラスは7つあるため、7つのクラス担ぎねぶたの情報を掲載。
- ・次頁に記載。

タイトル	バリィさん	
ゆるキャラ名	バリィさん（愛知県 今治市）	
		
大きさ	高さ1m（台座含まない）、幅1m、奥行1m	
制作者	9人（男7、女2）	
制作期間	23日	
骨組み	10日（15時間）	3人制作参加
紙はり	7日（11時間）	9人制作参加
色付け	5日（8時間）	3人制作参加
台作り	1日（1時間）	3人制作参加
配布物以外の使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤカッター ・染料 ・ポスターカラー 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・機械科の制作作品 ・放課後に制作 ・いまばりバリィさん http://www.barysan.net/ 	

表4-7

タイトル	メロン熊
ゆるキャラ名	メロン熊（北海道物産センタータ張店）



大きさ	高さ1m（台座含まない）、幅80cm、奥行1m	
制作者	4人（男4）	
制作期間	9日	
骨組み	3日（8時間）	3人制作参加
紙はり	4日（8時間）	4人制作参加
色付け	1日（2時間）	3人制作参加
台作り	1日（2時間）	3人制作参加
配布物以外の 使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・電気ドリル/ドライバ ・ビス ・筆 ・カッター ・ブラシ（紙貼るときに使う） ・絵具（染料・ポスターカラー） 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・電子機械科の制作作品 ・放課後と休日に制作 ・北海道物産センタータ張店 http://yubariten.com/ 	

タイトル	かぼちゃ王子
ゆるキャラ名	かぼちゃ王子こがぼっちゃん（茨城県古河市の「まくらがの里こが」）



大きさ	高さ45cm（台座含まない）、幅55cm、奥行55cm	
制作者	4人（男4）	
制作期間	7日	
骨組み	3日（12時間）	2人制作参加
紙はり	2日（6時間）	4人制作参加
色付け	1日（3時間）	2人制作参加
台作り	1日（1時間）	2人制作参加
配布物以外の 使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・絵具（アクリル・ポスターカラー） ・筆 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・電気科の制作作品 ・放課後に制作 	

表4-9

タイトル	電子科 1 年まりもっこり	
ゆるキャラ名	まりもっこり (北海道 (株) キョーワ)	
		
大きさ	高さ100cm (台座含まない)、幅70cm、奥行50cm	
制作者	8人 (男8)	
制作期間	15日	
骨組み	6日 (14時間)	3人制作参加
紙はり	5日 (7時間)	8人制作参加
色付け	3日 (3時間)	3人制作参加
台作り	1日 (2時間)	3人制作参加
配布物以外の 使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・カッター ・ブラシ (紙貼るときに使う) ・絵具 (ポスターカラー・染料) ・筆 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・電子科制作作品 ・放課後と休日に制作 ・まりもっこり公式ブログ http://ameblo.jp/babarenjya/ 	

表4-10

タイトル	ふなっしー	
ゆるキャラ名	ふなっしー（千葉県船橋市非公認）	
 		
大きさ	高さ2m（台座含まない）、幅70cm、奥行60cm	
制作者	7人（男7）	
制作期間	10日	
骨組み	4日（15時間）	4人制作参加
紙はり	3日（8時間）	7人制作参加
色付け	2日（6時間）	3人制作参加
台作り	1日（2時間）	3人制作参加
配布物以外の使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・電気ドリル/ドライバ ・カッター ・ふなっしーの設計図 ・絵具（ポスターカラー） ・筆 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術科制作作品 ・制作期間は、放課後である ・ふなっしー劇場 http://terawarosu.jimdo.com/ 	

表4-11

タイトル	ちっちゃいおっさん	
ゆるキャラ名	ちっちゃいおっさん（兵庫県尼崎市非公式）	
		
大きさ	高さ1.5m（台座含まない）、幅60cm、奥行60cm	
制作者	5人（男5）	
制作期間	10日	
骨組み	4日（17時間）	4人制作参加
紙はり	3日（8時間）	5人制作参加
色付け	2日（6時間）	3人制作参加
台作り	1日（1時間）	1人制作参加
配布物以外の 使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤーカッター ・電気ドリル（針金伸ばすため） ・絵具（ポスターカラー・染料） ・筆 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・建築科制作作品 ・放課後と休日に制作 ・ちっちゃいおっさん http://co3.tv/ 	

表4-12


タイトル	にしこくん	
ゆるキャラ名	にしこくん (東京都 西国分寺)	
		
大きさ	高さ1.5m (台座含まない)、幅60cm、奥行60cm	
制作者	4人 (男1、女3)	
制作期間	7日	
骨組み	2日 (7時間)	3人制作参加
紙はり	3日 (16時間)	3人制作参加
色付け	1日 (3時間)	3人制作参加
台作り	1日 (1時間)	3人制作参加
配布物以外の 使用物	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤーカッター ・電気ドリル (針金伸ばすため) ・絵具 (ポスターカラー・染料) ・筆 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・都市環境科制作作品 ・放課後と休日に制作 ・にしこくん WEB SITE http://www.nishikokun.com/ 	

表4-13

(4) 調査結果〈ねぶた制作・講習への意識〉

この結果は、調査用紙の「2. 意識・思い」の①、②と「3. 実践編 講習会について」の①、②の回答である。講習への参加は、希望参加やクラスにより選出されるなど、クラスによりねぶた授業への参加への意識が様々である。ここでは、講習・制作に参加した生徒のねぶたの授業とねぶた制作への意識や思いを聞いている。

調査結果

2. 意識・思い

①なぜ、ねぶた制作に加わりましたか。回答者23人

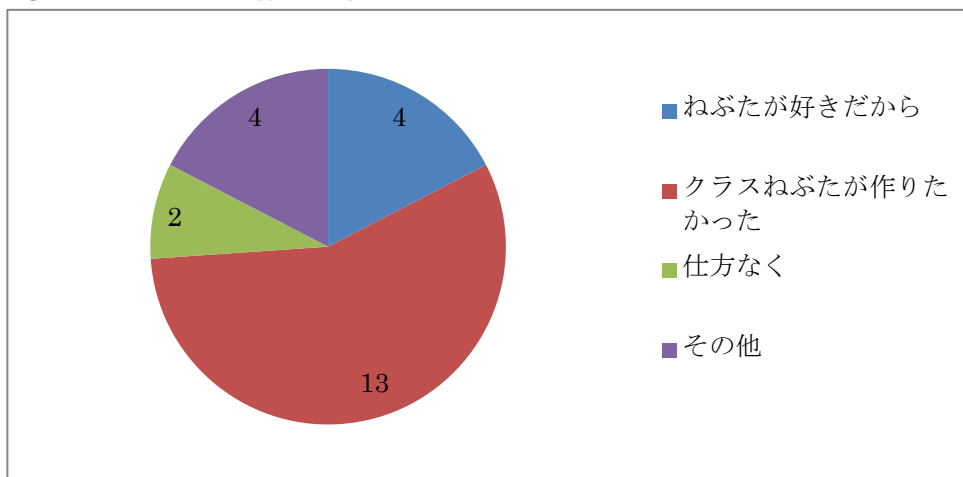


図 4-63

②ねぶた制作に参加してみて、どの作業がすきですか。(複数回答 可) 回答者23人

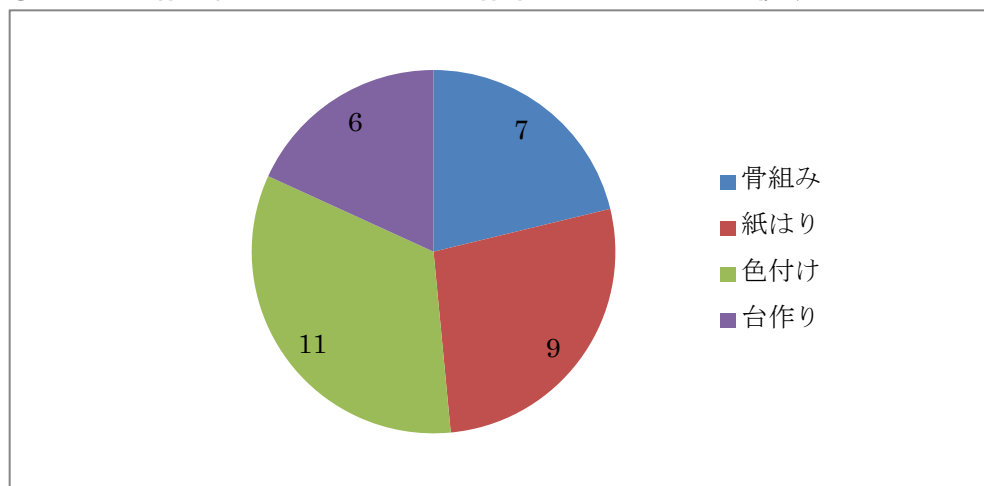


図 4-64

「2. 意識・思い」についての考察

①のクラスねぶたへの参加した生徒の意識は、クラスねぶたが作りたいたいという意見が多い。青森工業高校文化祭でのクラスねぶたは6年間続いており、過去の作品もこだわりがあり、ユニークな作品も多く立派な仕上がりである。このような代々の作品を見ることによって、惹きつけられたと考えることもできる。また、地元の青森に住んでいても、ねぶたを作る機会はない。クラスねぶた

づくりは、その良い機会でもあるのだろう。②は、大差がないため、比較するべき結果ではないだろう。だが、回答の多さから順にみると、作業の容易で、創作性のある色付けが一番多く、手間がかかり創作性の少ない台作りが少ない結果である。このことから、容易で創作性のある作業は好む傾向にあることが考えられる。しかし極端に変化が少ないことから、ねぶた制作作業はバランスのとれた工程であるということなのではないだろうか。

3. 実践編 講習会について

①過去の製作品・見本、テキストは参考になりましたか。(複数回答 可) 回答者23人

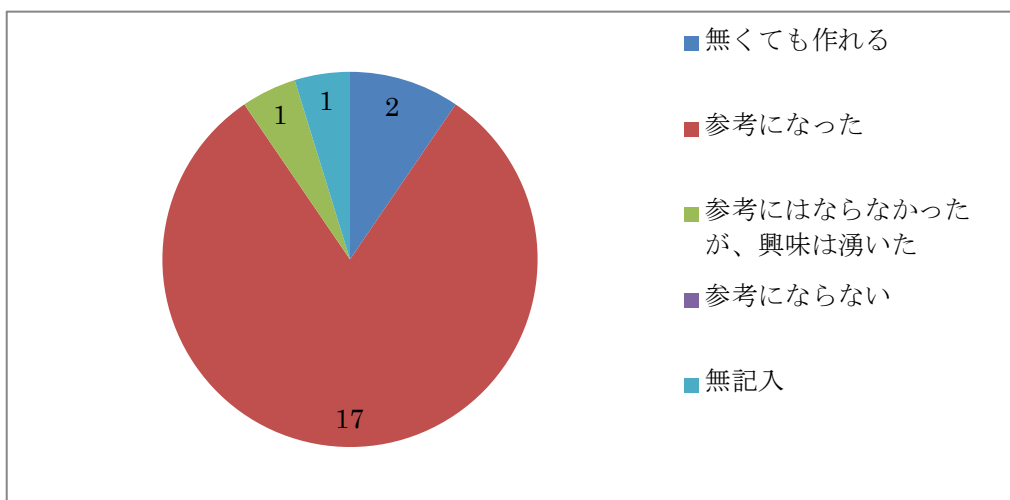


図 4-65

②実際に作業してみて、どの工程がより説明や講習が必要だと感じましたか。(複数回答 可) 回答者23人

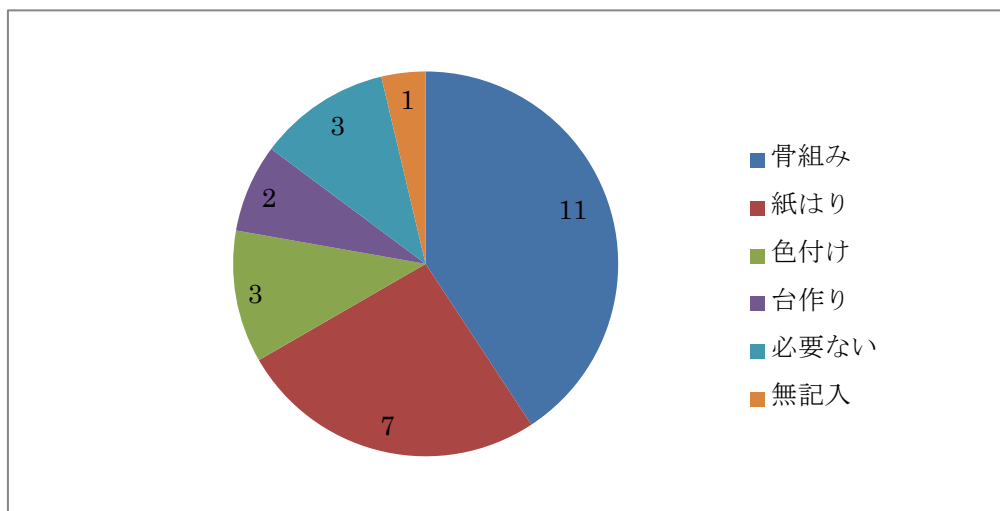


図 4-66

講習会について意識についての考察

講習会への意識を問うことは、今後の授業づくりへの課題を知ることができる。よって、ここでは生徒から直接、教具や講習の説明への意見を聞くことができる。①では、参考にならない(興味は湧いた人も含む)という生徒が1人だけであった。参考になる生徒が大半であることから、授業

者の説明と共にテキストは、補助教具として必要であると考えられる。質問②の結果からは、一番手間がかかる台作りの説明が少ないという結果となっていることは、講習会とテキスト内で他頁より一番詳しく説明があったためだと考えられる。一方で、骨組みが多く占めていることは、針金の固定方法の説明と見本を見せることだけの説明では、非常に足りないという意見の結果だろう。骨組みの立体への起こしかたや様々な骨づくりのパターンを知らせることで、より作りやすい環境と授業となり、生徒の創造性を上げることができると考えられる。

(5) 調査結果〈各工程の評価と課題 一骨組み一〉

この結果は、調査用紙の「3. 実践編 骨組みについて」の①、②、③、④の回答である。この調査は、クラス担ぎねぶた制作過程の「骨組み」の実践により、制作後に感じた、制作環境への意見や制作への課題、興味関心への意識を知ることが目的としている。

③は、「1. 製作した作品、製作参加状況について」の④と比較している。

質問③「各工程の調度よいと時間考える時間」の集計方法

③の「調度よいと考える時間」の調査は、各クラスの「実際にかかった時間」と実践後に聞いた「設けてほしい時間」を比較し、適切な各工程の作業時間を知ることが目的としている。

- ・設けてほしい時間・・・個人の数値を平均化したものを、クラスの意見とした
- ・アンケート（設けてほしい時間）の中で、〇〇日と回答した場合は、1日分は2時間と置き換えた。
- ・個人の時間の中で、〇〇時間～〇〇時間と答えた場合は、その中間とした

調査結果

3. 実践編 骨組みについて

①楽しかった点は何かありますか。（記述式）回答者23人

楽しかった点	計23人
・骨組みがだんだんできていくところ（過程が分かること）	6
・自分で思い通りに形が作れるところ	4
・難しい部分（試行錯誤するところ）をやるとき	3
・みんなと作業（協力）できたこと	2
・みんなと仲を深めることができた	1
・完成が途中で見えてきたとき	1
・ボンドを使って、ひもで固定するところ	1
・特になし	1
・骨組みしていない	4

表4-14

②難しかった点は何かありますか。またどのような点に苦労しましたか。(記述式)

回答者 23人

難しかった点	計 23人
・思いどおりに曲げられない (キレイな歪みのない円や形、均等な形をつくること)	8
・頭と体をくっつけるとき (パーツの接合)、バランスをとるための工夫 (F) (G)	3
・大きさの比率 (設計図からの割り出し、イラスト通りにすること)	2
・台への固定 (又釘の打ち付け)。(G)	2
・組み方 (順番や立体感の難しさ) が分からない	1
・形作り、足の細かな部品づくり	1
・針金ををまっすぐに (手で) 伸ばすこと	1
・針金同士の接合 (糸とボンドを使った固定方法)	1
・骨組みしていない	4

※カッコは筆者の補助文。キャラクター図のガイドとして図記号登載

表4-15

A : ばりいさん B : メロンくま C : かぼちゃ王子 D : まりもっこり E : ふなっしー F : 小っちゃいおじさん G : にしこ君

楽しかった点、難しかった点についての考察

①では、作業自体の楽しさと人間関係での楽しさを知ることができた。作業自体では、針金の材料特徴である、自由に形をつくることのできることは、このねぶたづくりのメリットであることが分かる。また、試行錯誤し、難しいからこそ楽しいという意見もあることは、美術科や技術科のように考えてモノをつくりだす教育の重要な考えであり、こういった意見が自然にでてくることは嬉しいことである。②では、①にも挙げられたように、難しい部分は、試行錯誤する点であることが分かる。思い通り曲げることができない点やパーツの組み合わせなどの現実を知ることができた。木材と針金の固定やパーツの組み合わせをした結果バランスが取れず、倒れそうになっていることも生徒の作業の様子から伺えたことから苦労していることが分かった。このような点を、テキストや説明の改善によって、作業しやすい環境を考えたい。

③骨組みは何時間くらい設けられると調度よいと考えますか。(記述式) 回答者 23人

クラス	A	B	C	D	E	F	G
実際にかかった時間	15	8	12	14	15	17	7
設けてほしい時間	8 (↓-7)	8	6 (↓-6)	11 (↓-3)	9 (↓-6)	9 (↓-8)	8 (↑+1)

※クラスは、制作したゆるきやらで表示

表4-16

A : ばりいさん B : メロンくま C : かぼちゃ王子 D : まりもっこり E : ふなっしー F : 小っちゃいおじさん G : にしこ君

調度よいと考える時間についての考察

骨組みは、大半のクラスが少なくてもいいという結果となった。実際にかかった時間が多いが、それに比べ設けてほしい時間が少なくなっていることは、もう少しあてられた時間内で、集中して行なうことで、早く作り上げることができるという考えではないか。

④骨組みにおいて、こんな道具や材料があると良いというアイデアはありますか。
 (自由記述式)

アイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・よく切れる (硬い針金を切れる) ペンチ ・円など作る時、型があると良い (丸いパイプなど) ・針金を真っ直ぐに伸ばす機械

表4-17

アイデアについての考察

生徒の中には、#12の針金の太さは硬く切れないという意見も出ていた。切りやすい道具として、ワイヤーカッターを必要だと考える。ねぶたの骨組みには、直線や綺麗な円を作る道具もほしいという意見は、より正確に、綺麗につくりたいという思いの表れであり、嬉しく思う。要望に答えるためには、本場の大型ねぶたの方法を取り入れるとよいだろう。

〈直線のつくりかた〉

針金の一方を柱にくくりつけ、反対側を電気ドリルに装着し、少しひっぱりながら回していく。針金が硬くなったら、完成である。



図 4-67

〈円のつくりかた〉

パイプなどの硬い円形なモノに、針金を巻きつけて型をとる。



図 4-68

(6) 調査結果〈各工程の評価と課題 一紙貼り一〉

この結果は、調査用紙の「3. 実践編 紙貼りについて」の①、②、③の回答である。この調査は、クラス担ぎねぶた制作過程の「紙貼り」の実践により、制作後に感じた、制作環境への意見や制作への課題、興味関心への意識を知ることが目的としている。

③は、「1. 製作した作品、製作参加状況について」の④と比較している。

質問③「各工程の調度よいと時間考える時間」の集計方法

③の「調度よいと考える時間」の調査は、各クラスの「実際にかかった時間」と実践後に聞いた「設けてほしい時間」を比較し、適切な各工程の作業時間を知ることが目的としている。

- ・設けてほしい時間…個人の数値を平均化したものを、クラスの意見とした
- ・アンケート（設けてほしい時間）の中で、〇〇日と回答した場合は、1日分は2時間と置き換えた。
- ・個人の時間の中で、〇〇時間～〇〇時間と答えた場合は、その中間とした

調査結果

3. 実践編 紙貼りについて

①難しかった点は何かありますか。またどのような点に苦労しましたか。（記述式）

回答者23人

難しかった点	計23人
・上手く貼れない（破れる、しわになる、細かい部分の貼り方、膨らませる貼り方、キレイに貼れない、紙と紙が重なるところが貼りにくい、ボンドが乾くまで時間がかかって貼れない…等）	14
・上手く切れない（キレイに切れない、形に合わせて切る事、カッターで上手く切れない…等）	4
・ひらひらしてる部分が結構あること（ボンドが点いていない部分に後から気付く）	1
・特になし	3
・無記入	1

表4-18

難しかった点についての考察

半数が上手く貼れないと感じていた。講習会では、貼り方を教えたが、膨らむような貼り方や角度のついた貼り方など、知らせていなかった。講習内で様々な方法を知らせることは、短時間では難しい。大型ねぶたに関わる紙はりの方もベテランでも難しい部分はあると言う。この点については、指導方法を追求していく必要があるだろう。また、どの程度の作品の完成度を基準にしていくかを定めることで、美術科の授業としても、指導しやすいだろう。

②紙貼りは何時間くらい設けられると調度よいと考えますか。(記述式) 回答者23人

クラス	A	B	C	D	E	F	G
実際にかかった時間	11	8	6	7	8	8	16
設けてほしい時間	12(↑+1)	5(↓-3)	11(↑+5)	7	12(↑+4)	7(↓-1)	19(↑+3)

※クラスは、制作したゆるきゅらで表示

表4-19

A : ばりいさん B : メロンくま C : かぼちゃ王子 D : まりもっこり E : ふなっしー F : 小っちゃいおじさん G : にしこ君

調度よいと考える時間についての考察

骨組みの時間の比較とは反対に、時間を多く設けてほしいという結果がでていいる。前の質問の難しい点で挙げられたように、紙貼りが上手くできないことが要因だと考える。今後授業として考えていくと、限られた時間内での制作が求められる。そのためには、上手く貼り、スムーズに作業が進むような能力が必要である。よって、授業の説明やテキストでポイントを押さえ、時間を短縮化させていかなければならないだろう。

③紙貼りにおいて、こんな道具や材料があると良いというアイデアはありますか。

(自由記述式)

アイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・よく切れるカッター (ボンドがつくと固まってすぐ切れなくなるから) ・接着剤 ・ボンドを付けやすくするもの

表4-20

アイデアについての考察

カッターで紙を切るときは、紙を貼っているボンドが生乾き状態で切ることが多い。よって、カッターにボンドがつき、すぐ刃が悪くなってしまう。これは、防ぎようがないため、随時カッターの刃を替えることが良いだろう。瞬間接着剤は、手などの体につくことは避けたいため、木工用ボンドをしようすることを勧めたい。手以外で、ボンドを骨組みに付けやすくするためには、歯ブラシ等を使うと、手が汚れないだろう。

(7) 調査結果〈各工程の評価と課題 一色付け一〉

この結果は、調査用紙の「3. 実践編 色付けについて」の①、②、③の回答である。この調査は、クラス担ぎねぶた制作過程の「色付け」の実践により、制作後に感じた、制作環境への意見や制作への課題、興味関心への意識を知ることが目的としている。

③は、「1. 製作した作品、製作参加状況について」の④と比較している。

質問③「各工程の調度よいと時間考える時間」の集計方法

③の「調度よいと考える時間」の調査は、各クラスの「実際にかかった時間」と実践後に聞いた「設けてほしい時間」を比較し、適切な各工程の作業時間を知ることが目的としている。

- ・設けてほしい時間…個人の数値を平均化したものを、クラスの意見とした
- ・アンケート（設けてほしい時間）の中で、〇〇日と回答した場合は、1日分は2時間と置き換えた。
- ・個人の時間の中で、〇〇時間～〇〇時間と答えた場合は、その中間とした

調査結果

3. 実践編 色付けについて

①難しかった点は何かありますか。またどのような点に苦労しましたか。（記述式）

回答者23人

難しかった点・苦労点	計23人
・ムラがないように塗ること	5
・紙を破らないように色を塗ること	3
・色が混じらないよう塗ること	2
・塗る時の筆につける絵具の量に気をつけること	1
・絵具（ポスターカラー）のときかた	1
・作品に合った色をつくること（色の調合）	1
・キレイに形（目や口など）を描くこと	1
・ロウ塗り	1
・色付けしていない	3
・なし	5

表4-21

難しかった点についての考察

ムラや混色しないようにすることなど、塗り方が難しいという結果である。講習会やテキストでは、ロウの書くポイントを重点に、説明したが、塗り方は指導していなかった。今後は、より美術的な授業をするには、彩色方法や色の解き方など説明を行なうことが必要だと考えられる。結果としては、ロウ塗りの点においては、1名しか挙げられていなかった。一番重点を置き、指導にあたったことは、活かされていたのではないだろうか。

②色塗りは何時間くらい設けられると調度よいと考えますか。(記述式) 回答者23人

クラス	A	B	C	D	E	F	G
実際にかかった時間	8	2	3	3	6	6	3
設けてほしい時間	6(↓-2)	2	6(↑+3)	6(↑+3)	4(↓-2)	4(↓-2)	4(↑+1)

※クラスは、制作したゆるきゃらで表示

表4-22

A: ばりいさん B: メロンくま C: かぼちゃ王子 D: まりもっこり E: ふなっしー F: 小っちゃいおじさん G: にしこ君

調度よいと考える時間についての考察

設けてほしい時間が、足りないクラス、多いと思うクラスに大きく分かれた。色塗りは、最後の仕上げ作業であるため、こだわりやデザインが細かければが時間を必要となってくるだろう。また、制作したねぶたの大きさによっては、塗る面積も多くなる。授業として考えると、時間を2～3時間程度増やすことで、余裕の持てた作業を行なうことができると考える。

③色塗りにおいて、こんな道具や材料があると良いというアイデアはありますか。

(自由記述式)

アイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・平筆 ・大きい筆 ・スプレー ・軟らかい筆

表4-23

アイデアについての考察

筆の種類への要望が多い結果となっている。ねぶたでは、大きな面積を塗ることが多いため、平筆は必要である。また、軟らかい筆でなければ、ねぶたに穴が空いてしまう。スプレー等も使うと、筆とは異なる淡い表現もできるため効果的である。これらを使用することで、より塗りやすい環境となる。だが、スプレー等を用意する予算や、高度な彩色方法を知らせることでより時間がかかってしまうだろう。学校教育の中での取り組みを考えながら、どの程度の表現まで可能とするのかを再考していかなければならない。

(8) 調査結果〈各工程の評価と課題 一台作り一〉

この結果は、調査用紙の「3. 実践編 台作りについて」の①、②の回答である。この調査は、クラス担ぎねぶた制作過程の「台作り」の実践により、制作後に感じた、制作環境への意見や制作への課題、興味関心への意識を知ることが目的としている。

調査結果

3. 実践編 台作りについて

①難しかった点は何かありますか。またどのような点に苦労しましたか。(記述式)

回答者23人

難しかった点・苦労点	計23人
・のこぎりで垂直に切る事	5
・寸法が間違い、部品がハマらなかったこと(設計図の読み取り・正確なけがき)	4
・電気ドライバの打ち方(ねじ打ち)	2
・台作り(木材加工)していない	7
・なし	5

表4-24

難しかった点についての考察

切り方やけがき、ねじ打ちの回答が出ている。講習会では、道具の使い方までは指導していないことが要因である。挙げられた回答はすべて、技術科の授業として指導される内容であるため、授業に入れた際には、これらは改善できると考えられる。寸法通りに、のこぎりが真っ直ぐに切れない点については、クランプなどの道具も使用することで、ぶれにくくなるだろう。

②台作りにおいて、こんな道具や材料があると良いというアイデアはありますか。

(自由記述式)

アイデア
・まっすぐ切るような道具
・キリ
・ボール盤
・時間がほしい

表4-25

アイデアについての考察

真っ直ぐ切る道具については、説明方法を改善し、切る事を学ばせることが必要だと考える。キリ、ボール盤等は、必要に応じて、使用させていきたいと考える。

(9) 調査結果〈ねぶた授業の美術科・技術科導入への意識〉

この結果は、調査用紙の「4. 今後の展望について」の①の回答である。この調査は、クラス担ぎねぶた制作の実践を通して、制作後に感じた、ねぶた授業への意識を知ることが目的としている。

調査結果

①もし、ねぶた制作が美術科（中学・高校）・技術科の教科に含まれるとしたら、あなたはどのように思われますか。（記述式） 回答者22人

意見	人数(全23人)
<u>良い</u>	
・良いと思う	7
・とてもうれしい	2
・地元のお祭りに貢献できる	2
・伝統にふれるいい機会	1
・青森の文化なので関わる機会があるなら、取り入れた方がいい	1
・自分たちの郷土の文化を体験できる	1
・意欲が湧いていい	1
・とても嬉しい、ぜひやってほしい	1
・OK！！	1
・デザインや工作の能力が高まると思う	1
・とても嬉しい作業なので、ぜひ取り組みたい	1
・美術に入ったら、やる気出る	1
・嬉しい限り	1
<u>どっちでもない</u>	
・どうも思わない	2

表4-26

導入について意識への考察

嬉しくないという生徒が一人もいない結果となった。回答の多くには、「とても」、「ぜひ」、「意欲が湧く」など、積極的な意見が多くあり、ねぶた授業への期待を持てる結果である。また伝統や文化を貢献できるなども挙げられていた。これらの意見が出た要因としては、実際にねぶたをつくることで、伝統文化が身近なものへと近づき、興味を惹くことができたからではないか。ねぶたのものづくりには、技術科的、美術科的要素が含まれるため、ねぶたの作業を通して、ものづくりを楽しみながら学ぶことができるカリキュラムは、地元の生徒にとっては、非常に効果的であると考えられる。

第5章 再構成したクロスカリキュラムの提案（結論）

第1節 ねぶた授業実践の課題と対応

第1章から第4章までの調査と実践を通しての課題と、その課題への対応策を挙げる。そして、この対応策を活かし、本章にてクロスカリキュラムによるねぶた授業を提案する。

	課題	課題への対応
授業計画・カリキュラム全般	制作するねぶたのテーマが決められてしまうと、創造性が減ってしまう。	自身で創作できるテーマを決める。（既存のキャラクターでは、ないもの）
	技術科的要素が少ない。	電気配線（電気）やスライド制作（情報）を追加。
	ねぶたを知らせる授業になってしまった。各教科の目的に合わせた授業にするべき。	各教科の目的（単元）を意識した、授業や指導案をつくる。
	ねぶた授業を初めてとりくむ教員には、難しい。	テキストをつくる。
	各作業で早く進んでしまった場合、することが無くなってしまう。	次工程を進めさせる。別教材を考える。
	予算がかかる。	最低限、針金・糸・紙・木材・ボンドあると形はできる。（他の物品は技術科や美術科で持っているだろう）
	各工程にかける制作時間（授業時間）の設定。	青森工業のアンケートをふまえ、時間を再設定する。
骨組み	各グループによって、つくるものが違うため、説明が難しい。	適宜指導する。様々な方法を全体に、知らせる。
	直線や正確な形をつくれなない。	道具を用意する。テキストに記載する。
	針金だけで、立体を作ると、崩れやすい。（バランスがとりにくい）	骨組みの中に、木組みをすることを知らせる。テキストに記載する。
	固定方法以外に、立体づくりについて説明がほしい。	様々な方法を授業で知らせる。（テキストのみの説明は難しい）
	必要な道具がほしい。	道具を用意する。
紙貼り	切り方や貼り方の説明を詳しくする。	様々な方法を授業で知らせる。（テキストのみの説明は難しい）
	必要な道具がほしい。	道具を用意する。
色付け	キレイな塗り方をしたい（ムラや混色しない）。	様々な方法を授業で知らせる。（テキストのみの説明は難しい）
	必要な道具がほしい。	道具を用意する。
台作り	けがきや接合がうまくできない。	技術科の授業で、詳しく説明を行なう。
	必要な道具がほしい。	道具を用意する。

第2節 指導計画

(1) 制作物の設定

制作するねぶた内容は、青森工業高校で実践したねぶた「クラス担ぎねぶた」である。制作するテーマは、既存のキャラクターが定まらないテーマがふさわしい。このテーマは各美術科で定めることとする。制作工程等は、クラス担ぎねぶたと同様である。異なる点は、一つのねぶたを技術科と美術科の授業に分け、各分野に当てはめて、制作を行なうこと。そして、クラスで一台ではなく、5人程度の班で一台制作する。(必ずしも、これとは限らない。制作するねぶたを大きくして、多数での制作にするのもよい。)

(2) 各教科の指導範囲

各教科の授業範囲は、以下の通りである。色付き枠内の数字は、授業時間（設定時間）である。矢印は、ねぶたと台の移動を表している。以下の図に記していない単元は、平常通りの授業（ねぶた授業ではない）。クラス替えにより、3年間を通せない場合は、指導順番を变形させてもよい。

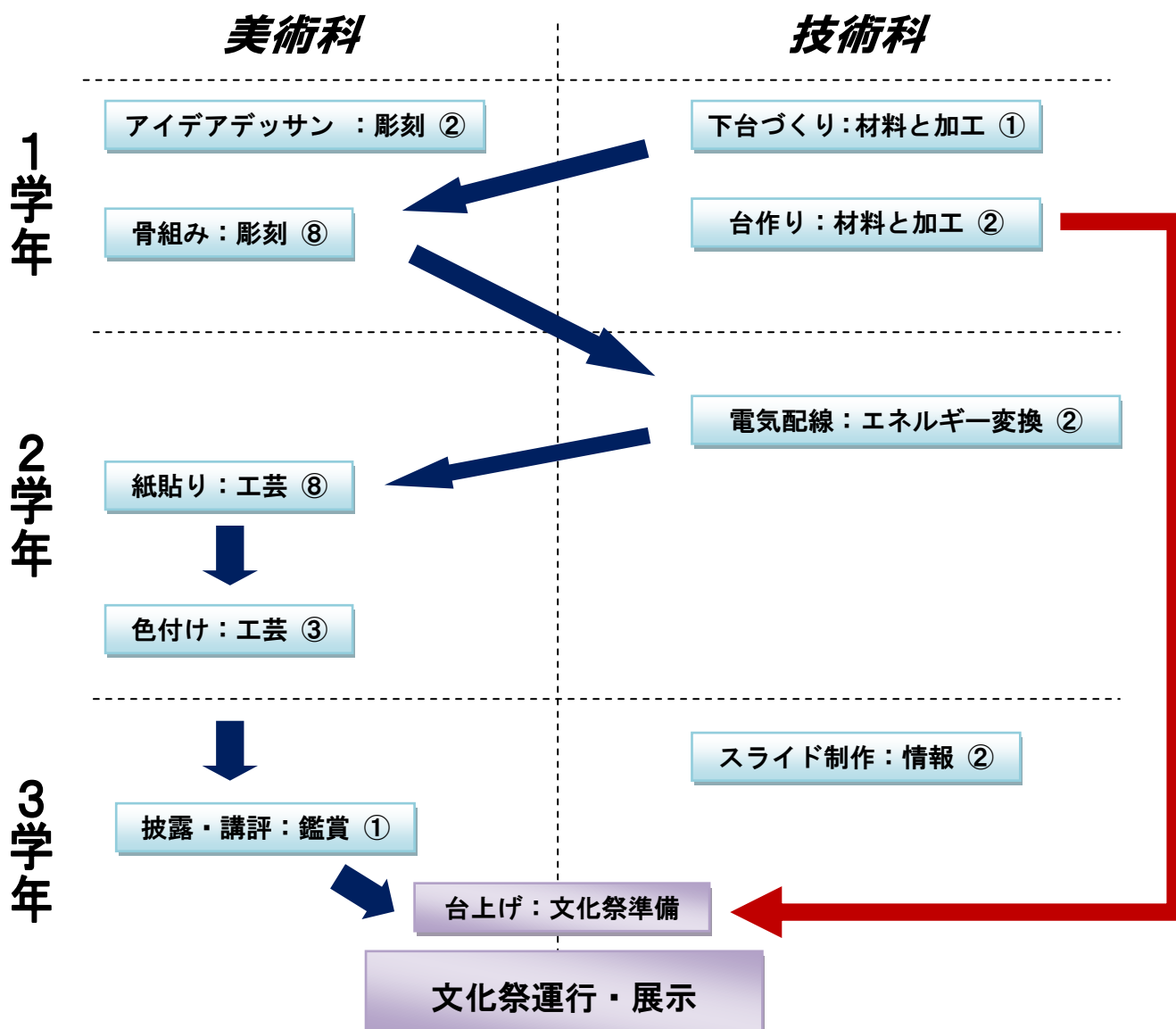


図5-1

(3) ねぶた授業の単元計画

クラスカリキュラムによる、3年間を通した計画をしている。美術科は22時間分(3年間)、技術科は7時間分(3年間)を想定している。

学年	時間	教科	単元・題材・主題	ねらい・学習内容	学習指導要領
					目標・各学年の目標
1	2	美術	表現【彫刻】 「担ぎねぶた制作 アイデアデッサン」	テーマの特徴をとらえ、立体のイメージをしながら、発想・構想をまとめる。	A 表現 (1)ア、イ 〔共通事項〕 (1)ア、イ
	1	技術	材料と加工【木材加工】 「担ぎねぶた制作 下台づくり」	木材を正確にけがき、接合を行なう。電気ドリルでのビス留めの方法を学び、下台組み立てを行なう。	A材料と加工 (2)ア、イ
	8	美術	表現【彫刻】 「担ぎねぶた制作 骨組み」	テーマの特徴をとらえ、素材の特性を活かし立体を制作する。 曲線や鋭角など、針金の曲げ特性を考えながら、制作を行なう。部品を接合や全体構成など、創造的に制作を進める。	A 表現 (1)ア、イ (3)ア、イ 〔共通事項〕 (1)ア、イ
	2	技術	材料と加工【木材加工】 「担ぎねぶた制作 台作り」	材料取りや組み立てにおいて、正しく道具や機器を使い、正確な台を作り上げる。	A材料と加工 (2)ア、イ
2	2	技術	エネルギー変換【電気】 「担ぎねぶた制作 電気配線」	灯りの配置と配線を行なう。限られた容量をもとに、ソケット・電球を取り付け、配線ができるようになることが目的である。テスター等を用いて、点検もできるようにする。	Bエネルギー変換 (2)ア、イ
	8	美術	表現【工芸】 「担ぎねぶた制作 紙貼り」	骨組みへの紙貼りでは、張り加減や膨らみを見ながら、その面や全体の形を考えながら、見通しをもって紙貼りを行なう。	A 表現 (3)イ 〔共通事項〕 (1)ア、イ
	3	美術	表現【工芸】 「担ぎねぶた制作 色付け」	白い立体キャンバスとなったねぶたに、アイデアデッサンをもとに、色付けをしていく。ロウや墨の特性や電球の灯り方を考えながら、表現をする。	A 表現 (1)イ (2)ア、イ 〔共通事項〕 (1)ア、イ
3	2	技術	情報【デジタル作品】 「担ぎねぶた制作 スライド制作」	パワーポイント(ソフト)を使って、画像やデータを取り込み、スライドの構成を行なう。自身の班の完成されたねぶたを、パワーポイントの効果を活かし、表現できるようにする。	D 情報 (2)ア、イ
	1	美術	鑑賞 「担ぎねぶた制作 披露・講評」	作品を比較鑑賞し、それぞれの表現方法の特徴や違い、制作者の意図などを考えながら、鑑賞の楽しさを味わい、造形的美しさや伝統文化への理解と愛情を深める。	B 鑑賞 (1)ア、ウ 〔共通事項〕 (1)ア、イ
	放課後 文化祭		台上げ(ねぶたと台の固定) 運行・展示	技術で製作した台に、ねぶた本体(下台)を固定し完成。 文化祭で運行、展示。	

表5-2

※技術科の授業「材料と加工」、「エネルギー変換」におけるねぶた授業は、従来のものづくりにプラスしたものであるため、メイン教材ではない。(例)材料と加工であれば、のこぎり引きの練習など小単元の目標を果たすためのものである。

※台作り以外の授業は、必ず表の上から順に実施しなければ、完成できない。台は、台上げまでに作り上げることが条件である。

(4) 授業構成

全22時間のねぶた授業の各科による、導入部分を構成している。詳しい作り方や工程は、第4章の実践の授業案やテキスト、資料に添付した新テキスト「佞武多をまなぶ」に記載している。

*表内の評価の観点について

《美術科》(関)…関心・意欲・態度 (発)…発想や構想の能力 (創)…創造的な技能 (鑑)…鑑賞の能力

《技術科》(関)…関心・意欲・態度 (工)…工夫し創造する能力 (技)…生活の技能 (知)…知識・理解

《美術科》 担ぎねぶた制作 アイデアデッサン

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①ねぶたについて学ぶ ・由来、工程、ねぶた、ねぶたの違い ・様々なねぶたを見る	・スライドや資料で説明	・伝統文化とその技についての表現のよさや価値、違いについて学びとろうとしている、関心を持つようとしている。(関)
②制作するねぶたの大きさや期間の説明	・黒板に書く、またはスライドで説明	
③アイデアデッサン開始(色鉛筆など)	・アイデアデッサン用紙	・テーマを読み取り、自分らしい構成や工夫をし、構想している。(発)
物品		
アイデアデッサン用紙、色鉛筆等の画材		

《技術科》 担ぎねぶた制作 下台づくり

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①材料取りの説明 ・のこぎり、スケール、さしがね	・教員は、始めに、師範や道具を見せながら説明を行なう	・工具や機器を加工法に応じて適切に使用できる(技・知)
②道具の使用方法について ・電気ドライバー		
③材料取り、組み立ての実践	・クランプ等やのこぎりが正しく使われているのかをみる。	
物品		
のこぎり、スケール、さしがね、クランプ、電気ドライバー、ビス、角材		

《美術科》 担ぎねぶた制作 骨組み

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①針金の固定方法（十字と並行）を練習する ②様々な立体への起こし方を知らせる ③又釘の使い方を知らせる ④木組みの仕方 ⑤骨組みを実践	・木の棒とロープを使用 ・練習用の針金配る ・スライドや実物を使用 ・教員が師範 ・スライドを使用	・針金や木材を適切な方法で固定し、彫刻的な美しさや量感を形を作り出している。（創） ・共働的な作業に努め、積極的に追求しようとしている。（関）
物品		
木の棒、ロープ、生徒に配る練習用針金（一人4本）、糸、ボンド、ペンチ、針金、角材、下台（技術科で製作したもの）、又釘、ビス、電気ドライバー、のこぎり、スケール、テキスト		

《技術科》 担ぎねぶた制作 台作り

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①のこぎりびき、電気ドリルの使用方法などの確認 ②台作りの実践	・数名の生徒に、道具を任せ、確認する。 ・角材を配る	・工具や機器を加工法に 応じて適切に使用できる。（技・知）
物品		
のこぎり、スケール、さしがね、クランプ、電気ドライバー、ビス、角材、テキスト		

《技術科》 担ぎねぶた制作 電気配線

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①並列、直列、定格値などを学ぶ ②ケーブルの芯の剥き方を練習 ③電球の配置、電力量を考えさせる（用紙に記入） ④電気配線の実践 ⑤配線後の確認（テスターでの導通試験）	・問題を出しながら、説明を行なう ・ケーブルの余りを渡し、練習させる ・用紙を配る ・必要な物品を配る ・教員も立ち会い、確認する	・電気機器の定格表示や安全に関する表示についての意味、適切な工事方法についての知識を意識し、作業に取り組んでいる。（知・技・関）
物品		
ねぶた本体（骨組みを終えたもの）、練習用ケーブル、ケーブル（本番用）、コンセント、ドライバー、ペンチ、ケーブルストリッパ、電球、ソケット、ビニールテープ、配線記入用紙、テスター		

《美術科》 担ぎねぶた制作 紙貼り

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①【導入】様々なランプシェードや、灯りを用いた造型作品の紹介 ②紙貼りの方法や、貼り方の特徴を知らせる。 ③紙貼りの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで、紹介する ・スライドで、紹介する ・必要な物品を渡す ・見回りながら、説明を加える 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な紙貼り方法を行える。張りや膨らみなどの特徴をとらえ、表現している。(創)
物品		
ねぶた本体（電気配線後のもの）、奉書紙、ボンド、歯ブラシ		

《美術科》 担ぎねぶた制作 色付け

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①ねぶた技法を用いた造型やねぶたを見せて、ロウの特性や色の灯り方を学ぶ ②ロウを書く練習をする ③色付けの実践を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで説明を行なう ・実際に、教員が師範して見せる ・見まわりながら、説明を加える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロウや墨など、ポイントをおさえた、描き方をしている。彩色では、美しさを追求した表現をしている。(創) ・分担をし、仲間と協力するように作業を進めようとしている。(関)
物品		
ねぶた本体（紙貼りを終えたもの）アイデアデッサン、筆（彩色筆、平筆、墨筆、ロウ筆）、墨、ロウ、フライヤー（ロウ容器として）、色付け容器、絵具（ポスターカラー、染料）、テキスト		

《技術科》 担ぎねぶた制作 スライド制作

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①パワーポイント（ソフト）の操作方法、効果を説明 ②様々な操作をやってみる（生徒） ③ねぶたの写真を撮影する ④スライドの制作を実践 ・美術での鑑賞（発表）に向けたスライドを作る	・パソコン操作を、見せながら、説明を行なう ・分からない生徒には、適に指導 ・デジタルカメラで撮影 ・見回りながら、説明を加える	・制作に基づき、ソフトウェアの特徴を活かし、多様な表現手段を行ない、構成できる。（技・知・工）
物品		
パソコン（スライド制作ソフトが入っているもの）、デジタルカメラ、ねぶた本体（色付けを終えたもの）		

《美術科》 担ぎねぶた制作 披露・講評

授業の展開	主な教具・教材・備考	評価の観点
①制作したスライド発表をする。 ②完成されたねぶた本体を見合う ・コメント用紙に記入しながら、ねぶたを見まわる ③数名に、コメントを発表してもらう ④青森ねぶた祭の映像を鑑賞 ・伝統文化を体感 ・文化祭運行に向けて、意識を上げる	・プロジェクター、パソコンを準備 ・コメント用紙配布 ・ビデオを流す	・他班の作品発表と作品を鑑賞して、ねぶたらしい技や表現のよさを味わっている。（鑑） ・作者の意図や伝統文化について、関心を持つようとしている（鑑・関）
物品		
ねぶた本体、プロジェクター、パソコン、コメント用紙、ビデオ		

第3節 クロスカリキュラムによるねぶた授業への期待

本研究では、幾度のねぶた授業（小学校・特別支援等）による成果と課題を割り出し、再構成し、最後にクロスカリキュラムにおけるねぶた授業を提案した。ここで、提案し、ねぶた授業は過去にない、本格的なねぶたづくりである。従来は、主に金魚ねぶたづくりなどの簡易的なねぶた制作は、図画工作や美術、総合的な活動の時間において行なわれていた。しかし、これは、児童生徒に、より分かりやすく簡単な方法で作業させるスタンスであり、本場のねぶたづくりとは異なり、少し劣化させたような制作方法であると考えられる。この方法では、ねぶたを少しでも身近なものへと感じさせることはできるが、一方では生徒にとって、ねぶたづくりはこんな簡単なものだと思わせてしまう可能性もあった。そのため、本研究では、本格的なねぶた制作方法で、ねぶた制作がフルに堪能できるように、各教科との連携を図った。

クロスカリキュラムによる、ねぶた授業は、美術科と技術科の連携により、ねぶた技法と工程を一連で教えることができるようになった。ねぶたを教え、かつ、各教科の目標や指導内容に合わせ、ねぶたと各教科の双方に学びを与えることができるのである。美術科においては、普段あまり取り上げないような異種な材料や技法を知らせ、日本の祭りとしての文化的な芸術として、幅広い観点を学ぶことができる。そして、技術科では、継続的なものづくりを行なうことができる。技術科の授業内容は、材料や加工、エネルギー系、生物育成、情報に分かれているため、その内容ごとに一つのモノを作るような端的になりがちである。しかし、ねぶた授業は、台作りによる木材加工、ねぶたの電気配線、情報によるスライドの作成など、3年間を通した一つのものづくりを可能とする（生物育成は、本カリキュラムには含まない）。3年間を通した計画は、あくまでベースであるため、クラス替え等により3年間を通せない場合は、縦割りで協力してもものづくりを進めることや内容を移動し、他学年に移すなど、自由に變形することで可能となる。

また、ねぶた授業実践による楽しかった点において、生徒からは、「みんなと作業（協力）できたこと」「みんなと仲を深めることができた」など、作業自体ではない部分の声も挙がっていた（青森工業高校 クラス担ぎ調査より）。このような結果は、ねぶたという協働的なものづくりの特質が、生徒間の人間関係における言語活動（コミュニケーション）や協調性が身に付けさせたのだと考える。美術科や技術科によるものづくりにおいても、個人での制作活動や、個人への教材が渡されていることが目立ち、共同作業は減少していると思われる。このような面においてもねぶたという共に働くような協働的活動は、学習指導、生徒指導、学級指導においても有効であると考えられる。

さらに、ねぶた授業は、ねぶたという文化財を知らせることは、社会性や子どもたちや郷土愛へと繋がるかけ橋となる題材であると考えられる。実際にねぶたをつくることによって、子どもたちは、ねぶたと教科に取り入れることは、「意欲が湧く」「伝統に触れるいい機会」「地元のお祭りに貢献できる」「とても嬉しい」など意見が目立った（青森工業高校 クラス担ぎ調査より）。これらの結果からも、少しばかりであるが、子どもたちへねぶた制作を身近なものへとさせているのではないだろうか。また、ねぶたの全工程を一連で教えることによって、ねぶた制作への苦勞を知り、ねぶたの価値の重みを感じることで、今後のねぶた祭への意識が少しでも変わっていくだろう。

このねぶた授業は、中学校のみならず各校種で実施頂けたら、幸いである。その場合には、過去のねぶた授業（北小学校や特別支援学校）を参考にするとよいだろう。また、ねぶた制作や工程が先生方にとっても分かりやすく、学べるように、本論文の最終的な教材として、新しくテキストをつくった。『倭武多をまなぶ』*は、クラス担ぎねぶた制作を基本としているが、一部を利用して頂くことでも技法を学ぶ上では効果的である。そして、子どもたちへ配ることで、マニュアルとして利用できる。（本研究のねぶた技法は、筆者が教育的な視点を盛り込み提案したもので、本場の方法と全く同じものではない。）

最後に、本研究は、ねぶた祭やねぶた制作という文化財を、多くの子どもたちが気を留め、郷土への愛や関心を高めてほしいという願うものである。

謝辞

本論文の作成にあたり、多くの方に協力をいただきました。実践調査にあたっては、弘前市立北小学校の児童と関係する先生方、弘前大学教育学部附属特別支援学校の生徒と関係する先生方、青森県立青森工業高等学校の生徒と関係する先生方、協力して頂き有難うございました。又、青森県立青森工業高等学校の研究実践では、教材の開発において、ご指導やご助言をくださいました工藤啓太先生、さらに、最後まで、本研究・論文作成のご指導やご助言をくださいました大谷良光先生、皆さまには深く感謝申し上げます。

註・参考文献 一覧

- 1) 文部科学省 小学校学習指導要領 (2008 年度版)
中学校学習指導要領 (2008 年度版)
高等学校学習指導要領 (2008 年度版)
- 2) 教育基本法 (平成 2006 年 12 月 22 日法律第百 20 号)
第 2 条 教育の目標は次のようである。
 1. 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
 2. 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
 3. 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
 4. 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
 5. 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
- 3) 中央教育審議会答申
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」
 5. 学習指導要領改訂の基本的な考え方は、次のようである。
 - (1) 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
 - 具体的には、教育基本法第 2 条に規定された教育の目標において、今後の教育において重視すべき理念として、従来から規定されていた個人の価値の尊重、正義と責任などに加え、新たに、公共の精神、生命や自然を尊重する態度、伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことなどが規定された。このような観点から、今回の改訂においては、7. で示すとおり、伝統や文化に関する教育や道徳教育、体験活動の充実、環境教育などを重視し、道徳のほか、社会や理科学科、音楽や美術、特別活動といった教科等の具体的な教育内容を改善する必要がある。
- 4) 青森県教育施策の方針 (2005 年 1 月 12 日決定)
青森県教育委員会は、豊かな心と郷土に対する誇りを持ち、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育未来へ伝える貴重な文化財の保存・活用活力と感動を生み出すスポーツを、市町村教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら推進します。
- 5) 以下の書籍を参照のこと。(一文抜粋)
河合清子：青森ねぶた祭り実行委員会公認公式ガイドブック『ねぶた祭 “ねぶたバカ” たちの祭典』角川書店、2010 年 頁 3
- 6) 青森ねぶた保存伝承条例 (2006 年 4 月 1 日 条例第 55 号)
第 4 条の目的は次のようである。
 - 一 教育の場における青森ねぶたの保存及び伝承についての教育
 - 二 地域等における青森ねぶたの保存及び伝承についての啓発、育成及び支援
 - 三 事業者に対する青森ねぶたの保存及び伝承に必要な措置の要請
 - 四 青森ねぶたの保存及び伝承に関する活動の指導者の育成及び支援
 - 五 青森ねぶたを取り巻く社会環境の健全化活動の推進
 - 六 青森ねぶたの文化的活用の推進及び振興

-
- 7) 以下の書籍を参照のこと。(一文抜粋)
青森ねぶた誌出版委員会：『青森ねぶた誌』(2000) 青森市 頁 168
- 8) 文化財保護法(2011年5月2日法律第37号)
第1章の総則は次のようである。
第一章総則 文化財の定義第二条 三項 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術で、わが国の国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの
- 9) 大谷良光・立田健太・井上怜央：「青森ねぶた・弘前ねぶたへの子どもの関わりと意識～青森市・弘前市内小学校4年生を対象とした調査～」(2006)
- 10) 蛭名敦子・古川香；弘前大学教育学部研究紀要クロスロード 第17号「図画工作における地域性を視野に入れた教材化—ねぶたの灯籠製作をめぐる—」, (2013)
- ・文部科学省：『中学校学習指導要領解説 美術編』(2008) 日本文教出版
 - ・文部科学省：『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』(2008) 日本文教出版
 - ・大谷良光編：『ねぶた・ねぶたと津軽の子ども・学校』(2012)ねぶた・ねぶたと学校教育研究プロジェクト
 - ・青森県立青森工業高等学校：『創立百周年記念誌 青工百年史』(2013) 創立百周年記念事業協賛会
 - ・青森ねぶた誌出版委員会：『青森ねぶた誌』(2000) 青森市
 - ・澤田繁親：『龍の夢 ねぶたに賭けた男たち』(2004) ノースプラットフォーム
 - ・澤田繁親：『龍の伝言 ねぶた師列伝』(2006) ノースプラットフォーム
 - ・河合清子：青森ねぶた祭り実行委員会公認公式ガイドブック『ねぶた祭 “ねぶたバカ”たちの祭典』角川書店(2010)
 - ・高橋翔龍：『ねぶたをつくる—役立つねぶたづくりのマニュアル書—』(2005)高橋憲彦
 - ・『隔月刊 別冊 あおもり草子』 企画集団ぷりずむ
 - ・キャンパスフォトツアー | 京都造形芸術大学
(<http://www.kyoto-art.ac.jp/photo/life.php#photo-11>) (2014/2/17 アクセス)

* テキスト『倭武多をまなぶ』 は、以下のHPにPDFデータとして登載。教材として使用できます。
弘前大学ネットパトロール隊 (<http://www.hiro-univ-netpat-otani.com/>)